

Clavinova®

CVP-701

取扱説明書

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず5～8ページの「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については巻末をご参照ください。

オートパワーオフ機能

この楽器には、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能が搭載されています。オートパワーオフ機能とは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。詳しくは18ページをご覧ください。

目次

取扱説明書について	4
付属品(お確かめください).....	4
安全上のご注意.....	5
注記(ご使用上の注意)	9
お知らせ	10

こんなことができます 12

各部の名称 14

操作パネル.....	14
------------	----

ご使用前の準備 16

キーカバーを開ける/閉める.....	16
譜面立てを使う	16
電源の準備.....	17
電源を入れる/切る	18
音量(マスターボリューム)を調節する	19
ヘッドフォンを使う	20
画面に表示される言語を切り替える	21
画面の明るさを調整する	21
オープニング画面にオーナーネーム (OWNER NAME)を表示する	22
ペダルを使う	23
デモを見る.....	24
画面の操作方法	25
画面に表示されるメッセージの操作方法	28
目的の画面をすばやく表示させる (ダイレクトアクセス)	28
メイン画面の見かた	29
ファイル選択画面の見かた.....	30
ファイル/フォルダーを管理する	32
文字を入力する	36
データのバックアップ	38
設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)	39

1 ピアノ演奏を楽しむ(ピアノルーム) 40

ピアノルームで演奏する.....	40
ピアノ演奏で他の楽器とセッションする.....	41
ピアノルームの設定を変える/初期化する	42
ピアノルームの演奏を録音する	43

2 いろいろな楽器音で演奏する (ボイス) 44

内蔵のボイスを選んで弾く	44
ピアノ演奏の初期設定に戻す (ピアノリセット)	48
ピアノ演奏の初期設定のまま固定する (ピアノロック)	48
VRM機能による弦共鳴音を楽しむ.....	49
スーパーアーティキュレーションボイスを 使う	50
音の高さを半音単位で調整する (トランスポーズ)	50
ボイスにエフェクト(効果)をかける	51
オルガン音色を作る	53
鍵盤を弾いたときの感度を設定する	55
メトロノームを使う	56

3 リズムや自動伴奏を鳴らす (スタイル) 58

スタイルに合わせて演奏する	58
コード表.....	60
コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を 変える.....	60
スタイル再生を操作する.....	62
テンポを変える	63
選んだスタイルに最適なボイスなどを呼び出す (ワンタッチセッティング=OTS)	64
演奏に合うスタイルを呼び出す (スタイルレコメンダー).....	65
パートごとに鳴らす/鳴らさないを設定する、 ボイスを変える	67
スタイル再生音と手弾き音の音量をそれぞれ 調節する	68
スプリットポイントを変更する	69

4 曲(ソング)を再生、練習する	71
ソングを再生する	71
譜面を表示する	74
歌詞を表示する	75
ソングをチャンネルごとにオン/オフする	75
ガイドランプを使って片手ずつ練習する	76
繰り返し再生を使って練習する	77
複数の曲を連続再生する	78
5 演奏を録音する(MIDI)	79
クイック録音	79
データを保存する	81
右手、左手別々に録音して1曲仕上げる (多重録音)	82
6 演奏を再生/録音する(オーディオ)	84
再生する	84
録音する	88
7 マイクを接続して弾き語りをする	90
マイクを接続する	90
8 弾きたい曲に合ったボイスや自動伴奏 (スタイル)などを呼び出す(ミュージック ファインダー)	92
曲に合ったパネル設定を選ぶ	92
パネル設定を検索する	95
9 パネル設定を登録する (レジストレーションメモリー)	97
パネル設定を登録する	97
登録したパネル設定をファイルとして 保存する	98
登録したパネル設定を呼び出す	99
10 音量バランスや音色などを調節する (ミキサー)	100
ミキサーの基本操作	100

11 他の機器と接続して演奏する	103
外部オーディオ機器と接続する	103
マイクやギターをつないで使う ([MIC/LINE IN]端子)	104
フットスイッチやフットコントローラーを 接続する	105
USB機器を接続する	106
コンピューターと接続する	108
iPhone/iPadと接続する	108
外部MIDI機器と接続する	110
12 楽器全体に関する設定	111
基本操作	112
13 資料	113
組み立て方	113
困ったときは	116
よくあるお問い合わせ	119
パネルボタンチャート	122
仕様	125
索引	128
保証とアフターサービス	131

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

クラビノーバの基本機能について説明しています。



データリスト

ボイス名、スタイル名などのリストを掲載しています。

電子マニュアル(PDF形式)



リファレンスマニュアル

クラビノーバの詳細設定や、自分でスタイル(3章)やソング(4章)を作成する方法について説明しています。



iPhone/iPad接続マニュアル

この楽器をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、MIDIデータを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。

上記マニュアルは、ヤマハのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、モデル名を入力して検索してください。

ヤマハ | サポート・お問い合わせ「取扱説明書」
<https://jp.yamaha.com/support/manuals/>

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- 保証書
- 製品登録のご案内
- データリスト
- iPad留め具(ホルダーセット)(113ページ)
- 電源コード
- ヘッドフォン
- イス

ハンドルを時計回りに回すと高くなります。
(ご購入時には、ハンドルは固めに締められています。)

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

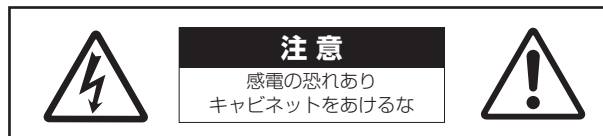


注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」



警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。
故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

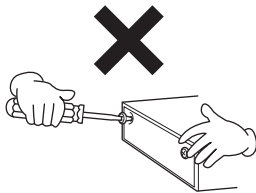
電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおい煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などをはさまないように注意する。

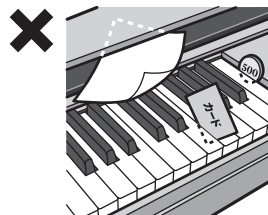
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。
イスが転倒して、お客様やほかの方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしったりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。
イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるみ、お客様がけがをする原因になります。ネジがゆるんだ場合は、工具で締め直してください。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。
背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⓪](スタンバイ / オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[⓪](スタンバイ / オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

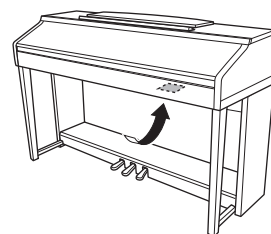
DMI-6 4/4

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(bottom_ja_02)

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone、iPad、iPod touchのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone、iPad、iPod touchの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意してご使用ください。
イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

■製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■データの保存に関する注意

- 録音したソング、編集したソング/スタイル/ボイスやMIDI設定などは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(18ページ)により電源が切れた場合も同様です。保存しておきたいデータは、本体またはUSBフラッシュメモリーに保存してください(81ページ)。
- この楽器本体内のデータと設定は、バックアップファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存できます。保存したデータや設定は楽器に戻して再現ができます。大切なデータや設定は、故障や誤操作などによる消去に備え、USBフラッシュメモリーに保存してください(38ページ)。
- USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、106ページをご覧ください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。
- 日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイルWnnを使用しています。
“Mobile Wnn” © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

対応フォーマット



GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張した音源フォーマットです。多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。GMシステムレベル2に対応したMIDI機器では、GMシステムレベル1で制作されたミュージックデータも再生できます。

* メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。



「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハが提唱する音源フォーマットです。このフォーマットで制作されたデータは、広く普及しているXG対応機器やPCソフトウェアで再生することができます。



ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。



ソングデータの代表的なフォーマットであるSMF (スタンダードMIDIファイル)をより拡張し、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のMIDIファイルのフォーマットです。



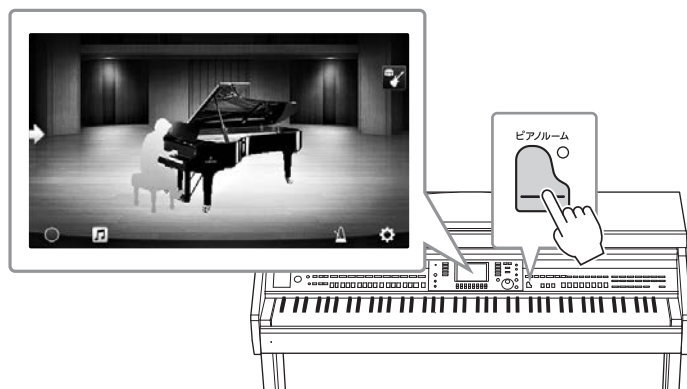
スタイルファイルフォーマットGE (ギターエディション)

「スタイルファイルフォーマット(SFF)」とは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。SFF GEは、ギターの表現力をさらに高めた、SFFの拡張フォーマットです。

こんなことができます

こんなことができます

まずは、本格的なピアノ演奏を楽しもう！



ピアノ音源は、ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFX と、ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社* のフルコンサートピアノから収録。グランドピアノと同様に、高速の同音連打も可能な鍵盤を搭載し、グランドピアノを弾いているような感覚で演奏できます。また、打鍵とペダル操作のタイミングや強弱によって、複雑に変化するグランドピアノの共鳴音をリアルに再現するVRM機能を搭載。多彩な演奏表現が可能になりました。

ピアノ演奏をさらに楽しみたいときは、ピアノルームがおすすめです。ピアノルームでは、ピアノの種類や演奏する空間(音響効果)を選択可能。さらに、1人でも他の楽器とセッションするような演奏が楽しめます。

* ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。

▶▶▶ 40ページ

さまざまな音楽ジャンルの曲を弾こう！

ピアノ以外にも、オルガンやギター、サックスなどあらゆる音楽で使われる、さまざまな楽器音(ボイス)を演奏することができます。さらに、「スーパーアーティキュレーションボイス」なら、それぞれの楽器特有の奏法から生まれる表情までリアルに再現。ギターと指の摩擦音やサックスのプレス音、滑らかなレガートなど、演奏に細かい表情を付けることができます。

▶▶▶ 44ページ

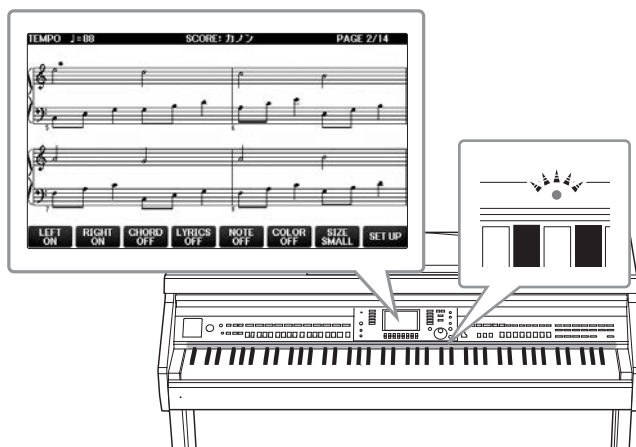
豪華な伴奏をバックに演奏を楽しむ

「スタイル」と呼ばれる自動伴奏機能を使うと、コードを弾くだけで、専用のバックバンドが伴奏をしてくれます。ポップスやジャズなどから好みのスタイルを選んで演奏してみましょう。イントロやエンディングを付けたり、フィルインしたりと、リアルタイムのアレンジも可能です。



▶▶▶ 58ページ

譜面とガイド機能で楽しくレッスン！



レッスンに役立つ、譜面表示機能や鍵盤ガイドランプも搭載されています。鍵盤ガイドランプが、次に弾く鍵盤の位置やタイミングを教えてくれるので、楽譜が苦手な方やピアノが初めての方でも安心です。

▶▶▶ 76ページ

カラオケも弾き語りも！



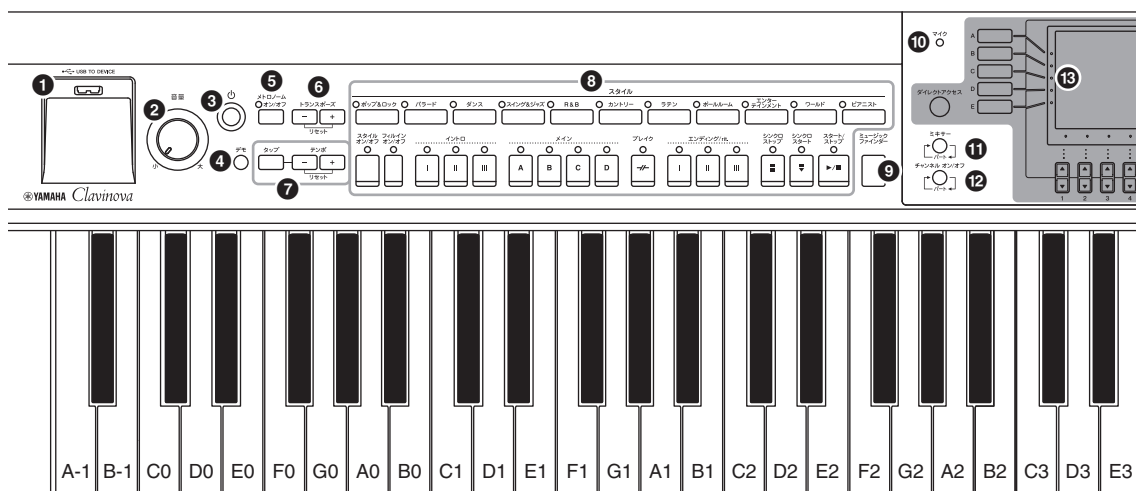
クラビノーバに歌詞*を表示させて、マイクをつなげば、家でも本格的な弾き語りを楽しめます。また、オーディオ曲のボーカル部分を消音して、オリジナルの曲をバックに歌ったり演奏したりできます。

* 曲データに歌詞情報が含まれている場合のみ。

▶▶▶ 75、90ページ

各部の名称

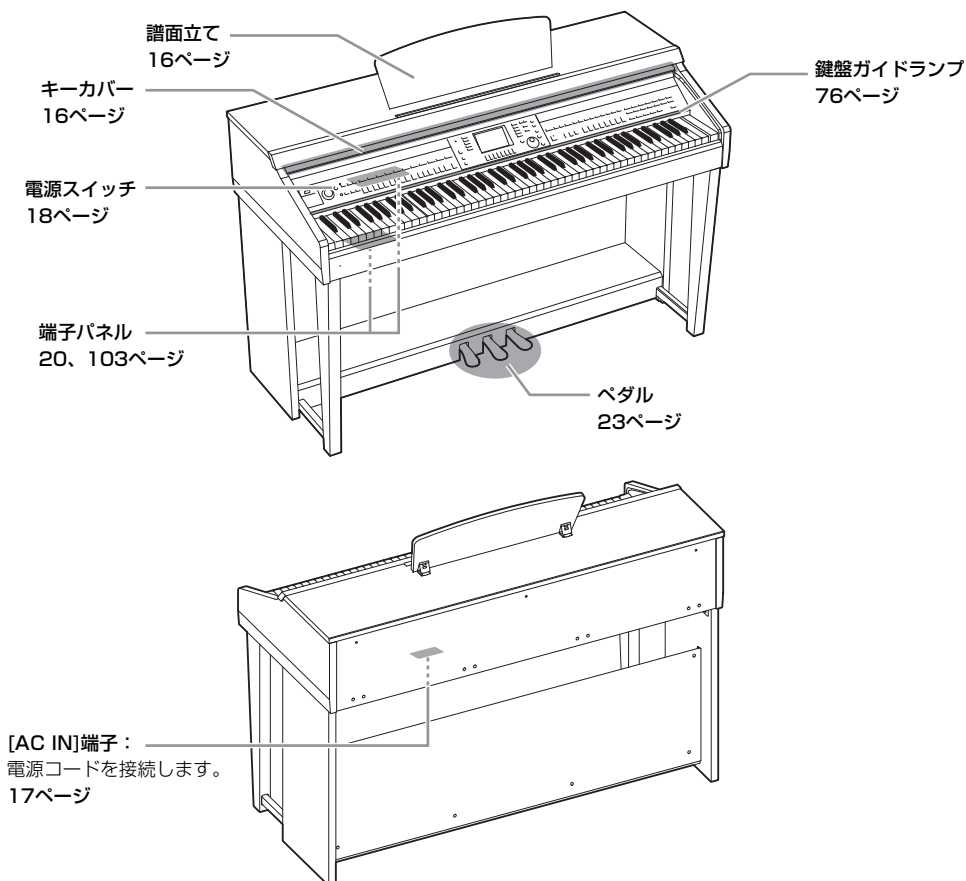
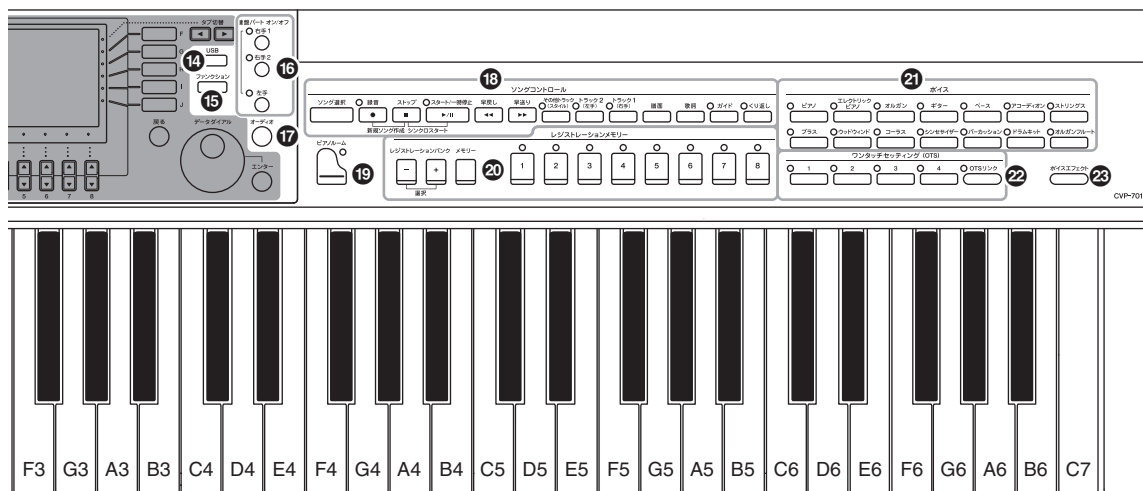
操作パネル



パネル設定(楽器の設定)

この楽器では、操作パネルにあるボタンを使ってボイスやスタイルの選択、チューニングなどさまざまな設定ができます。これらパネル上のボタンを使って作られた設定を「パネル設定」または「楽器の設定」と呼びます。

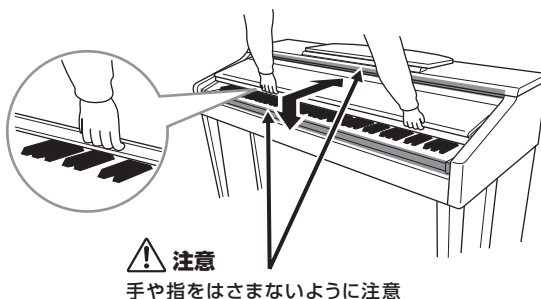
- | | |
|---|---|
| <p>① [USB TO DEVICE]端子 106ページ
USBフラッシュメモリーを接続します。</p> <p>② [音量]ダイヤル 19ページ
楽器全体の音量を調節します。</p> <p>③ [⏻] (スタンバイ/オン)スイッチ 18ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。</p> <p>④ [デモ]ボタン 24ページ
楽器のデモを再生します。</p> <p>⑤ [メトロノーム オン/オフ]ボタン 56ページ
メトロノームを鳴らします。</p> <p>⑥ トランスポーズボタン 50ページ
半音単位で移調します。</p> <p>⑦ [タップ]/テンポボタン 63ページ
ソングやスタイルなどのテンポを調節します。</p> <p>⑧ スタイルボタン 58ページ
スタイルを選んだり、スタイル再生をコントロールしたりします。</p> <p>⑨ [ミュージックファインダー]ボタン 92ページ
弾きたい曲にあったパネル設定を呼び出します。</p> <p>⑩ [マイク]ランプ 90ページ
マイク使用時の入力レベルを確認します。</p> <p>⑪ [ミキサー]ボタン 100ページ
鍵盤パート間やソング/スタイルチャンネルごとの、音量バランスや音色調節をします。</p> <p>⑫ [チャンネル オン/オフ]ボタン 67、75ページ
スタイルやソングの各チャンネルをオン/オフします。</p> | <p>⑬ 画面コントロール 25ページ
画面の表示内容进行操作します。</p> <p>⑭ [USB]ボタン 31、84ページ
USBフラッシュメモリー内のデータを選びます。</p> <p>⑮ [ファンクション]ボタン
詳細設定をしたり、スタイルやソングを制作したりします。
(ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」参照)</p> <p>⑯ 鍵盤パート オン/オフボタン 47ページ
鍵盤パートをオン/オフします。</p> <p>⑰ [オーディオ]ボタン 84ページ
オーディオ録音/再生機能を使用します。</p> <p>⑱ ソングコントロールボタン 71ページ
ソングを選んだり、再生したりします。</p> <p>⑲ [ピアノルーム]ボタン 40ページ
ピアノ演奏に適した設定を呼び出したり、セッションしたりします。</p> <p>⑳ レジストレーションメモリーボタン 97ページ
パネル設定を保存したり、呼び出したりします。</p> <p>㉑ ボイスボタン 44ページ
ボイスを選びます。</p> <p>㉒ ワンタッチセッティング(OTS)ボタン 64ページ
スタイルに連動して最適なパネル設定を呼び出します。</p> <p>㉓ [ボイスエフェクト]ボタン 51ページ
ボイスにさまざまなエフェクトをかけます。</p> |
|---|---|



ご使用前の準備

キーカバーを開ける/閉める

キーカバーを開けるときは、少し持ち上げて、奥へ押し込みます。
閉めるときは、手前に引いて、静かに下ろします。



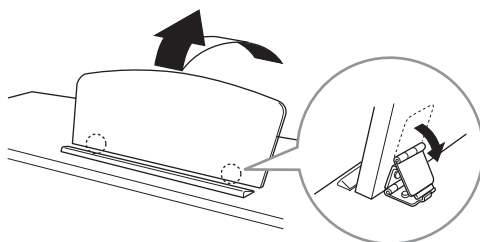
! 注意

- キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

譜面立てを使う

立てるとき

- 1** 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
- 2** 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
- 3** 金具が固定される位置まで、譜面立てを下ろします。

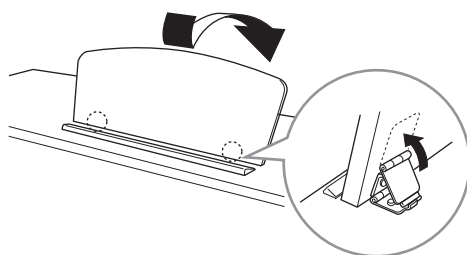


! 注意

譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

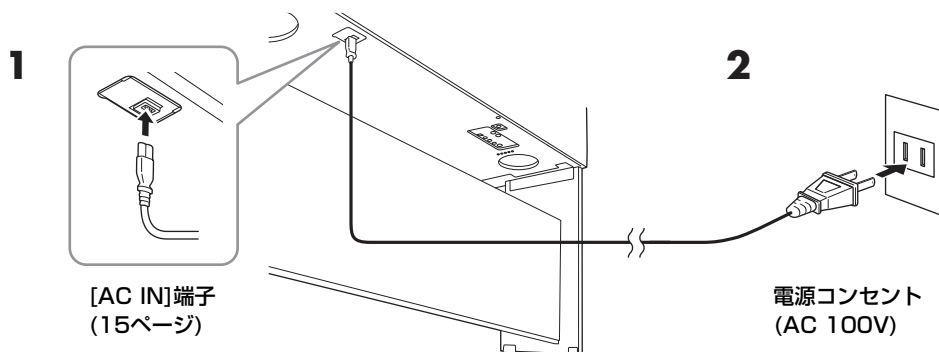
倒すとき

- 1 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
- 3 譜面立てに手を添えて、ゆっくり下ろします。



電源の準備

図の順序で電源コードを接続します。



⚠ 警告

電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

⚠ 注意

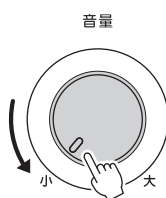
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源コードを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

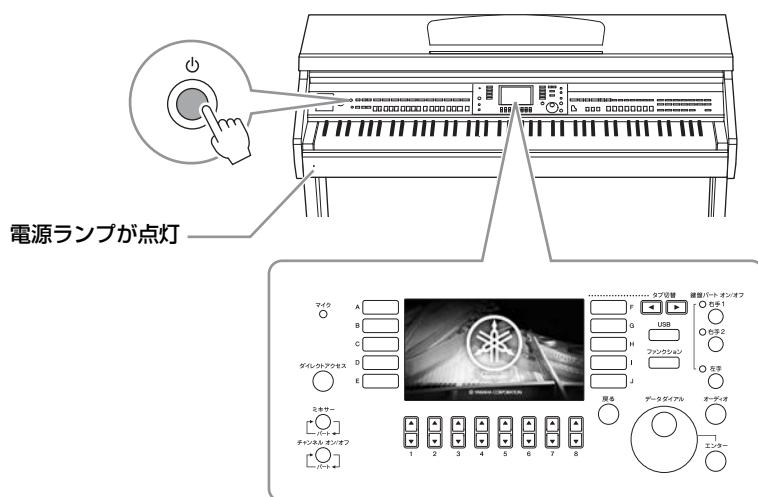
電源を入れる/切る

1 [音量]ダイヤルを左に回し、音量を最小にします。



2 [⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

本体前面左の電源ランプが点灯し、画面に表示が現れます。音量は鍵盤を弾いて確かめながら、徐々に上げてください。



3 電源を切るには、もう一度[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押します(1秒)。

⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

注記

録音中、編集、メッセージ表示中は、[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押しても電源は切れません。電源を切りたい場合は、録音、編集、メッセージ表示が終了してから[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押してください。やむを得ず強制終了したい場合は、[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押してください。ただし、強制終了すると、データが失われたり、楽器や外部機器が故障したりする場合があります。

オートパワーオフ機能

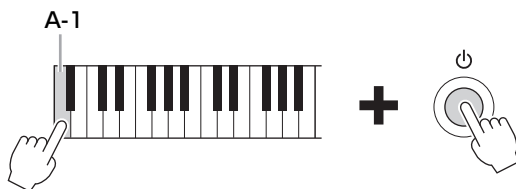
この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では15分ですが、変更することもできます。

注記

オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。

■ オートパワーオフ機能の簡単解除

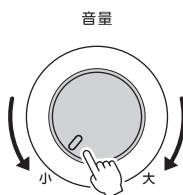
左端の鍵盤を押したまま電源を入ると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。



電源が切れるまでの時間を設定する方法については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

音量(マスターボリューム)を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、[音量]ダイヤルを左右に回して、全体音量を調節します。



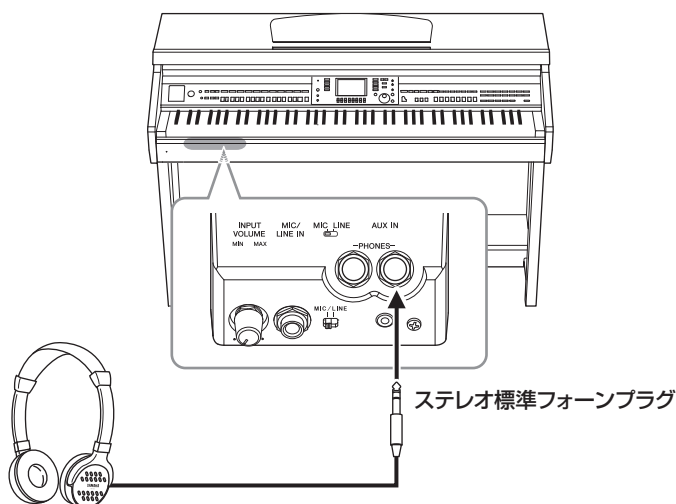
⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。IACの初期設定はオンですが、オン/オフを切り替えたり、効果の深さ(デプス)を設定できます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

ヘッドフォンを使う



ヘッドフォンは[PHONES]端子に接続して使います。端子は2つあるので、2本同時に使えます。1本だけ使う場合はどちらの端子を使ってもかまいません。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

音の距離感を再現する(ステレオフォニックオプティマイザー)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドフォンの音に対して、アコースティックピアノの前に座って弾いているかのような音の広がり再現する機能です。通常、ヘッドフォンでは、音が耳のすぐそばで鳴っているように聞こえますが、この機能がオンの場合は、ピアノ本体から音が鳴っているような自然な距離感を感じることができます。ステレオフォニックオプティマイザーは、VRM音色(49ページ)のみに効果があります。初期設定ではこの機能はオンですが、オフにすることもできます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

ヘッドフォンハンガーを使う

ヘッドフォンハンガーを取り付けると、本体にヘッドフォンを掛けられます。取り付け方は、巻末の組み立て方をご覧ください。

注記

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

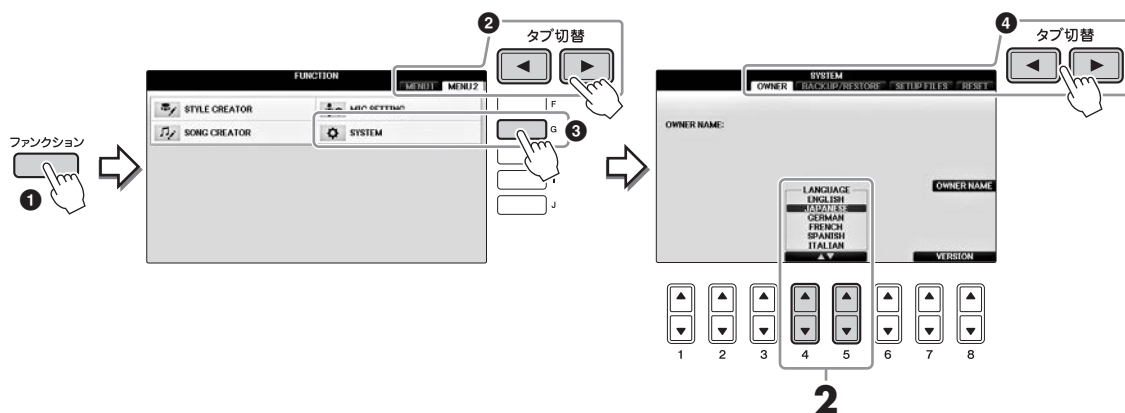
この取扱説明書では、設定画面を表示させるための操作手順を「→」で表記しています。

画面に表示される言語を切り替える

画面に表示されるメッセージ、ファイル名などの言語を指定します。

1 設定画面を表示させます:

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU2 → ③[G] (SYSTEM) → ④タブ切替[◀][▶] OWNER



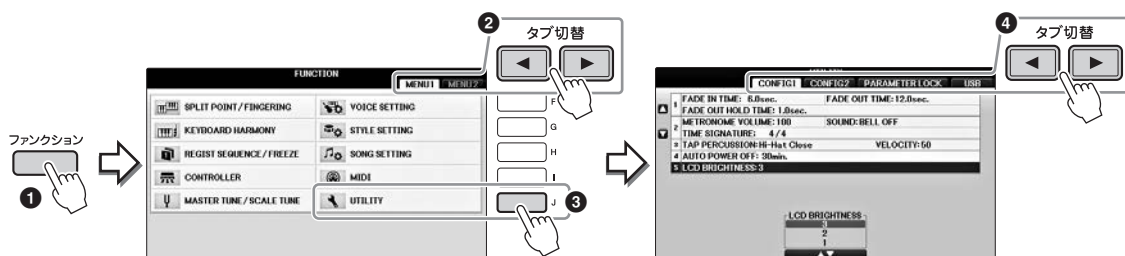
2 [4▲▼]/[5▲▼]ボタンで、言語を選びます。

操作はこれで終了です。[戻る]ボタンを何度か押してメイン画面に戻ります。

画面の明るさを調整する

1 設定画面を表示させます。

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[J] (UTILITY) → ④タブ切替[◀][▶] CONFIG1



2 [A]/[B]ボタンで、「LCD BRIGHTNESS」を選びます。

3 [4▲▼]/[5▲▼]ボタンで、画面の明るさを調節します。

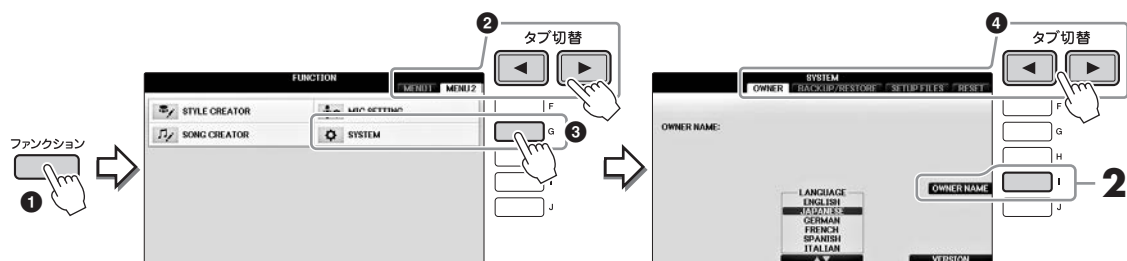
1が一番暗く、3が一番明るくなります。

オープニング画面にオーナーネーム(OWNER NAME)を表示する

オープニング画面(電源を入れたときに表示される画面)に、あなたの名前を表示できます。

1 設定画面を表示させます:

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU2 → ③[G] (SYSTEM) → ④タブ切替[◀][▶] OWNER



2 [I] (OWNER NAME)ボタンを押して、名前入力用の画面を表示させます。

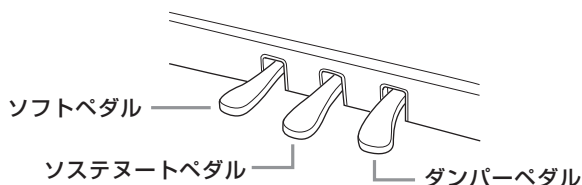
文字の入力方法は、36ページを参照してください。

楽器のバージョンを確認する

手順1の画面で[7▲▼]/[8▲▼] (VERSION)ボタンを押すと、楽器のバージョンが表示されます。バージョン表示を閉じるには、[戻る]ボタンまたは[8▲▼]ボタンを押します。

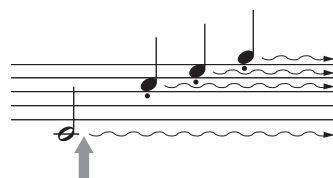
ペダルを使う

クラビノーバには3本のペダルが付いています。



■ ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。VRM対応のピアノボイス(49ページ)を選択して踏んだ場合は、よりリアルな共鳴音が響きます。このペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤と、そのあと弾いた音すべてが長く響く。

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。ペダルをどの程度踏み込んだら効果がかかり始めるか(ハーフペダルポイント)は、以下の操作で調節できます。

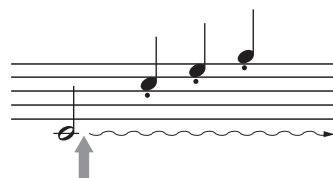
[ダイレクトアクセス]ボタン → ダンパーペダルを踏む → [A]/[B] RIGHT → [4▲▼] (HALF PEDAL POINT)

NOTE

ストリングスやブラスなどの持続音系のボイスでは、ダンパーペダルやソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せずに、持続して鳴り続けることがあります。ダンパーペダル/ソステヌートペダルは、ドラムキットなどの打楽器系ボイスには機能しません。

■ ソステヌートペダル(真ん中のペダル)

ピアノボイスを選んでいるときにこのペダルを踏むと、ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。ピアノボイス以外を選んだときには、その音色にふさわしい機能が割り当てられます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く。

■ ソフトペダル(左のペダル)

ピアノボイスを選んでいるときにこのペダルを踏むと、ボリュームがわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ピアノボイス以外を選んだときには、その音色にふさわしい機能が割り当てられます。ソフトペダル効果の深さは調節できます。

ボイス選択画面 → [8▼] MENU 1 → [5▼] (ボイスセット) → タブ切替[◀][▶] CONTROLLER → [A]/[B] LEFT PEDAL

詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」11章をご覧ください。

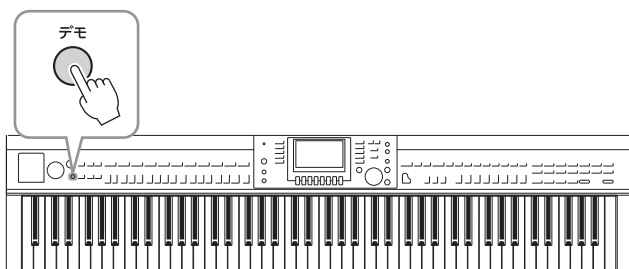
ペダルにいろいろな機能を割り当てる

クラビノーバの3本のペダルと別売のフットコントローラー/フットスイッチには、ソングをスタート/ストップしたり、スーパーアーティキュレーションボイスのコントロールとして使ったりなど、いろいろな機能を割り当てて使うこともできます(105ページ)。

デモを見る

デモでは、ソングを再生するだけでなく、クラビノーバの持つさまざまな機能や魅力を画面で説明します。クラビノーバでどんなことができるのか見てみましょう。

1 [デモ]ボタンを押して、デモのメニューを表示させます。



2 [A]～[D]ボタンで、説明を見たいメニューを選びます。

[F]～[I]ボタンのいずれかを押すと、オーバービューデモ画面が表示され、さまざまな機能が紹介されます。



選んだメニューにさらに番号が付いた項目がある場合、該当する[A]～[J]ボタンで見たい項目を選びます。

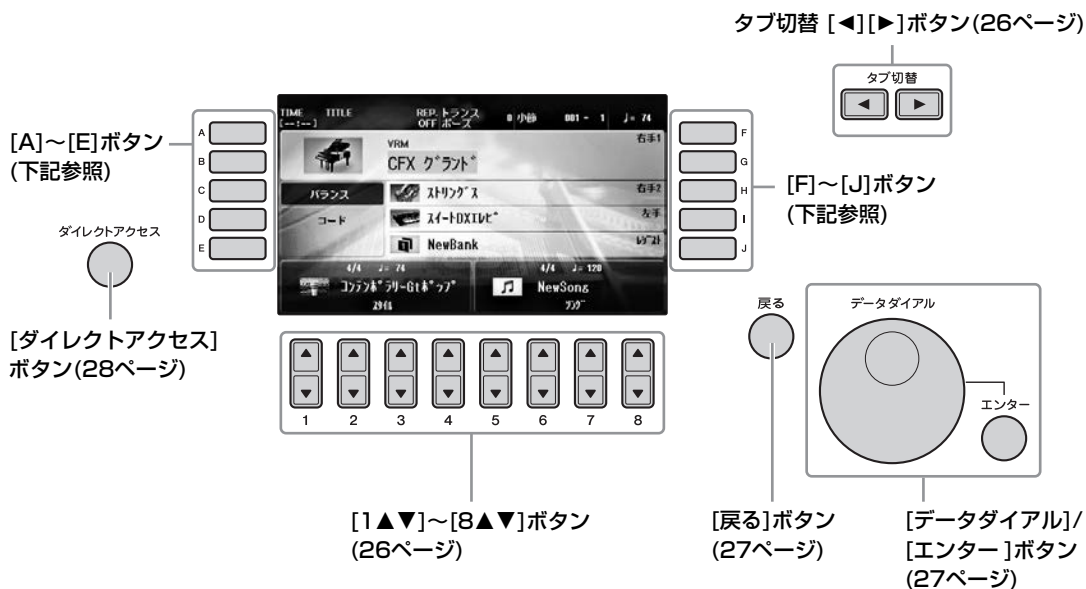
NOTE

一つ前の画面に戻るには、[戻る]ボタンを押します。

3 [戻る]ボタンを何度か押して、デモ画面を抜けます。

画面の操作方法

画面に表示された内容は、画面の周辺にあるボタンで選択/設定できます。



ご
使用
前
の
準
備

[A]~[J] ボタン

ボタンの横に表示されている項目を選びます。

■ 例1



ファイル選択画面(30ページ)の場合、選びたいファイルに
対応した[A]~[J] ボタンを押します。

■ 例2



タブ切替[◀][▶]ボタン

画面の中に複数のページ(タブ)がある場合、このボタンで切り替えます。



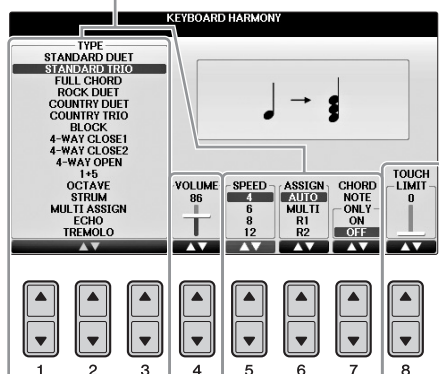
[1▲▼]～[8▲▼]ボタン

ボタンの上に表示された項目を選んだり、設定値を増減させたりします。

上段に表示された項目は、[1▲]～[8▲]ボタンで選びます。



複数の選択肢を、[▲▼]ボタンで切り替えます。

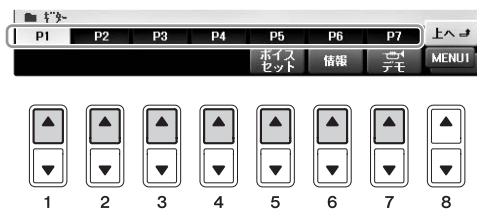


下段に表示された項目は、[1▼]～[8▼]ボタンで選びます。

スライダーやノブの形状の設定項目は、[▲▼]ボタンで値を調整します。

■ ページを切り替える

画面の中に複数のページがある場合、画面の下にページ番号が表示されます。対応する[1▲]～[7▲]ボタンでページを切り替えられます。

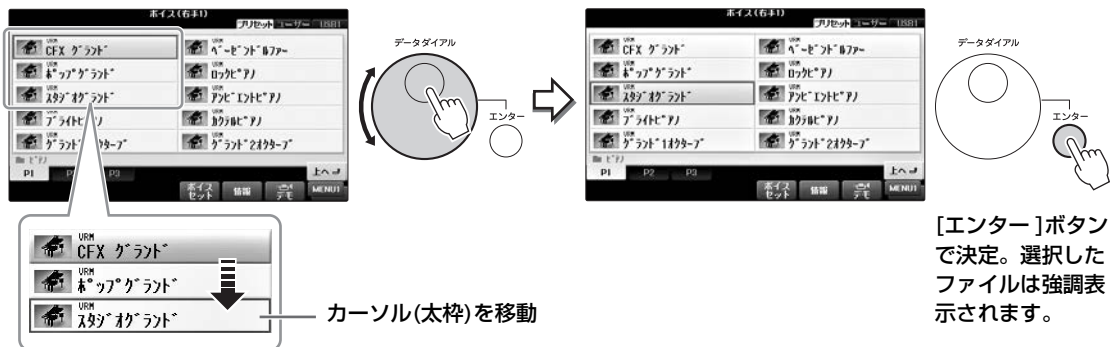


[データダイアル]/[エンター]ボタン

画面に表示されている内容によって、2つの使い方があります。

■ ファイル(ボイス、スタイル、ソングなど)を選ぶ

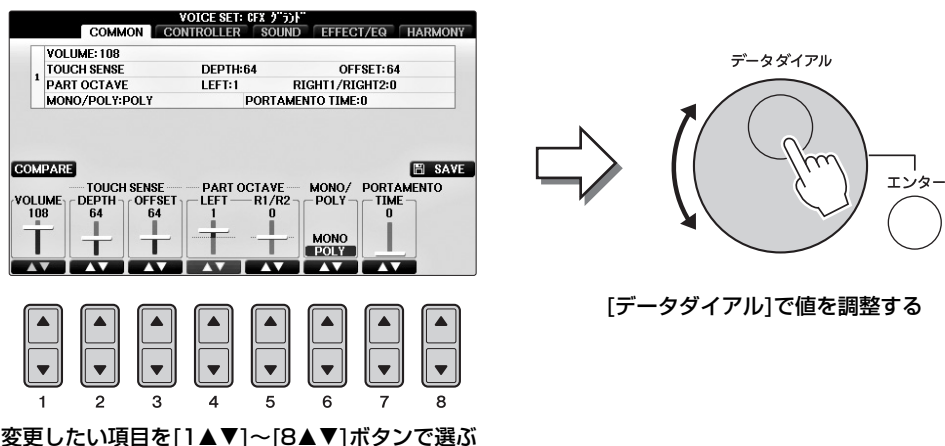
ファイル選択画面(30ページ)では、[データダイアル]で目的のファイルにカーソルを移動させ、[エンター]ボタンで決定します。



ご使用前の準備

■ 設定値を変更する

設定項目が画面の下に表示されている場合、変更したい項目を[1▲▼]~[8▲▼]ボタンで選んだあと、[データダイアル]を回して設定値を変更します。



テンポやトランスポーズを設定する場合にも、[データダイアル]を使って同様に値を変更できます。たとえば、テンポ[+]または[-]ボタンを押すと画面中央にテンポ画面が表示されるので、[データダイアル]で値を設定して[エンター]ボタンでテンポ画面を閉じます。

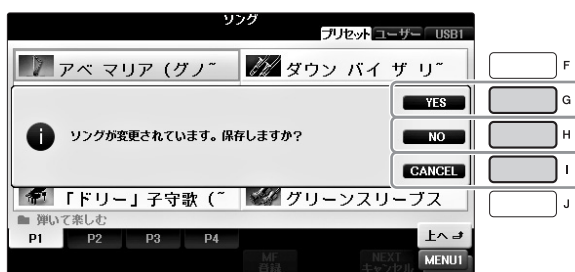
[戻る]ボタン

1つ前の画面に戻ります。[戻る]ボタンを何度も押し続けると、メイン画面(29ページ)に戻ります。



画面に表示されるメッセージの操作方法

操作中、画面にメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示されたら、対応するボタンを押してください。



ご使用
前の
準備

目的の画面をすばやく表示させる(ダイレクトアクセス)

ダイレクトアクセス機能を使って、目的の画面をすばやく表示させることができます。

1 [ダイレクトアクセス]ボタンを押します。

画面に、目的のボタンを押すように促すメッセージが表示されます。

2 表示させたい設定画面に対応したボタン(またはペダル)を押します。

押したボタン(またはペダル)に関連のある画面が表示されます。

たとえば、[ガイド]ボタンを押すと、ガイドモードが選べる画面が表示されます。

ダイレクトアクセス



ダイレクトアクセスできる機能については、別冊データリスト「ダイレクトアクセスチャート」をご覧ください。

メイン画面の見かた

電源を入れたあとに表示される画面がメイン画面です。メイン画面を見れば、今日のボイスを選んでいるか、どのスタイルを選んでいるかなど、パネルの設定状態がひとめでわかります。演奏中に表示させておくくと便利です。



① ボイス名

右手1、右手2、左手パートで選ばれているボイスが表示されます(44ページ)。
ボイス名に対応する[A]～[B]、[F]～[I]ボタンを押すと、各パートのボイス選択画面が開きます。

NOTE

ボイス名の欄に「H」が表示されることがあります。これはレフトホールド(51ページ)がオンであることを示しています。

② スタイル情報

選ばれているスタイルの名前、拍子、テンポが表示されます。[1▲▼]～[4▲▼]ボタンを押すと、スタイル選択画面(58ページ)が開きます。

③ コード名

[スタイル オン/オフ]ボタンがオンで、スタイル再生中は、コード鍵域で押さえたコード名が表示されます。
コードデータが入っているソングの再生中は、ソングのコード名が表示されます。

④ ソング情報

選ばれているソングの名前、拍子、テンポが表示されます。[5▲▼]～[8▲▼]ボタンを押すと、ソング選択画面(71ページ)が開きます。

⑤ レジストレーションメモリーのバンク名

レジストレーションメモリーバンクの名称が表示されます。[J]ボタンを押すと、バンク選択画面(98ページ)が開きます。

NOTE

バンク名の欄に「F」が表示されることがあります。これはフリーズがオンであることを示しています。フリーズとは、メモリーを切り替えても特定の項目だけは呼び出さないようにする機能です。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」9章をご覧ください。

⑥ 音量バランス

[C]ボタンを押すと、各パートの音量バランスが表示されます。音量バランス画面は2ページあり、[C]ボタンを押すたびに切り替わります(68ページ)。

⑦ トランスポーズ

半音単位のトランスポーズ量が表示されます(68ページ)。

⑧ テンポ/小節/拍

ソングまたはスタイルの、テンポと再生位置(小節数-拍数)が表示されます。

9 オーディオファイル情報

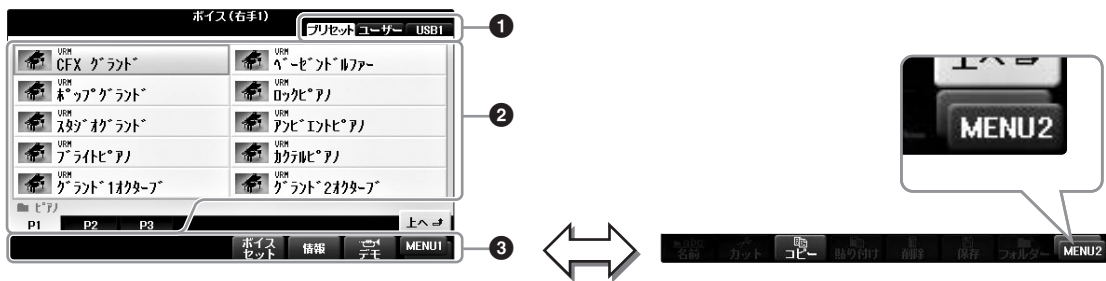
選択中のオーディオデータの情報(ファイル名や再生時間など)が表示されます。オーディオ録音待機中は、「REC WAIT」と表示されます。録音中は、「REC」と表示されます。

10 レジストレーションシーケンス

レジストレーションシーケンス(99ページ)がオンの場合、レジストレーションメモリーの順番が表示されます。タブ切替[◀][▶]ボタンやペダルで呼び出すことができ、選択中のメモリー番号は四角で囲まれます。レジストレーションシーケンスについては、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」9章をご覧ください。

ファイル選択画面の見かた

ファイル選択画面は、ボイスやスタイルなどさまざまなデータ(ファイル)を選ぶための画面です。ボイスボタンやスタイルボタン、[ソング選択]ボタンなどを押したときに表示されます。



1 データの保存場所

• プリセット

「プリセット」を選ぶと、楽器にあらかじめ内蔵されているデータが表示されます。

• ユーザー

「ユーザー」は、自分で作ったデータが保存できる領域です。「ユーザー」を選ぶと、以前に作成(録音)したデータが表示されます。

• USB

「USB」を選ぶと、USBフラッシュメモリーに入っているデータが表示されます。「USB」は、USBフラッシュメモリーが[USB TO DEVICE]端子に接続されている場合のみ表示されます(106ページ)。

2 データ(ファイル)一覧

画面上で選ぶことのできるファイルが表示されています。選べるファイルが多い場合は、一覧の下に、画面のページを表す「P1」「P2」などが表示されるので、違うページを選ぶこともできます。ページが多くなると、「次へ」「前へ」などと表示されることもあります。

3 MENU1/MENU2

メニューは2種類(MENU1とMENU2)あり、[8▼]ボタンを押すたびに切り替わります。

• MENU1 (メニュー 1)

ファイル固有のメニューです(選択したファイルによっては表示されないこともあります)。たとえばボイス選択画面では、ファイルを選んで[7▼]ボタンを押すと、ボイスデモを聞くことができます。

• MENU2 (メニュー 2)

ファイルの保存やコピー、移動、削除などを行なうメニューです。また、ファイルに名前を付け直したり、フォルダーを作ってファイルの場所を管理したりもできます。操作方法は32～37ページをご覧ください。

フォルダーを閉じてひとつ上の階層を表示させる

内蔵のデータ(ファイル)は、いくつかまとめて「フォルダー」に入れられています。また、自分で作成したファイルも、フォルダーを作って整理することができます(32ページ)。

現在表示されている(開かれている)フォルダーを閉じてひとつ上の階層を表示させるには、[8▲] (上へ)ボタンを押します。

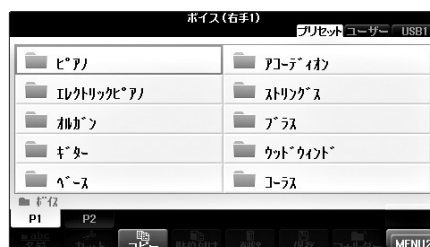
内蔵ボイス選択画面の例

内蔵のボイスは、カテゴリー別のフォルダーに納められています。



この画面は、フォルダーの中を表示させている状態です。

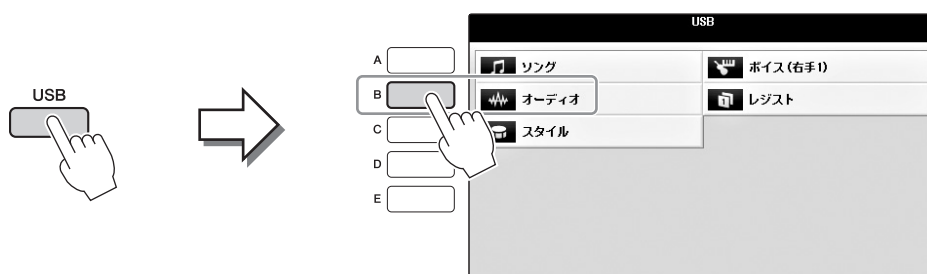
[8▲] (上へ)ボタンを押すと、ひとつ上の階層が表示されます。



この画面に表示されているフォルダーには、ボイスがカテゴリー別に納められています。

USB画面

[USB]ボタンを押すと、USBフラッシュメモリーに保存されているソングやオーディオなどのデータを見ることができます。



ファイル/フォルダーを管理する

USBフラッシュメモリーやユーザーメモリー内に保存したファイルが増えると、目的のファイルを探すのが大変になります。フォルダーを作ってファイルを整理したり、ファイルにわかりやすい名前を付けたり、不要なファイルを削除したりすることで、ファイルが探しやすくなります。ファイルの管理は、ファイル選択画面で行ないます。

フォルダーを作る

新しいフォルダーを作ります。フォルダーには、ファイルを種類別に分けて入れることができます。ファイル整理に活用しましょう。

NOTE

「プリセット」画面、「PianoRoom」フォルダーには、フォルダーを作れません。

NOTE

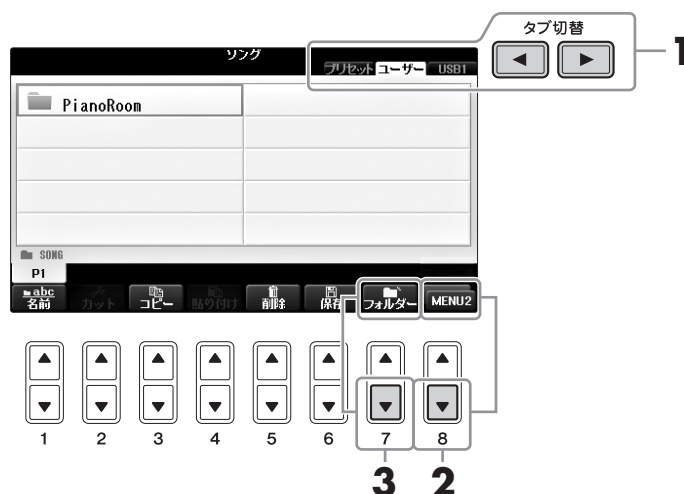
ひとつのフォルダーに保存できるファイル/フォルダーの数は500までです。

1 ファイル選択画面でタブ切替[◀][▶]ボタンを押して、フォルダーを作成したい場所(ユーザーまたはUSB)を選びます。

すでにあるフォルダーの中に作成したい場合は、フォルダーも選びます。

NOTE

「ユーザー」画面のフォルダー階層は4階層までです。保存できるファイルとフォルダーの数は、ファイルサイズやファイル名の長さによって異なります。



2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。

3 [7▼] (フォルダー) ボタンを押します。

新しいフォルダーの名前を入力する画面が表示されます。



4 フォルダーの名前を入力します(36ページ)。

NOTE

次の半角記号はファイル名/フォルダー名として入力できません。 ¥ / : * ? * < > |

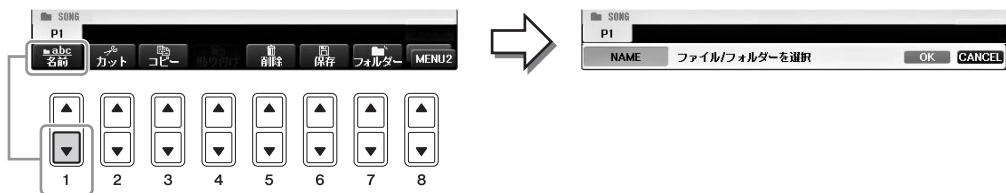
ファイル/フォルダーの名前を変える

ファイル/フォルダーの名前を書き換えます。

NOTE

- ・「プリセット」画面のファイル名は変更できません。
- ・「PianoRoom」フォルダーは名前を変更できません。

- 1** ファイル選択画面で、名前を変えたいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。
- 2** [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。
- 3** [1▼] (名前)ボタンを押します。
画面下部に、名前に関する画面が表示されます。



- 4** [A]～[J]ボタンで、名前を変えたいファイル/フォルダーを選びます。
- 5** [7▼] (OK)ボタンを押して、ファイル/フォルダーの選択を確定します。

NOTE

名前変更を中止するときは、[8▼] (CANCEL)ボタンを押します。

- 6** ファイル/フォルダーの名前(文字)を入力します(36ページ)。
名前を変えたファイル/フォルダーは、アルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

ファイルをコピーまたは移動する

ファイルを別の保存場所にコピーまたは移動します。元の場所に残したまま別の場所にコピーしたり、元の場所からは削除して別の場所に移動したりします。フォルダー単位でもコピーできます(移動はできません)。ファイルによってはコピー/移動に制限があります。「プロテクトがかかったソングの制限」(73ページ)をご覧ください。

NOTE

「プリセット」画面、「PianoRoom」フォルダーのファイルは移動できません。

1 ファイル選択画面で、コピーまたは移動したいファイルがある画面を表示させます。

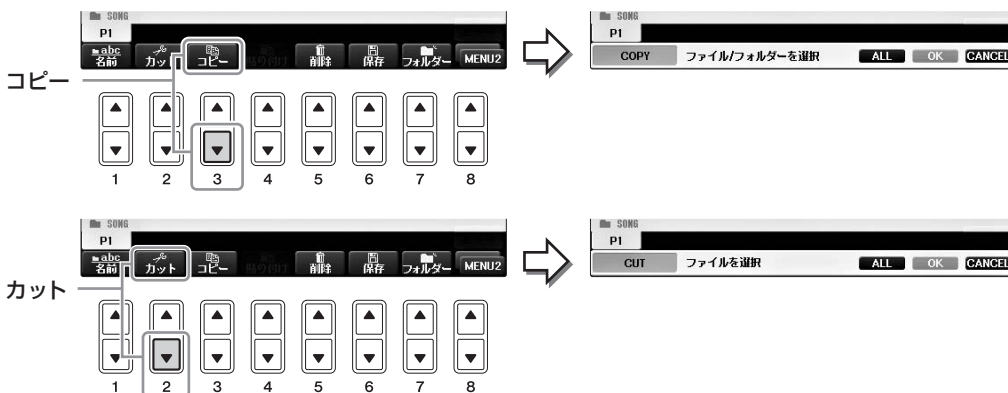
NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。

3 コピーしたい場合は[3▼] (コピー) ボタン、移動したい場合は[2▼] (カット) ボタンを押して、ファイル/フォルダーをコピーまたはカットします。

画面下部に、コピー/カットに関する画面が表示されます。



4 [A]～[J]ボタンで、コピーまたは移動したいファイル/フォルダーを選びます。

ファイル/フォルダーの選択を解除するときは、もう一度同じ[A]～[J]ボタンを押します。表示されているファイル/フォルダーをすべて選ぶには、[6▼] (ALL) ボタンを押します。画面に表示されているすべてのファイル/フォルダー (画面に現れていない別ページも含む) が選択されます。もう一度[6▼] (ALL OFF) ボタンを押すと、すべての選択が解除されます。

5 [7▼] (OK) ボタンを押して、ファイル/フォルダーの選択を確定します。

NOTE

中止するときは、[8▼] (CANCEL) ボタンを押します。

6 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、ファイル/フォルダーのコピー先/移動先(ユーザーまたはUSB)を選びます。

コピー/移動先として特定のフォルダーを指定したい場合は、[A]～[J]ボタンでフォルダーも選びます。

7 [4▼] (貼り付け) ボタンを押して、手順4で選んだファイル/フォルダーを貼り付けます。

コピー/移動されたファイル/フォルダーは、アルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

ファイル/フォルダーを削除する

ファイル/フォルダーを削除します。

NOTE

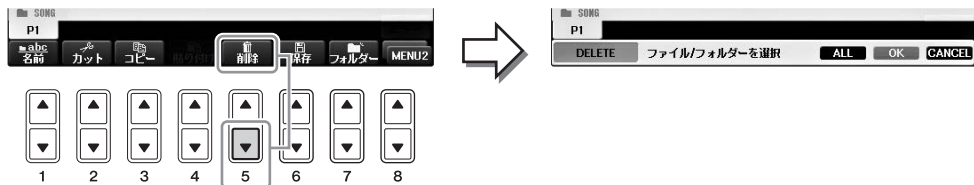
- ・「プリセット」画面のファイルは削除できません。
- ・「PianoRoom」フォルダーは削除できません。

1 ファイル選択画面で、削除したいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。

2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。

3 [5▼] (削除)ボタンを押します。

画面下部に、削除に関する画面が表示されます。



4 [A]～[J]ボタンで、削除したいファイル/フォルダーを選びます。

ファイル/フォルダーの選択を解除するときは、もう一度同じ[A]～[J]ボタンを押します。

表示されているファイル/フォルダーをすべて選ぶには、[6▼] (ALL)ボタンを押します。画面に表示されているすべてのファイル/フォルダー (画面に現れていない別ページも含む)が選択されます。もう一度[6▼] (ALL OFF)ボタンを押すと、すべての選択が解除されます。

5 [7▼] (OK)ボタンを押して、ファイル/フォルダーの選択を確定します。

NOTE

削除を中止するときは、[8▼] (CANCEL)ボタンを押します。

6 画面メッセージに従って、操作を進めます。

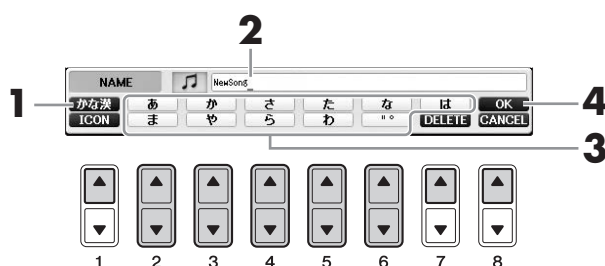
- ・ YES..... 選んだファイル/フォルダーを削除します。
- ・ YES ALL..... 選んだファイル/フォルダーすべてを一度に削除します。
- ・ NO 選んだファイル/フォルダーを削除せず、残します。
- ・ CANCEL..... 削除を中止します。

NOTE

操作によっては、上記のメッセージの一部が出ない場合があります。またメニューに対応するボタン位置が異なる場合があります。

文字を入力する

ファイル/フォルダーに名前を付けたりするときの、文字の入力方法をご説明します。文字入力、下記のような入力画面で行ないます。



1 [1▲]ボタンを押して、文字種を切り替えます。

■ 画面を日本語表示にしている場合は、下記の文字種を選べます。

- **かな漢**..... ひらがな(漢字変換)、全角記号
- **カナ**..... 全角カタカナ、全角記号
- **か**..... 半角カタカナ、半角記号
- **A B C**..... 全角アルファベット(大文字、小文字)、全角数字、全角記号
- **A B C**..... 半角アルファベット(大文字、小文字)、半角数字、半角記号

■ 画面を日本語以外の言語表示にしている場合は、下記の文字種を選べます。

- **CASE** 半角アルファベット(大文字)、半角数字、半角記号
- **case**..... 半角アルファベット(小文字)、半角数字、半角記号

NOTE

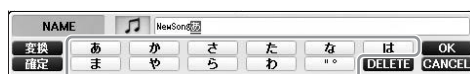
入力画面によって、使用できない文字種があります。

2 [データダイアル]で、文字を入力したい位置にカーソルを移動させます。

3 [2▲▼]～[6▲▼]、[7▲]ボタンで、文字や記号を入力します。

入力した文字を確定する場合、文字種が「かな漢」の場合は[1▼] (確定)ボタンか[8▲] (OK)ボタンを押します。「かな漢」以外は、文字を表示したあとでカーソルを移動させたり、別の文字入力ボタンを押したりします。

詳しくは、37ページの「文字入力中の操作」をご覧ください。



ひとつのボタンにはいくつかの文字が割り当てられています。
ボタンを繰り返し押して、文字を切り替えます。

NOTE

ファイル名は半角で41文字(全角20文字)、フォルダー名は半角で50文字(全角25文字)まで入力できます。(116ページ参照)

4 [8▲] (OK)ボタンを押して、入力した文字列(名前/キーワードなど)を確定します。

NOTE

途中で文字入力を中止する場合は、[8▼] (CANCEL)ボタンを押します。

文字入力中の操作

■ 文字を消す

[データダイアル]で消したい文字にカーソルを移動させ、[7▼] (DELETE)ボタンを押します。入力した文字列を一度に消したいときは、[7▼] (DELETE)ボタンを押し続けます。

■ 濁点(゛)/半濁点(゜)を入力する

濁点/半濁点などを付けたい文字を入力し、文字を確定する前に[6▼]ボタンを押します。

NOTE

文字種が「かな漢」「カナ(全角)」「か(半角)」以外の場合や、濁点や半濁点が付かない文字を入力した直後は、文字入力を確定する前に[6▼]ボタンを押しても記号一覧が表示されます。

■ 記号やスペース(空白)を入力する

- 1 文字を確定したあとで[6▼]ボタンを押して、記号一覧を表示させます。
- 2 [データダイアル]で入力したい記号/スペースにカーソルを移動させ、[8▲] (OK)ボタンを押します。

■ 漢字に変換する(文字種: かな漢)

入力した文字列が反転表示されているときに[1▲] (変換)または[エンター]ボタンを何度か押して、変換候補を表示させます。[データダイアル]で、漢字変換する範囲を変えられます。目的の漢字が表示されたら、[1▼] (確定)または[8▲] (OK)ボタンを押します。

変換中に[7▼] (DELETE)ボタンを押すと、ひらがなに戻ります。

変換中に[8▼] (CANCEL)ボタンを押すと、変換中の文字列がすべて消去されます。

■ ファイル名の左に表示されるアイコンを変える

- 1 [1▼] (ICON)ボタンを押して、アイコン画面を表示させます。
- 2 [A]～[J]ボタン、[3▲▼]～[5▲▼]ボタン、または[データダイアル]で、アイコンを選びます。
アイコン画面は何ページかに分かれています。ページをめくるときは、タブ切替[◀][▶]ボタンを押します。
- 3 [8▲] (OK)ボタンを押して、選んだアイコンを確定します。

NOTE

アイコン選択を中止するときは、[8▼] (CANCEL)ボタンを押します。

データのバックアップ

本体の「ユーザー」内のすべてのデータ(プロテクトソングは除く)と設定を、1つのバックアップファイル(拡張子:.bup)としてUSBフラッシュメモリーに保存できます。保存したバックアップファイルは、また楽器に戻して設定やデータを再現することができます。

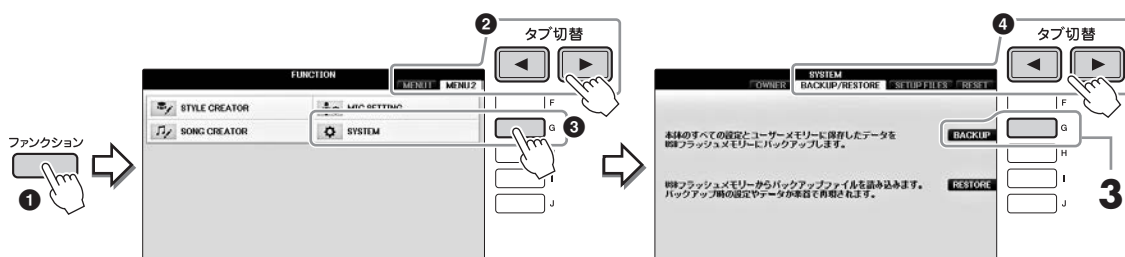
NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、はじめに「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みください。

1 バックアップ先のUSBフラッシュメモリーを、楽器本体に挿入/接続します。

2 設定画面を表示させます:

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU2 → ③[G] SYSTEM → ④タブ切替[◀][▶] BACKUP/RESTORE



3 [G] (BACKUP)ボタンを押して、バックアップ先のUSBフラッシュメモリーに保存します。

注記

バックアップ/リストアは数分かかることがあります。実行中は電源を切らないでください。電源を切ると、データが壊れたりするおそれがあります。

バックアップファイルを読み込む(リストア)

バックアップしたデータを楽器に再読み込み(リストア)する際は、上記手順3で[I] (RESTORE)ボタンを押します。いったん画面が消え楽器が再起動します。

注記

バックアップファイルを楽器に読み込むと、楽器の「ユーザー」に保存されているデータや設定は、プロテクトソングも含めて新しいデータで上書きされ、消去されます。大事なデータは、リストアの前にUSBフラッシュメモリーにコピーまたは移動させてください(34ページ)。

NOTE

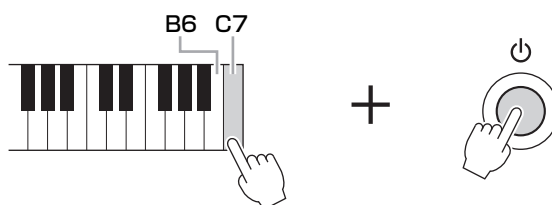
ミュージックファインダーのレコード、エフェクト、MIDIテンプレート、システムファイルについては、[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [G] (SYSTEM) → タブ切替[◀][▶] SETUP FILESの画面で個別にバックアップとして保存できます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)

この楽器でシステムセットアップとして扱われる設定項目が工場出荷時の状態に戻ります。システムセットアップに該当するのは、別冊データリストの「パラメーターチャート」のSystem Setup (システム セットアップ) に○が付いた項目です。

一番右の鍵盤を押しながら電源を入れると、画面に初期化中であることを示すメッセージが表示され、初期化が終わるとメッセージが消えます。

この方法で初期化しても、本体の「ユーザー」内(30ページ)に保存した録音ソングは消えません。



NOTE

B6の鍵盤を押しながら電源を入れると、レジストレーションメモリー (97ページ)だけが初期化されます。

特定の設定だけを工場出荷時の状態に戻したり、ユーザーメモリーに保存したファイル/フォルダーを削除したりできます。[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [G] SYSTEM → タブ切替[◀][▶] (RESET) 詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

ピアノ演奏を楽しむ(ピアノルーム)

ピアノルームは、ピアノ演奏を思う存分楽しみたい、という方におすすめの機能です。パネルがどんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ演奏専用の設定を呼び出すことができます。また、自分の好きなピアノ設定に変えたり、他の楽器とセッションするような演奏を楽しむことができます。

ピアノルームで演奏する

1 [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。

ピアノ演奏専用の設定が呼び出され、[ピアノルーム]と画面周辺のボタン([ダイレクトアクセス]ボタンは除く)音量ダイヤル以外は使えなくなります。



2 演奏します。

演奏したい曲に合わせて、ピアノの種類や演奏する空間(音響効果)を変えてみましょう。

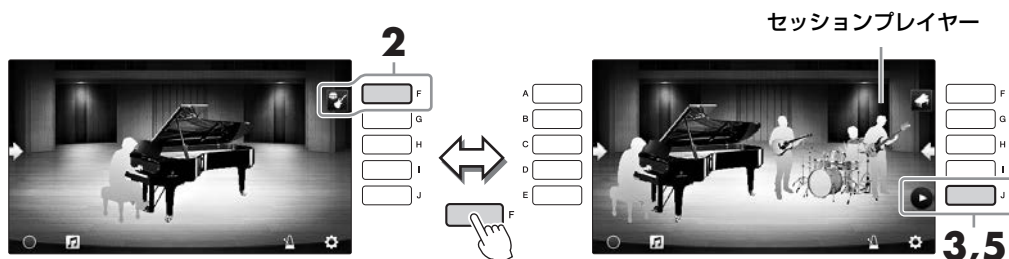
ピアノの種類	[C]ボタンを押します。リストが表示されたら、[F]～[J]ボタンで好きなピアノを選びます。リストのページは[8▲▼]ボタンで切り替えられます。
空間(音響効果)	タブ切替[◀][▶]ボタンで好きな空間を選びます。空間にあった音響効果が設定されます。
屋根	データダイヤルでピアノの屋根の開き具合を設定します。「ピアノの種類」にグラウンドピアノ系が選ばれているときのみ設定できます。
メトロノーム	[7▲▼]ボタンを押します。設定画面が表示されたら、[6▲▼]ボタンでオン(鳴らす)/オフ(鳴らさない)、[7▲▼]ボタンでテンポを設定します。[8▲▼] (TAP) ボタンを2回たたくと、たたいたテンポに設定されます。

リストや設定画面を閉じたいときは、[戻る]ボタンを押します。

3 [ピアノルーム]ボタンまたは [戻る]ボタンを押して、ピアノルーム画面を閉じます。

ピアノ演奏で他の楽器とセッションする

- 1  [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。
- 2 [F]ボタンを押して、画面にセッションプレイヤーを表示させます。
[F]ボタンを押すたびに、セッションプレイヤーの表示/非表示が切り替わります。



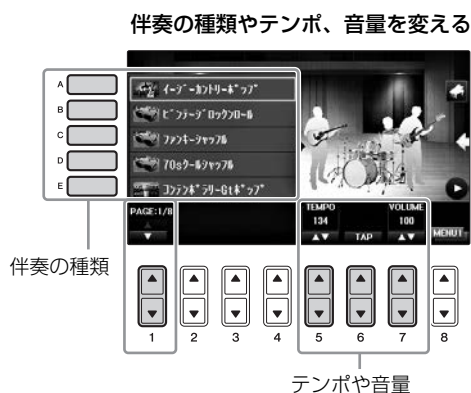
- 3 [J]ボタンを押します。
イントロが再生されます。
- 4 数小節のイントロに続いて演奏を始めましょう。
あなたのピアノ演奏に合わせて、セッションプレイヤーが伴奏を付けてくれます。演奏はジャズやポップスがおすすです。
- 5 伴奏を停止するには、[J]ボタンを押します。
エンディングが鳴ったあと、伴奏は停止します。

NOTE

伴奏はピアノルーム以外でも使えます。詳しくは58ページをご覧ください。

伴奏の種類や設定を変える

上記手順2右側の画面で[H]ボタンを押すと、伴奏の種類や設定を変える画面が表示されます。伴奏の種類、テンポ、音量を変えたり、伴奏のパートごとのオン/オフを切り替えたりできます。[8▲▼]ボタンを押すたびに、画面が切り替わります。



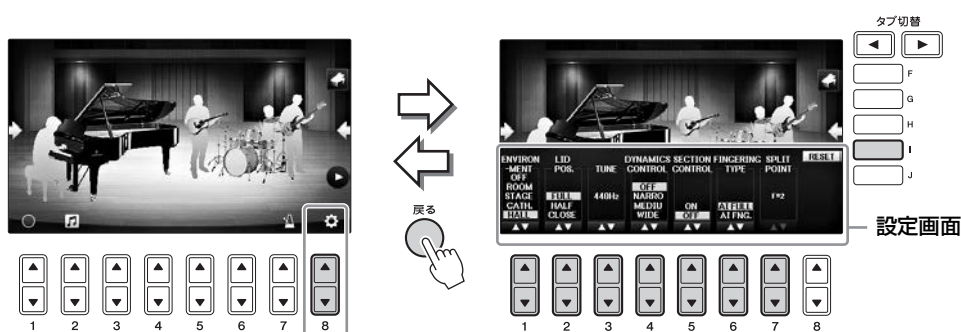
伴奏の各パートのオン/オフを切り替える



ピアノルームの設定を変える/初期化する

ピアノルームの設定を自分の好みに合わせて変えられます。また、ピアノルームの設定をすべて初期状態に戻すこともできます。

- 
[ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。
 伴奏の設定をしたい場合は、[F]ボタンを押してセッションプレイヤーを表示させておいてください。
- [8▲▼]ボタンを押して、設定を行ないます。**
 設定画面が表示されます。



の項目は、ピアノルーム画面にセッションプレイヤーが表示されている場合のみ設定できます。

[1▲▼]	ENVIRONMENT (音響効果)*	ピアノを演奏する空間(音響効果)を選びます。40ページの「空間」と同じです。
[2▲▼]	LID POSITION*	ピアノの屋根の開き具合を調節します。40ページの「屋根」と同じです。
[3▲▼]	TUNE	鍵盤全体のピッチ(音の高さ)を1Hz単位で設定します。
[4▲▼]	DYNAMICS CONTROL	鍵盤を弾く強さを変えたときの、伴奏音の強弱の付き方を設定します。 • WIDE..... 音量の変化幅が大きい設定です。 • MEDIUM.... 標準的な設定です。 • NARROW... 音量の変化幅が小さい設定です。 • OFF..... 音量は変化しません。
[5▲▼]	SECTION CONTROL*	オンにすると、伴奏のパターン(A・B・C・D)が画面下部に表示されます。[3▲▼]~[6▲▼]ボタンを押すとパターンが切り替わり、演奏を盛り上げることができます。
[6▲▼]	FINGERING TYPE*	フィンガリングタイプ(60ページ)をAI FULL KEYBOARDまたはAI FINGEREDに設定します。
[7▲▼]	SPLIT POINT*	FINGERING TYPEをAI FINGEREDに設定しているときの、スプリットポイント(スタイル)(69ページ)の値を設定します。
[1]	RESET (リセット)	ピアノルームの設定のすべてが初期状態に戻ります。 [1] (RESET)ボタンを押すと、実行を確認するメッセージが表示されますので、[G]ボタンを押します。

* の付いた項目は、ピアノルームを閉じたり、電源を切ったりしても設定は保存されています。[ピアノルーム]ボタンを押すと、最後に使ったピアノルームの設定が呼び出されます。

ピアノルームの演奏を録音する

ピアノルームでの演奏を楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに録音できます。

NOTE

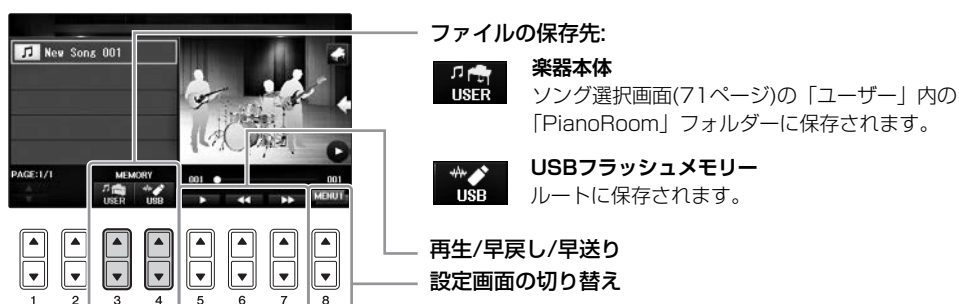
楽器本体に録音した場合はMIDIソング、USBフラッシュメモリーに録音した場合はオーディオソングとして録音されます。MIDIとオーディオの違いについては79ページをお読みください。

- 1 USBフラッシュメモリーに録音したい場合は、「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みのうえ、USBフラッシュメモリーを楽器に接続してください。

- 2  [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。

- 3 ピアノルーム画面で[2▲▼] () ボタンを押します。
ファイルの保存先を選ぶ設定画面が表示されます。

- 4 [3▲▼]/[4▲▼]ボタンを使って、ファイルの保存先を選びます。



- 5 [戻る]ボタンを押して、設定画面を閉じます。
- 6 [1▲▼]ボタン()を押すと録音がスタートしますので、演奏します。
- 7 [1▲▼]ボタン()をもう一度押して録音をストップします。
- 8 保存を確認するメッセージが出たら、[G] (はい)ボタンを押して保存します。

注記

録音した演奏を保存せずに電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

NOTE

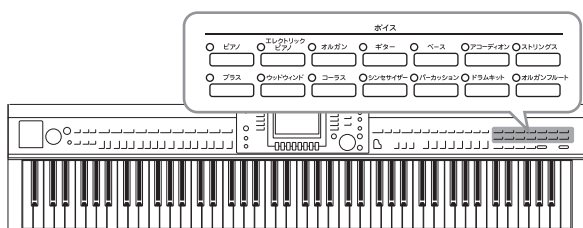
ピアノルームで録音した曲をピアノルーム以外で再生する方法については、71ページと84ページをご覧ください。

- 9 録音した曲を聞くには、[2▲▼]ボタン()を押して、表示された画面で[5▲▼]ボタン()を押します。
再生を停止するには、もう一度[5▲▼]ボタンを押します。

■ 録音したファイルの再生/名前の変更/削除

- 1 上述の手順1～4を行なって、目的のソングが保存されている場所を選びます。
- 2 [A]～[E]ボタンと[1▲▼]ボタンで目的のファイルを選びます。
- 3 [8▲▼]ボタンを何度か押して、ファイルの再生をしたい場合は「MENU1」を、名前の変更やファイルの削除をしたい場合は「MENU2」を画面右下に表示させます。そのあと、[5▲▼]～[7▲▼]ボタンのいずれかから、目的の機能に対応したボタンを押します。(文字入力の方法については36ページをご覧ください。)

いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)



クラビノーパでは、ピアノのほかに、弦楽器、管楽器などのボイス(楽器音)を選んで弾くことができます。

内蔵のボイスを選んで弾く

1つのボイスを選んで鳴らす(右手1パート)

全鍵域で同じボイスを鳴らします。通常のピアノ演奏などで使います。

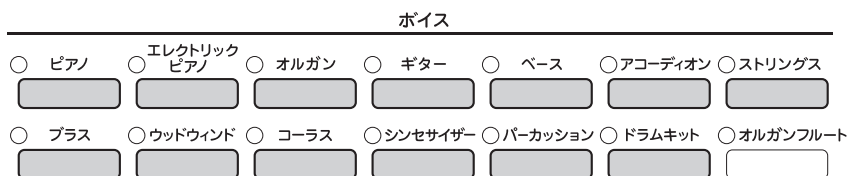
- 1 メイン画面で[A]/[B]/[F]/[G] (右手1)ボタンを押して、右手1パートを選択します。
鍵盤パートオン/オフボタンで[右手1]だけが点灯していることをご確認ください。

NOTE

パートについては、47ページをご覧ください。



2 ボイスボタンの1つを押してボイスカテゴリーを選びます。



内蔵のボイスは、カテゴリー別に分けられています。パネルのボイスボタンは、内蔵ボイスのカテゴリーを表します。たとえば、[ストリングス]ボタンを押すと、画面にチェロやバイオリンなど、たくさんのストリングス(弦楽器)ボイスが表示されます。

NOTE

ボイスボタンについては、47ページをご覧ください。

■ XGボイスの選び方

ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

3 [A]～[J]ボタンでボイスを選びます。

[1▲]～[7▲]ボタンを押すか、手順2で選んだボイスボタンをもう一度押すと、画面のページを切り替えられます。

NOTE

ボイス名の上には、「Natural!!」などボイスの特徴が表示されるものがあります。ボイスの特徴については、47ページやウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。



ボイスの特徴がわかる演奏を聞く

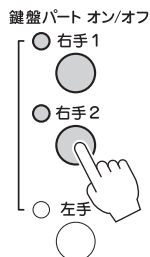
ボイス選択画面表示中に、[8▼]ボタンを何度か押して「MENU1」を表示させます。[7▼] (デモ) ボタンを押すと、選ばれているボイスのデモ演奏がスタートします。もう一度[7▼]ボタンを押すと、デモ演奏は止まります。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

2つのボイスを重ねて鳴らす(右手1パート+右手2パート)

1 鍵盤パートオン/オフ[右手1]ボタンが点灯していることを確認します。

2 鍵盤パートオン/オフ[右手2]ボタンを押して、右手1パートに右手2パートを重ねます。



3 ボイスボタンの1つを押してボイスカテゴリーを選ぶと、右手2パートのボイス選択画面が表示されます。

4 [A]～[J]ボタンでボイスを選びます。

5 鍵盤を弾いてみましょう。

ボイスボタンだけで右手1、右手2パートのボイスを選ぶ

パネルのボイスボタンを使って、右手1パートと右手2パートのボイスをすばやく設定できます。ボイスボタンの1つを押しながら、別のボイスボタンを押すと、最初に押したボタンに対応したボイスが右手1パートに、あとに押したボタンに対応したボイスが右手2パートに設定されます。

NOTE

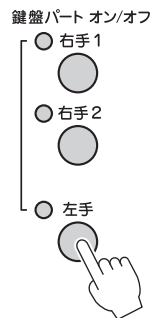
この設定をレジストレーションメモリーに保存しておくことができます。97ページをご覧ください。

2

いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)

鍵域を左右に分けて別々のボイスで弾く(右手1パート+右手2パート+左手パート)

- 1 鍵盤パートオン/オフ[右手1]/[右手2]ボタンのいずれか(または両方)が点灯していることを確認します。
- 2 鍵盤パートオン/オフ[左手]ボタンを押して、右手パートと左手パートが同時に鳴るようにします。

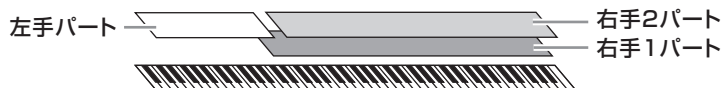


- 3 ボイスボタンの1つを押してボイスカテゴリーを選ぶと、左手パートのボイス選択画面が表示されます。
- 4 [A]～[J]ボタンでボイスを選びます。
- 5 鍵盤を弾いてみましょう。

左手で弾いた鍵盤では手順4で選んだボイスが鳴り、右手で弾いた鍵盤では別のボイス(右手1/右手2パートのボイス)が鳴ります。

NOTE

この設定をレジストレーションメモリーに保存しておくことができます。97ページをご覧ください。



鍵盤パート(右手1、右手2、左手)について

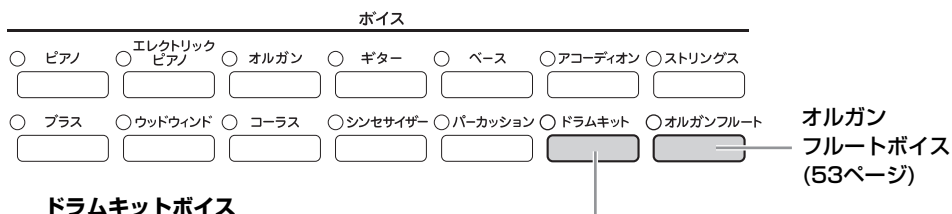
ボイスには、右手1、右手2、左手の3つの鍵盤パートがあります。鍵盤パートオン/オフボタンでこの3つのパートを組み合わせると同時に鳴らすことにより、厚みのある演奏ができます。



左手パートがオフのときは、全部の鍵盤で右手1、右手2パートの音が鳴ります。左手パートがオンのときは、F#2よりも低い鍵盤では左手パートの音が鳴り、これより高い鍵盤では右手1、右手2パートの音が鳴ります。右手パートと左手パートの境目(スプリットポイントといいます)では、鍵盤ランプが点灯します。スプリットポイントは変更できます(69ページ)

ボイスを選択/編集したい場合には、メイン画面上で目的のパートが選ばれているか確認する必要があります。

ボイスの種類



ドラムキットボイス

さまざまな打楽器の音色または効果音を各鍵盤で鳴らすことができます。別冊データリストのドラム/SFXキットリストを参考にして鳴らしてみてください。ボイス選択画面下部のMENU1に「ドラムキット」が表示されている場合は、[4▼]ボタンを押すと画面で割り当てを確認できます。詳しくはウェブサイト(4ページ)上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ボイスの特徴

ボイスの特徴は、ボイス選択画面でボイス名の上に、VRM、S. Art!、Live!、Cool!、Sweet!など表示されます。各表示の詳しい説明は、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。ここでは、VRMとS.Art! (スーパーアーティキュレーション)について紹介します。



VRMボイス(49ページ)

アコースティックピアノの弦共鳴音をよりリアルに再現できるボイスです。

スーパーアーティキュレーションボイス(S.Art!)(50ページ)

スーパーアーティキュレーションボイスでは、鍵盤の弾き方やペダルの踏み方しだいで、演奏に繊細な表情を付けることができます。

たとえば、ギターのスーパアーティキュレーションボイスでは、ドとレの音をレガートで続けて弾くと、レの音はハンマリング(右手で弦をはじくのではなく、左手で弦をたたく弾き方)の音になります。

ほかにもギターのアフレットノイズなどが鳴らせるなど、弾き方しだいで演奏をよりリアルなものにできます。

ピアノ演奏の初期設定に戻す(ピアノリセット)

電源を入れた直後では、全鍵域でCFXグランドの音色でピアノ演奏ができる状態になっています。パネルがどんな状態になっていても、簡単にこの状態に戻すことができます。

NOTE

ピアノルーム(40ページ)、ピアノロック(48ページ)に入っているときは、この機能は使えません。

1 [ピアノルーム]ボタンを2秒以上押し続けます。

画面にメッセージが表示されます。

2 [G] (RESET)ボタンを押します。

ピアノ演奏の初期設定に戻ります。

ピアノ演奏の初期設定のまま固定する(ピアノロック)

ピアノ演奏の初期設定のまま固定(ピアノロック)すると、パネル上のボタンを押しても設定が切り替わらず、ずっとピアノの設定のまま維持することができます。たとえば演奏会でピアノ演奏をしているときにあやまって別の音を鳴らしてしまう、などのハプニングを防ぎます。

1 [ピアノルーム]ボタンを2秒以上押し続けます。

画面にメッセージが表示されます。

2 [H] (LOCK)ボタンを押して、ピアノの設定を固定します。

ピアノロックを解除するには、もう一度[ピアノルーム]ボタンを2秒以上押します。
ピアノロックをしたまま電源を入れ直すと、ピアノロックした状態で電源が入ります。

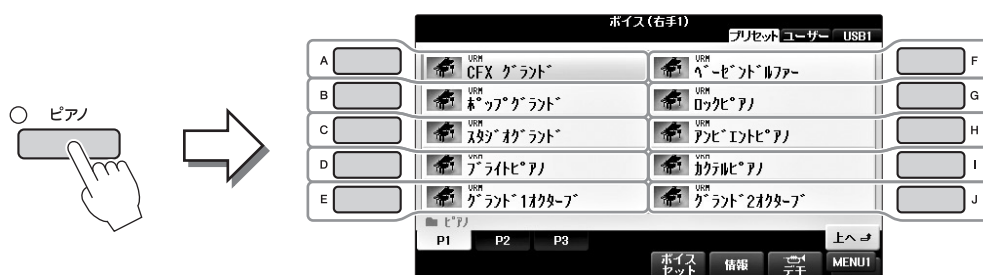
VRM機能による弦共鳴音を楽しむ

アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響あって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているの、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。初期設定では、VRM機能に対応したピアノ音色(以後、VRM音色と呼びます)を選んで演奏するだけで、VRMの効果を楽しめます。

VRM = Virtual Resonance Modeling (バーチャル・レゾナンス・モデリング)

1 VRM音色を選びます。

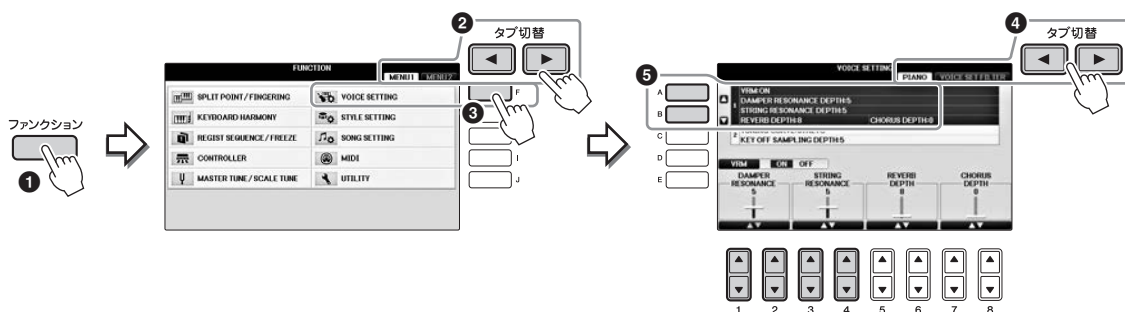
ボイスボタンの[ピアノ]を押してボイス選択画面を呼び出し、ボイス名の上に「VRM」の表示があるボイスを選びます。



2 演奏します。

VRM機能は初期設定ではオンですが、下記の画面でオン/オフを切り替えたり、効果のかかり具合を調節したりできます。

- ①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[F] VOICE SETTING →
- ④タブ切替[◀][▶] PIANO → ⑤[A]/[B] VRM



[D]ボタンでオン/オフ、[1▲▼]/[2▲▼]ボタンでダンパーペダルを踏んだ時の弦共鳴音、[3▲▼]/[4▲▼]ボタンで鍵盤を弾いた時の弦共鳴音のかかり具合をそれぞれ調節します。

NOTE

ここでの設定は、VRM音色を使用するパートすべてに共通でかかります。

スーパーアーティキュレーションボイスを使う

- 1 ボイス選択画面で、"S. Art"の表示が付いたボイスを選びます。
- 2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU1」を表示させます。
- 3 [6▼] (情報)ボタンを押して、各ボイスの詳しい演奏方法を確認します。
確認した奏法で演奏します。

右手1パートにスーパーアーティキュレーションボイスを選ぶと、左とまん中のペダルが自動的にアーティキュレーション効果をかけるための設定に切り替わります。そのため、左とまん中のペダルを踏んでも、本来の機能(ソフトとソステヌート)はかからなくなります。音色によってペダルの設定が切り替わるのを防ぎたい場合は、以下の操作で「SWITCH WITH R1 VOICE」をオフに設定してください。

[ダイレクトアクセス] → 右ペダルを踏む → [H] (SWITCH WITH R1 VOICE)

NOTE

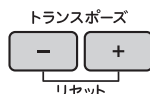
スーパーアーティキュレーションボイスは、他のモデルとの互換性はありません。したがって、これらのボイスを使ったスタイル/ソングデータを、スーパーアーティキュレーションボイスを搭載していない楽器で再生した場合は、この楽器で鳴っていたサウンドを再現できません。

NOTE

スーパーアーティキュレーションボイスは、演奏する鍵域や鍵盤を弾く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。したがって、HARMONY/ECHOのエフェクトをかけたり、移調したり、ボイスセットの設定を変えたりすると、意図しない鳴り方になることがあります。

音の高さを半音単位で調整する(トランスポーズ)

トランスポーズ[-]/[+]ボタンで、楽器の音全体(鍵盤演奏、ソング再生、スタイル再生など)を半音単位で移調できます。[-]と[+]を同時に押すと、初期状態に戻ります。



楽器の音全体(MASTER)、鍵盤演奏音(KBD)、ソング再生音(SONG)を別々に移調したいときは、ミキサー画面で操作します。[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] TUNE → [1▲▼]~[3▲▼] TRANSPOSE

NOTE

ドラム/SFXキットボイスは移調できません。

チューニング

この製品のチューニングは、初期設定でA3=440.0Hz、平均律に設定されています。これらの設定は、[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [E] MASTER TUNE/SCALE TUNE → タブ切替[◀][▶] MASTER TUNEとSCALE TUNEで変更できます。

また、鍵盤演奏音のチューニングをパート(右手1、右手2、左手)ごとに設定したい場合は、ミキサー画面(100ページ)のTUNEタブで設定できます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」10章をご覧ください。

Hz (ヘルツ)とは

音の高さ(1秒間に音波が何回振動するか)を示す単位です。ピアノでは通常440.0Hzで調律することが多いので、この楽器では440.0Hzを基本設定としています。

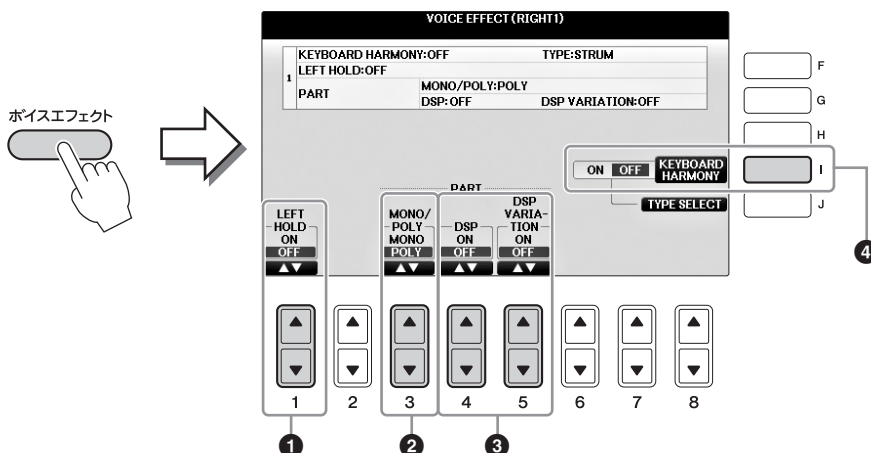
ボイスにエフェクト(効果)をかける

本体には、鍵盤での演奏音に深さや広がりを付け表現の幅を広げる、いろいろな種類のエフェクトが用意されています。

1 メイン画面上で、エフェクトをかける鍵盤パートを選びます。



2 [ボイスエフェクト]ボタンを押して、設定画面を表示させます。



3 画面下の[1▲▼]、[3▲▼]~[5▲▼]、[I] (KEYBOARD HARMONY)ボタンで、かけたいエフェクトをONにします。

①	[1▲▼]	LEFT HOLD (レフトホールド)	鍵盤から指を離しても、左手パートのボイスを鳴らしたままにできます。ストリングスのように減衰しないボイスを鳴り続けるようにしたり、ピアノのように減衰するボイスをより遅く減衰するように(ダンパーペダルを踏んだように)できます。レフトホールドをONにすると、メイン画面の左手パート表示部にHマークが表示されます。
②	[3▲▼]	MONO/POLY (モノ/ポリ)	ボイスを、モノフォニック(単音)で発音させるかポリフォニック(複音)で発音させるか、切り替えます。MONO (モノ)に設定すると、管楽器などの単音発音楽器をよりリアルに演奏できます。また(選んだボイスにもよりますが)、レガートに演奏したときにポルタメント効果が付きます。 ポルタメントとは ポルタメントとは、高さの異なる複数の音をなめらかにピッチ変化させることです。

2

いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)

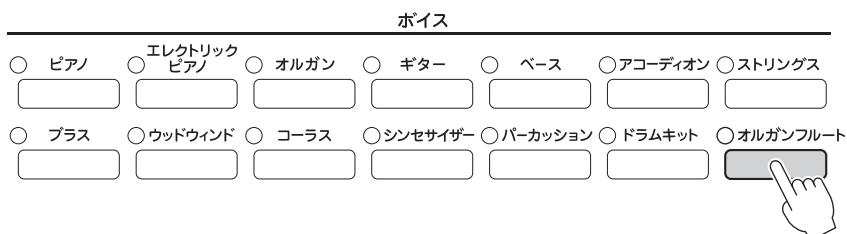
③	[4▲▼]	DSP (ディーエスピー)	内蔵のデジタルエフェクト(DSP)により、音に臨場感や広がり感を付けることができます。たとえば、コーラスやディレイなど、さまざまなエフェクトタイプが用意されています。 • 「DSP」では、現在選ばれている鍵盤パートのボイスに対してDSPをかけるかどうかを設定します。 • 「DSP VARIATION」では、DSPのバリエーションを有効にするかどうかを決めます。バリエーションとは、たとえばロータリースピーカーエフェクトの回転スピード(速い/遅い)などのことです。 NOTE DSPエフェクトのかかり具合を細かく設定することもできます。ボイス選択画面 → [8▼] MENU1 → [5▼] (ボイスセット) → タブ切替[◀ ▶] EFFECT/EQ → [A]/[B] DSPを選ぶと設定画面が開きます。
	[5▲▼]	DSP VARIATION (ディーエスピーバリエーション)	
④	[I]	KEYBOARD HARMONY (キーボードハーモニー)	ONに設定して、スタイルを再生(58ページ)すると、左手で弾いたコードに応じて、右手鍵域で弾いた演奏にハーモニーの効果付けます。KEYBOARD HARMONYのタイプによっては、左手で弾くコードに関係なく効果が付きます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

オルガン音色を作る

[オルガンフルート]ボタンで、オリジナルのオルガンサウンドを作り自由に演奏できます。伝統的なオルガンのように、フッテージレバーで各フッテージの音量を上げ下げして音を作ります。

1 [オルガンフルート]ボタンを押します。

オルガンフルートのフッテージ画面が表示されます。

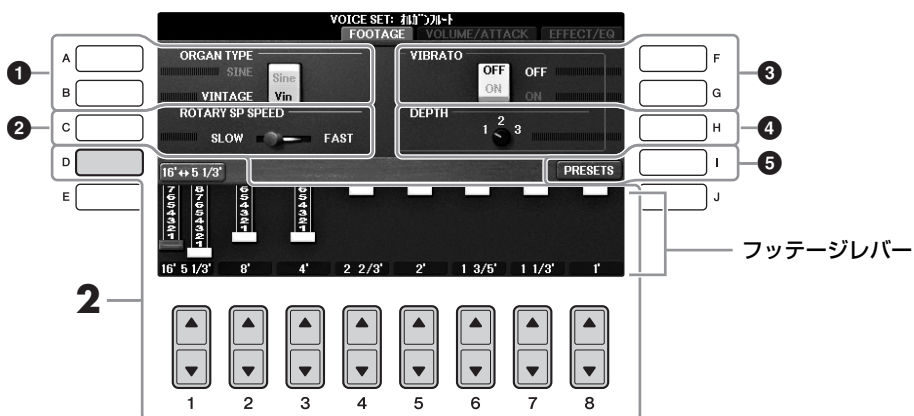


2 [1▲▼]~[8▲▼]ボタンで、各フッテージの音量を調節します。

[1▲▼]ボタンでは、フッテージ16'と5 1/3'の両方を調節できます。[D]ボタンで、どちらのフッテージを調節するかを切り替えます。

フッテージとは

各フッテージレバーに表示されている16'や8'などの数字のことです。この数字はパイプオルガンのパイプの長さ、つまり音の高さを表しています。8'というのは8フィート、4'は4フィートで、8フィートよりも1オクターブ高い音、16'は16フィートで、8フィートよりも1オクターブ低い音が出ます。



また、必要に応じて、オルガンタイプを変えたり、ロータリースピーカーやビブラートの設定を変えたりもできます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

①	[A]/ [B]	ORGAN TYPE (オルガンタイプ)	オルガン音色作成のもとになる音色のタイプを、SINE (サイン波) かVINTAGE (ビンテージ)の中から選びます。
②	[C]	ROTARY SP SPEED (ロータリースピー カースピード)	ロータリースピーカーの速度を切り替えます。「EFFECT/EQ」画面で、DSPタイプにRotaryまたはRotが付いたエフェクトが選択され、ボイスエフェクト「DSP」(52ページ)がオンになっている場合のみ有効です。

③	[F]	VIBRATO OFF (ビブラートオフ)	オルガンフルートボイスに対するビブラート効果をオン/オフします。
	[G]	VIBRATO ON (ビブラートオン)	
④	[H]	VIBRATO DEPTH (ビブラートデプス)	ビブラートの深さを調節します。ボタンを押すたびに、1、2、3の順番で深さが切り替わります。
⑤	[I]	PRESETS (プリセット)	プリセットのオルガンフルート音色を選ぶことのできる選択画面が開きます。ここで選んだオルガンフルート音色を編集して、オリジナルの音色を作ることもできます。

NOTE

VOLUME/ATTACK画面やEFFECT EQ画面については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

- 3** [I] (PRESETS)ボタンを押して、オルガンフルートの選択画面に入ります。
- 4** タブ切替[◀][▶]ボタンで、作った音色を保存する場所(ユーザーまたはUSB)を選びます。
- 5** 81ページの保存操作に従って、作ったオルガン音色を保存します。

注記

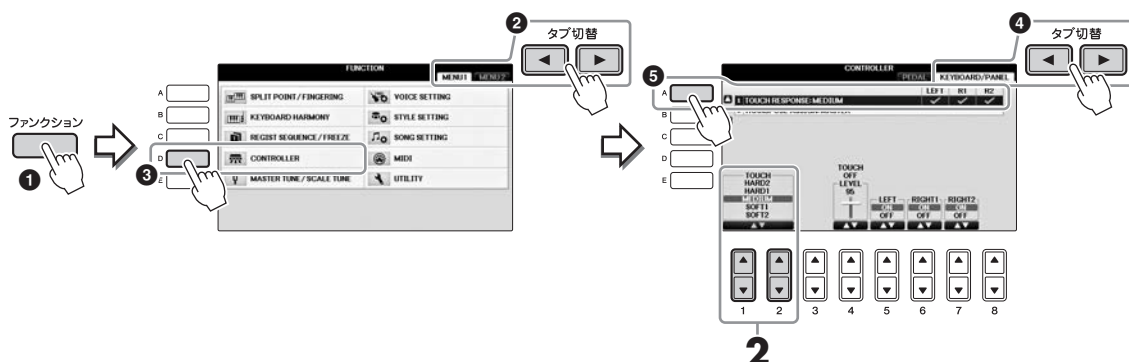
設定を保存せずにほかのボイスに切り替えると、ここでの設定は失われます。ご注意ください。

鍵盤を弾いたときの感度を設定する

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を変えられます(鍵盤自体の重さが変わるわけではありません)。選んだ設定は、ピアノ以外の音色を選んだ場合にも共通で有効となります。

1 設定画面を表示させます:

- ①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[D] CONTROLLER →
- ④タブ切替[◀][▶] KEYBOARD/PANEL → ⑤[A] TOUCH RESPONSE



2 [1▲▼]/[2▲▼]ボタンで、鍵盤のタッチ感度を選びます。

- **HARD2** 重いタッチです。強く弾かないと大きな音が出ません。
- **HARD1** HARD 2とMEDIUMの中間のタッチです。
- **MEDIUM** 標準的なタッチです。
- **SOFT1** SOFT 2とMEDIUMの中間のタッチです。
- **SOFT2** 軽いタッチです。弱く弾いても大きな音が出ます。

NOTE

音に強弱を付けたくないときは、[5▼]～[7▼]ボタンを押して、鍵盤パート(47ページ)ごとにタッチをオフにし、音量を[4▲▼]ボタンで調節します。

NOTE

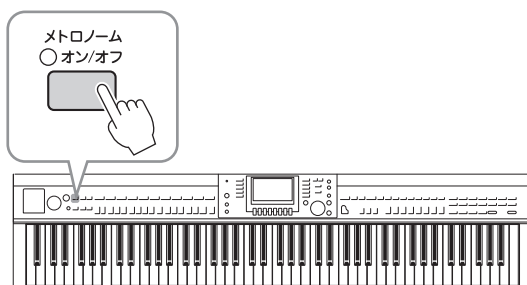
楽器音(ボイス)によっては、音に強弱が付かないものもあります。

2

いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)

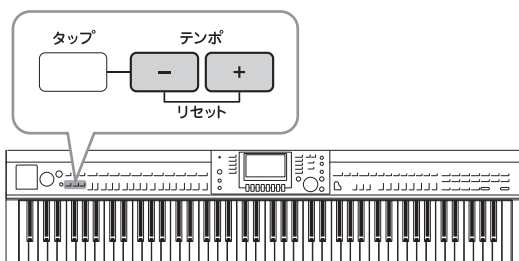
メトロノームを使う

メトロノーム[オン/オフ]ボタンで、メトロノームをスタート/ストップできます。正確なテンポで練習したいとき、また、実際のテンポを音で確かめたいとき、メトロノームをお使いください。



メトロノームのテンポを調節する

- 1 テンポ[－]または[＋]ボタンを押して、画面中央にテンポ画面を表示させます。



- 2 テンポ[－]/[＋]ボタンで、テンポを調節します。

ボタンを押し続けることによって値が連続的に変わります。また、[データダイアル]でテンポを調節することもできます。

テンポ[－]/[＋]ボタンを同時に押すと、テンポは初期値に戻ります。

NOTE

テンポ画面の数値は、1分間に刻まれる4分音符の回数です。

- 3 [戻る]ボタンを押して、テンポ画面を閉じます。

[戻る]ボタンを押さずにいると、数秒後に自動的にテンポ画面が閉じます。

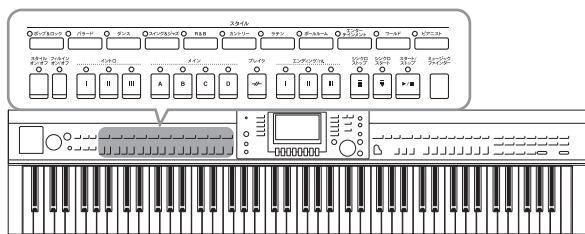
NOTE

メトロノームの拍子や音量などを変えることもできます。[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [J] UTILITY → タブ切替[◀][▶] CONFIG1 → [B] 2 METRONOME
詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。



GM/XGボイスを選ぶ	ボイス選択画面 → [8▲] (上へ) → [2▲] (P2)
VRM音色の残響音のかかり具合を調節する	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [F] VOICE SETTING → タブ切替[◀][▶] PIANO → [A] 1 VRM/DAMPER RESONANCE DEPTH/STRING RESONANCE DEPTH/REVERB DEPTH/CHORUS DEPTH
ピアノ音色の調律曲線とキーオフ音の音量を調節する	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [F] VOICE SETTING → タブ切替[◀][▶] PIANO → [B] 2 TUNING CURVE/KEY OFF SAMPLE
ドラムキットの各打楽器音の配置を確認する	ボイス選択画面でドラムキットボイス選択 → [8▼] MENU1 → [4▼] (ドラムキット)
ハーモニー / エコーの設定	[ボイスエフェクト] → [J] (TYPE SELECT) または [ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [B] KEYBOARD HARMONY
ピッチに関する設定	
・ 鍵盤全体のピッチを微調整する	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [E] MASTER TUNE/SCALE TUNE → タブ切替[◀][▶] MASTER TUNE
・ 音律(調律法)を選ぶ	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [E] MASTER TUNE/SCALE TUNE → タブ切替[◀][▶] SCALE TUNE
・ トランスポーズボタンを効かせるパートを選ぶ	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [D] CONTROLLER → タブ切替[◀][▶] KEYBOARD/PANEL → [B] 2 TRANSPOSE ASSIGN
ボイスを編集する(ボイスセット)	ボイス選択画面 → [8▼] MENU1 → [5▼] (ボイスセット)
ボイスに含まれる設定を呼び出さないようにする	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [F] VOICE SETTING → タブ切替[◀][▶] VOICE SET FILTER
オルガンフルートの設定を編集する	[オルガンフルート] → タブ切替[◀][▶] VOLUME/ATTACKまたは EFFECT/EQ

リズムや自動伴奏を鳴らす(スタイル)



スタイルを使えば、左手でコードを押さえるだけでコードに合った伴奏を自動で鳴らせます。これにより、一人で演奏しても、バンドやオーケストラの伴奏を付けられます。ポップス、ジャズなどいろいろな音楽ジャンルのスタイルがあります。

3

スタイルに合わせて演奏する

1 スタイルボタンの1つを押して、スタイルカテゴリーを選びます。



2 [A]~[J]ボタンで、スタイルを選びます。

[1▲]~[4▲]ボタンを押すか、手順1で選んだスタイルボタンをもう一度押すことで、画面のページを切り替えられます。

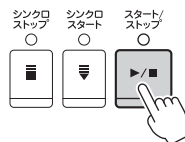


リズムを鳴らす

スタイルは8パートで構成されています(67ページ)。スタイル[スタート/ストップ]ボタンを押すと、スタイルのリズムパートだけが鳴ります。もう一度同じボタンを押すと、リズムはストップします。

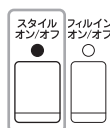
NOTE

内蔵のスタイルには、リズムパートが入っていないため、リズムが鳴らないものもあります。このようなスタイルも、手順5ではスタイルの全パートがスタートするため、リズム以外のパートを鳴らしてお楽しみいただけます。



3 [スタイル オン/オフ]ボタンがオン(ランプが点灯)になっていることを確認します。

オフ(ランプが消灯)になっている場合は、ボタンを押してオンにします。



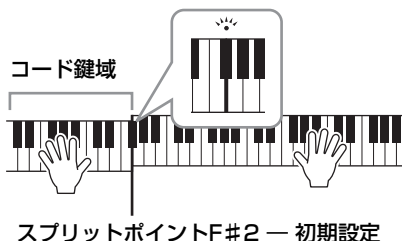
4 [シンクロスタート]ボタンを押して、シンクロスタートをオンにします。



5 左手でコード(60ページ)を押さえると、スタイルの全パートがスタートします。

スタイルのリズムに合わせて、左手でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾きます。

[スタイル オン/オフ]ボタンがオンの場合、鍵盤の左手側が、スタイル再生用のコードを押さえるための鍵域(コード鍵域)になります。



NOTE

スプリットポイントは変更できます(69ページ)。

NOTE

鍵盤の右手側でコード演奏をする設定にすることもできます(69ページ)。

6 スタイル[スタート/ストップ]ボタンを押して、スタイル再生をストップします。

エンディング/rit. [I]～[III]ボタンのいずれかを押してストップすることもできます(62ページ)。

NOTE

スタイルは移調できます。50ページをご覧ください。

スタイルの特徴

内蔵のスタイルには、スタイルの特徴を表すアイコンが表示されます。



• Pro (プロ)

あなたが指定したとおりのコードが鳴るスタイルです。テンションノートを含む複雑なコードを曲中で指定しても音楽的なハーモニーをくずすことなくスタイルが鳴りますので、幅広いアレンジをお楽しみいただけます。

• Session (セッション)

メインセクションに、スタイル独特のテンションノートやコード変化を伴う伴奏リフなどが加えられ、よりリアルで派手な伴奏となっています。

ただし、メジャーコードを弾いただけでセブンスの音が伴奏に混ざる、オンベースコードに正確に反応しない場合があるなど、曲によっては適切な伴奏が鳴らないことがあります。特定カテゴリーの曲で、パンチのある演奏を楽しむことができます。

• Pianist (ピアニスト)

ピアノ音色のみによるスタイルです。左手でコードを押さえるだけでアルペジオパターンやストライドピアノの左手パターンなどが演奏できます。

コード表

ここでは、初めてコードを弾く方のために、基本的なコードをご紹介します。
このほかにもたくさんのコードがありますので、もっと詳しく知りたい場合は、
市販のコード表などをご参照ください。

★がルート(根音)です。

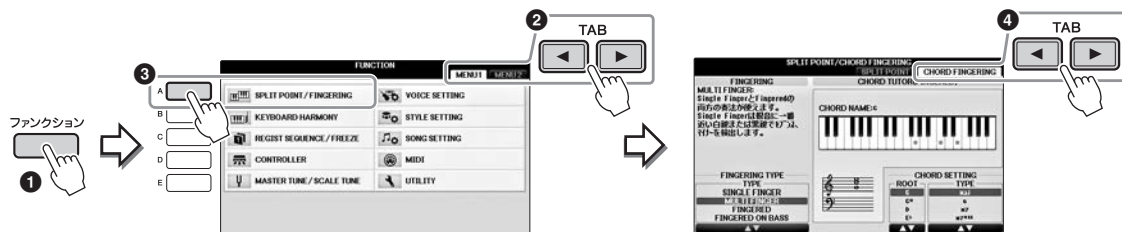
メジャー	マイナー	セブンス	マイナーセブンス	メジャーセブンス
C 	Cm 	C7 	Cm7 	CM7
D 	Dm 	D7 	Dm7 	DM7
E 	Em 	E7 	Em7 	EM7
F 	Fm 	F7 	Fm7 	FM7
G 	Gm 	G7 	Gm7 	GM7
A 	Am 	A7 	Am7 	AM7
B 	Bm 	B7 	Bm7 	BM7

コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変える

フィンガリングタイプを変更すれば、コードの構成音すべてを左手で押さなくても、適切な自動伴奏が再生できます。

1 設定画面を表示させます。

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[A] SPLIT POINT/CHORD FINGERING → ④タブ切替[◀][▶] CHORD FINGERING



2 [1▲▼]~[3▲▼]ボタンで、フィンガリングタイプを選びます。

シングルフィンガー	簡単なルールに従って鍵盤を1〜3つ押さえるだけで、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのコードを認識します。スタイル再生に対してだけ有効です。 C メジャー ルートキーだけ押さえる Cm マイナー ルートキーと、左の黒鍵を押さえる C7 セブンス ルートキーと、左の白鍵を押さえる Cm7 マイナーセブンス ルートキーと、左の黒鍵と白鍵を押さえる
マルチフィンガー	「シングルフィンガー」の押鍵ルールと「フィンガード」の押鍵ルールの両方が使えます。
フィンガード	コードを構成する音をそのまま押すことによって、コードを指定する方法です。詳細は別冊データリストをご覧くださいか、手順1の画面に表示されるコードチューター機能で調べることができます。
フィンガードオンベース	フィンガードで認識されるコードに加え、オンベースコード(押さえたコード音の中で一番低い音がベース音になります)も認識しますので、より高度なコード進行を利用した演奏が可能になります。
フルキーボード	左手/右手鍵域に関係なく、全鍵域での押鍵をもとにコードを検出します。同時に全鍵域で通常どおり鍵盤演奏も行なえます。
AIフィンガード	基本的にはフィンガードと同じですが、鍵盤を2音以下しか押さえなくても、1つ前に弾いたコードなどをもとに適切なコードを推定します。 NOTE ピアノルームでは、コード鍵域を押鍵すると、伴奏音に加え、選択しているピアノ音色の押鍵音も鳴ります。
AIフルキーボード	全鍵域で通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても自動伴奏が再生されます。特定のコードの弾き方にとられず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏がつきます。(曲のアレンジによっては、AIフルキーボードでの演奏に合わない場合もあります。)基本的にはフルキーボードと似ていますが、鍵盤を2音以下しか押さえなくても、1つ前に再生されたコードなどをもとに適切なコードを推定します。ただし、9thと11thと13thは認識されません。スタイル再生に対してだけ有効です。

CHORD DETECTION AREA(69ページ)がUPPERに設定されている場合は、フィンガリングタイプは自動的に「フィンガード*」に設定され、コード鍵域はスプリットポイント(レフト)の右側に設定されます。

コードの押さえ方を画面に表示する

コード名がわかっていてコードの押さえ方がわからない場合は、コードの押さえ方を画面に表示できます(コードチューター機能)。

上述のCHORD FINGERING画面で、[6▲▼]〜[8▲▼]ボタンでコードのルート音(根音)とコードタイプを選ぶと、画面にコードの押さえ方が表示されます。

NOTE

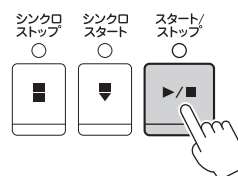
コードによっては、一部の構成音が表示されないものもあります。

スタイル再生を操作する

再生スタート/ストップ

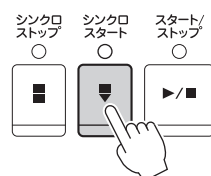
■ スタイル[スタート/ストップ]ボタン

スタイルのうち、リズムパートだけをスタートします。もう一度押すとストップします。



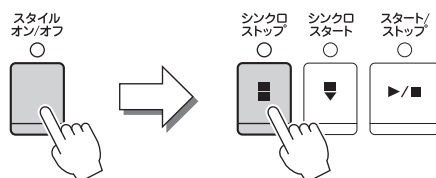
■ [シンクロスタート]ボタン

このボタンを押すと、スタイル再生が待機状態になります。[スタイル オン/オフ]ボタンがオンのときは、コード鍵域を押さえると同時にスタイル再生がスタートします。[スタイル オン/オフ]ボタンがオフのときは、どの鍵盤を弾いてもスタイル再生(リズムのみ)がスタートします。スタイル再生中に[シンクロスタート]ボタンを押すと、スタイル再生はストップし、待機状態に戻ります。



■ [シンクロストップ]ボタン

[スタイル オン/オフ]ボタンがオンの場合だけ有効なボタンです。シンクロストップをオンにすると、コード鍵域で鍵盤を押さえている間はスタイルを再生させ、鍵盤から指を離すとスタイル再生をストップします。

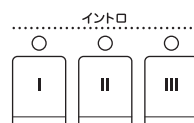


NOTE

フィンガリングタイプ(60ページ)でFull KeyboardまたはAI Full Keyboardを選んだ場合は、シンクロストップをオンにできません。

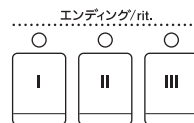
■ イントロ[I]~[III]ボタン

演奏にイントロを付けることができます。各内蔵スタイルに、3つのイントロがあります。イントロ[I]~[III]のいずれかを押してからスタイルをスタートすると、イントロを演奏してからメイン演奏に移ります。



■ エンディング/rit. [I]~[III]ボタン

演奏にエンディングを付けることができます。各内蔵スタイルに、3つのエンディングがあります。スタイル再生中に、エンディング/rit. [I]~[III]ボタンのいずれかを押すと、エンディングが鳴ったあと、スタイルは自動的にストップします。エンディング演奏中にもう一度同じボタンを押すと、リタルダンド(徐々にテンポを遅くすること)をかけることができます。



NOTE

メインセクション再生中にエンディング[I]ボタンを押すと、エンディング1のパターンの前に、自動的にフィルインが1小節入ります。

イントロ、メイン、ブレイク、エンディングボタンのランプについて

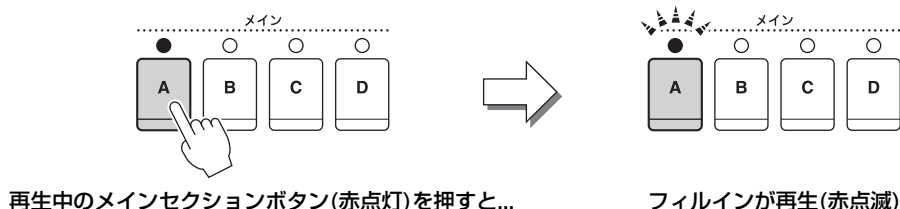
- 赤点灯: データが入っていて、現在選ばれています。
- 赤点滅: 次に再生されるセクションです。
*メイン[A]~[D]ボタンは、フィルイン演奏中にも赤点滅します。
- 緑点灯: データが入っていて、現在選ばれていません。
- 消灯: データが入っていません。

演奏中のセクション切り替え

演奏を盛り上げるために、同じスタイルの中で伴奏パターンを切り替えたりフィルインを入れたりできます。

■ メイン[A]～[D]ボタン

曲のメイン部分の伴奏パターンです。数小節の伴奏パターンが繰り返し演奏されます。各内蔵スタイルに、4つのパターンがあります。スタイル再生中に、メイン[A]～[D]ボタンのいずれかを押します。再生中のメインのボタンを押すと、フィルインが入ります。

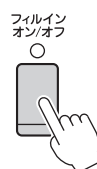


3

リズムや自動伴奏を鳴らす(スタイル)

セクション切り替え時に自動的にフィルインを入れる

[フィルイン オン/オフ]ボタンをオンにしておくと、メインを切り替えたときに自動的にフィルインが演奏されます。



■ [ブレイク]ボタン

曲の流れを一時中断することで区切りを付けることができます。スタイル再生中に[ブレイク]ボタンを押すと、1小節のブレイクが入ります。



テンポを変える

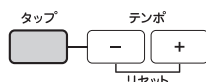
■ テンポ[－]/[＋]ボタン

テンポ[－]/[＋]ボタンでテンポを変えられます。テンポ画面が表示されている間に、[データダイアル]を回してテンポを調節することもできます。テンポ[－]/[＋]ボタンを同時に押すと、初期テンポに戻ります。



■ [タップ]ボタン

スタイル再生中に[タップ]ボタンを2回たたくと、たたいたテンポに切り替わります。再生が停止しているときにタイミングを取りながらボタンをたたくと(4分の4拍子の場合は4回)、そのテンポで再生がスタートします。



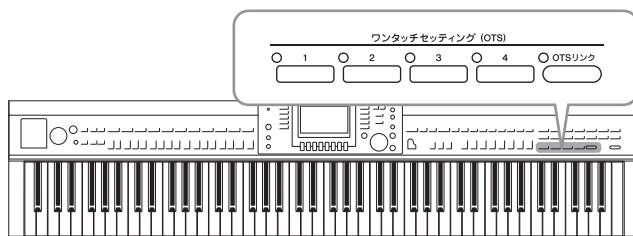
選んだスタイルに最適なボイスなどを呼び出す (ワンタッチセッティング=OTS)

選んだスタイルに合ったボイス、エフェクト、およびペダル設定をワンタッチで簡単に呼び出せます。使いたいスタイルが決まっているときは、ボイス選択をワンタッチセッティングに任せてみましょう。

1 スタイルを選びます(58ページ手順1～2)。

2 ワンタッチセッティング(OTS) [1]～[4]ボタンのいずれかを押します。

ボイス、エフェクト、およびペダル設定など、選択中のスタイルに最適な設定が呼び出されます。
また、自動伴奏とシンクロスタートは、自動的にオンになります。



3 左手でコードを押さえると同時にスタイルがスタートします。

1つのスタイルには、4つのワンタッチセッティングが用意されています。
ワンタッチセッティング(OTS) [1]～[4]ボタンを切り替えて、ほかの設定も試してみてください。

NOTE

自分で作った設定をワンタッチセッティングとして登録することもできます。ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

スタイルのメイン切り替えとワンタッチセッティングの切り替えを連動させる(OTSリンク)

[OTSリンク]ボタンをオンにしておくと、スタイルのメイン[A]～[D]を切り替えたときに自動的にワンタッチセッティングが切り替わります。メインのA～Dとワンタッチセッティングの1～4が連動します。

○ OTSリンク



NOTE

ワンタッチセッティングが実際に呼び出されるタイミング(OTSリンクタイミング)を変更できます。ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

演奏に合うスタイルを呼び出す(スタイルレコメンダー)

演奏に合うおすすめのスタイルを呼び出す機能です。

- 1 **スタイル選択画面(58ページ)で、[8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU1」を表示させます。**
- 2 **[7▼] (スタイルレコメンド)ボタンを押して、スタイルレコメンダー画面を表示させます。**
鍵盤がBOを境に分割され、左側にドラム音(キック、スネア、ハイハット)、右側にピアノ音が割り当てられます。



- 3 **スタイルレコメンダー機能を使ってスタイルを呼び出します。**

- 3-1 **[J] (START)ボタンを押すと演奏の待機状態になり、メトロノームが鳴り出します。**
[J]ボタンを押すとキャンセルできます。
- 3-2 **テンポ[+]/[-]ボタンや[タップ]ボタンで演奏したいテンポに設定し、[E] (METRONOME)ボタンで3拍子か4拍子に設定します。**
- 3-3 **メトロノームの音に合わせて、ピアノ鍵域で1～2小節弾きます。両手演奏がおすすめです。**
コードのバックギングパターンを弾いたり、低音域でベースを弾いてみましょう。または、ドラム鍵域でリズムを1～2小節弾きます。
演奏が数秒で解析され、最もおすすめのスタイルがスタートします。また、おすすめスタイルの候補が一覧で表示されます。

例1

ピアノ鍵域で下記の曲を弾いてみましょう。



NOTE

弱起で始まる曲は、次の小節頭から弾き始めると、より合う結果がおすすめされる場合があります。

おすすめのスタイルが一覧表示されます。

例2

ドラム鍵域で下記のリズムを弾いてみましょう。



似たドラムパターンを持つスタイルが一覧表示されます。

4 [1▲▼]～[6▲▼]ボタンを使って、一覧の中からスタイルを選びます。

演奏に合うスタイルかどうか、鍵盤を弾いて確かめてみましょう。

演奏に合うスタイルが呼び出されていない場合は、[J] (RETRY) ボタンを押して手順3-3へ戻り、手順3-3～4を繰り返します。

5 気に入ったスタイルが見つかったら、[7▲▼]/[8▲▼] (OK)ボタンを押してスタイルレコメ ンダー画面を抜けます。

6 選んだスタイルを使って演奏してみましょう。

パートごとに鳴らす/鳴らさないを設定する、ボイスを変える

スタイルは、RHY1 (リズム1)～PHR2 (フレーズ2)の8つのパートで構成されています。各パートの演奏は、それぞれ対応したチャンネルで再生されます。スタイルを再生させながら各チャンネルをオン/オフして、スタイルの雰囲気を変えてみましょう。

スタイルチャンネル

- **RHY1/2 (リズム1、2)**

スタイルの中心となるリズムパートです。通常、ドラムやパーカッションのパターンが入っています。

- **BASS (ベース)**

ベースパートです。

- **CHD1/2 (コード1、2)**

ピアノやギターなどの音で作られる、コード伴奏のパートです。

- **PAD (パッド)**

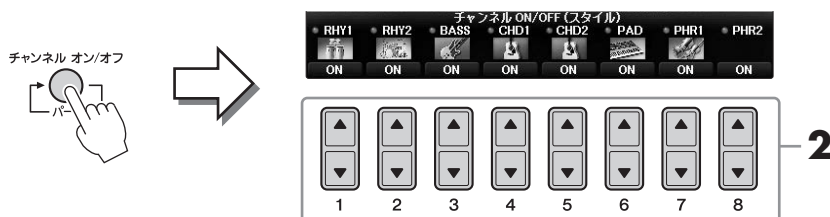
ストリングス、オルガンなどの音を使った、長く伸びるコードの響きを付けるパートです。

- **PHR1/2 (フレーズ1、2)**

パンチの効いたブラスセクションやコードアルペジオなど、スタイルを装飾するパートです。

1 [チャンネル オン/オフ]ボタンを押して、チャンネル ON/OFF (スタイル)画面を表示させます。

チャンネル ON/OFF (スタイル)画面が選ばれていないときは、もう一度[チャンネル オン/オフ]ボタンを押します。



2 [1▼]～[8▼]ボタンで、各チャンネルをオン/オフします。

1チャンネルだけ再生するときには、再生したいチャンネルのボタンを押し続けて「SOLO(ソロ)」にします。ソロを解除するには、もう一度ソロチャンネルのボタンを押します。

各チャンネルのボイスを変更する

必要に応じて、[1▲]～[8▲]ボタンで各チャンネルのボイスを変更します。

[1▲]～[8▲]ボタンを押すと、ボイス選択画面が表示されるので、ボイスを選びます。ボイスの選び方は44ページをご覧ください。

NOTE

ここでの設定を、レジストレーションメモリーに保存できます。97ページをご覧ください。

3 [戻る]ボタンを押してチャンネル ON/OFF画面を閉じます。

スタイル再生音と手弾き音の音量をそれぞれ調節する

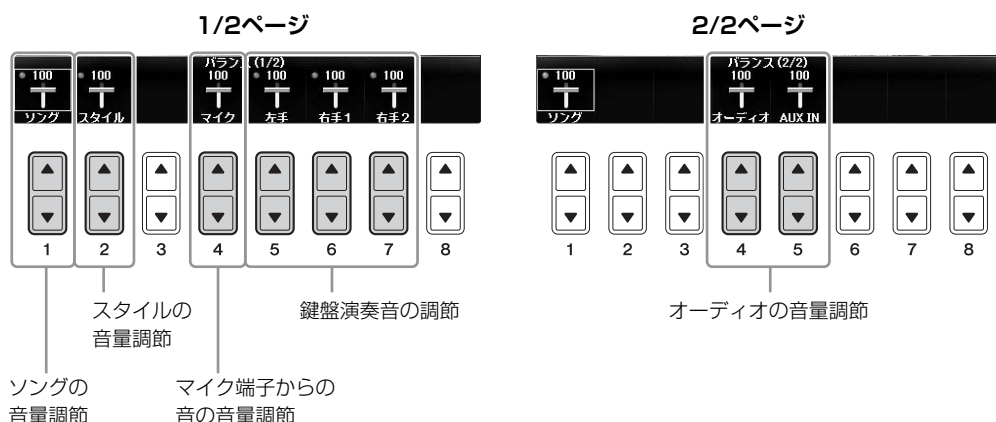
スタイルやソング(71ページ)の音にくらべて、鍵盤演奏音が小さすぎる/大きすぎる、などと感じたときにそれぞれの音量を調節できます。

同様に、オーディオファイルの音量、マイク端子からの音や[AUX IN]端子からの音、無線LAN接続されたスマートデバイスから受信したオーディオ(108ページ)の音量も調節できます。

1 メイン画面で[C] (バランス)ボタンを1度か2度押して、「バランス(1/2)」画面を表示させます。

バランス画面は2ページあります(1/2と2/2)。

スタイル、ソング、鍵盤演奏音(右手1、右手2、左手)、マイク端子からの音の音量調節は1/2ページ、オーディオの音量調節は2/2ページで行ないます。



NOTE

USB無線LANアダプター UD-WL01を楽器に接続すると、「WLAN」がBALANCE 2/2ページに表示され、無線LAN接続されたスマートデバイスから受信したオーディオ(108ページ)の音量も調節できます。

2 [1▲▼]~[8▲▼]ボタンを使って、各パートの音量を調節します。

スタイルの音量調節は[2▲▼]ボタン、鍵盤演奏音の各パート(右手1、右手2、左手)は[5▲▼]~[7▲▼]ボタンでそれぞれ調節します。

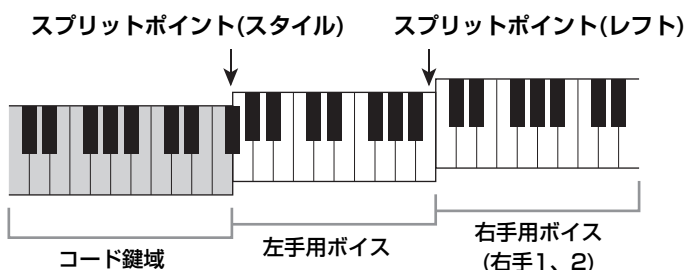
NOTE

ミキサー画面では、各スタイルパートと各ソングチャンネルのボリュームを調整することもできます(100ページ)。

3 [戻る]ボタンを押してバランス画面を閉じます。

スプリットポイントを変更する

鍵盤の機能を左右で分割するポイントをスプリットポイントといいます。左手用ボイスと右手用ボイスの領域を分けるスプリットポイント(レフト)と、コード鍵域を指定するスプリットポイント(スタイル)があります。この2つは初期設定では同じ鍵盤位置(F#2)になっていますが、違う位置に設定することもできます。



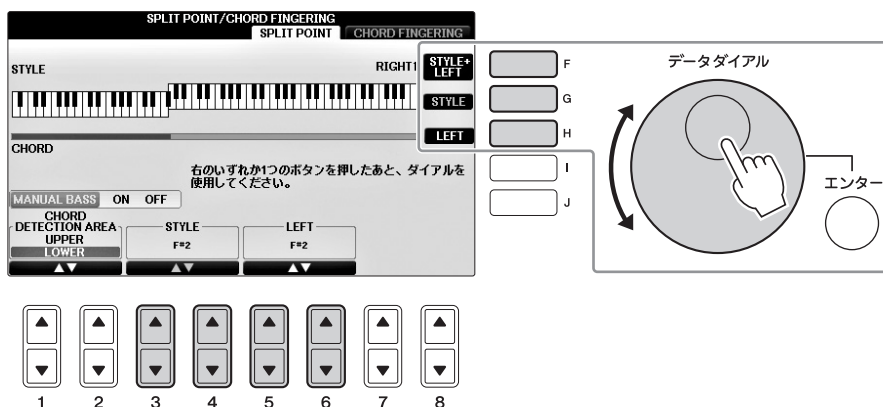
1 設定画面を表示させます。

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [A] SPLIT POINT/CHORD FINGERING → タブ切替[◀][▶] SPLIT POINT

2 スプリットポイントを設定します。

[F]～[H]ボタンを押して設定したいスプリットポイントを選んだあと、[データダイアル]を回します。

「STYLE+LEFT」を選ぶと、スプリットポイント(スタイル)とスプリットポイント(レフト)を同じ位置に設定できます。「STYLE」または「LEFT」を選ぶと、スプリットポイント(スタイル)、スプリットポイント(レフト)をそれぞれ設定できます。



NOTE

- スプリットポイント(レフト)はスプリットポイント(スタイル)より左側には設定できません。
- [1▲▼]/[2▲▼]ボタンでUPPERを選ぶと、コード鍵域がスプリットポイント(レフト)の右側になります。このとき [E]ボタンで MANUAL BASSをオンにすると、右手でスタイルを再生させながら、左手で自由にベースパートなどを演奏できます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)のリファレンスマニュアルをご覧ください。

スタイルの互換性

この楽器のスタイルは、SFF GEフォーマット(11ページ)で作成されています。一般的なSFFファイルを読み込むこともできますが、読み込んだSFFファイルをこの楽器上で保存すると、SFF GEフォーマットに変換されます。SFF GEフォーマットに変換されたスタイルファイルは、SFF GE対応の楽器上でしか再生できなくなります。

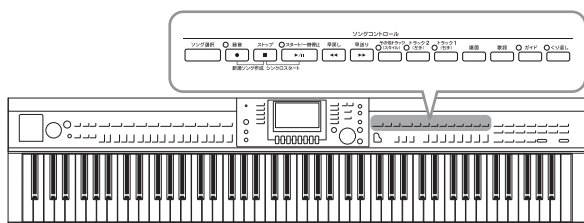
もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」3章をご覧ください。



スタイルに関する設定	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [G] STYLE SETTING
右手でコード演奏をしながら、左手でベースラインを弾く	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [A] SPLIT POINT/ CHORD FINGERING → タブ切替[◀][▶] SPLIT POINT
選んだスタイルで演奏できる曲を検索する(レパートリー)	スタイル選択画面 → [A]~[J] → [8▼] MENU1 → [4▼] (レパートリー)
ワンタッチセッティングにパネル設定を登録する	[メモリー] + ワンタッチセッティング(OTS) [1]~[4]
ワンタッチセッティングの内容を確認する	スタイル選択画面 → [A]~[J] → [8▼] MENU1 → [6▼] (OTS情報)
スタイルを制作する (スタイルクリエイター)	[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [A] STYLE CREATOR
- リアルタイム録音 - ステップ録音 (音符を1音1音入力する) - スタイル組み立て - リズムのノリを変える - チャンネル単位で編集する - スタイルファイルフォーマットの項目を設定する	→ タブ切替[◀][▶] BASIC → タブ切替[◀][▶] EDIT → [G] (STEP REC) → タブ切替[◀][▶] ASSEMBLY → タブ切替[◀][▶] GROOVE → タブ切替[◀][▶] CHANNEL → タブ切替[◀][▶] PARAMETER

曲(ソング)を再生、練習する



クラビノーバでは、内蔵曲や市販のMIDI形式の曲データなどを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習をすることもできます。

4

曲(ソング)を再生、練習する

ソングを再生する

以下のソングが再生できます。

- 楽器に内蔵されているソング(ソング選択画面の「プリセット」タブ内)
- この楽器での演奏を録音して作成したソング(録音方法については79ページ参照)
- 市販のSMF (Standard MIDI File)形式

1 [ソング選択]ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。

NOTE

この楽器で再生できるソングのフォーマットについては、11ページをご覧ください。



2 タブ切替[◀][▶]ボタンで、再生したいソングが入っている場所を選びます。

内蔵曲は「プリセット」に入っています。本体に録音したソングは「ユーザー」に入っています。USBフラッシュメモリーに入っている曲を再生したい場合は、USBフラッシュメモリーをUSB TO DEVICE端子に差して「USB」を選びます。

NOTE

内蔵ソングで「ガイド機能を使おう」フォルダーに入っているソングは、ガイド機能の設定が含まれています。このフォルダーのソングを再生したい場合は、[ガイド]ボタンを押してガイド機能をオフにしてください。

NOTE

ピアノルームで楽器本体に録音した曲は「ユーザー」タブの「PianoRoom」フォルダー内にあります。

NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、はじめに「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みください。

NOTE

USBフラッシュメモリーは2台まで接続でき、接続した順番に「USB1」、「USB2」などと表示されます。

3 手順2でプリセットを選んだ場合は、[A]～[C]ボタンで、ソングの選択方法を選んだあと、[A]～[J]ボタンでソングのカテゴリーを選びます。手順2でユーザーまたはUSBを選んだ場合は、手順4へ進みます。

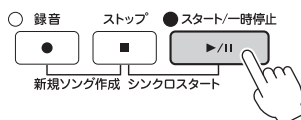
4 [A]～[J]ボタンで、ソングを選びます。

ソングは、[データダイアル]で選んで[エンター]ボタンを押して確定することもできます。

NOTE

[A]～[J]ボタンをダブルクリックする(すばやく2回続けて押す)と、ソングを選んでメイン画面に戻ります。

5 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。



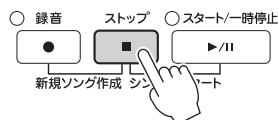
次に再生するソングを予約する

ソング再生中に、次に再生させるソングを1曲だけ予約できます。ステージ演奏などでスムーズに次の曲を再生させたいときに便利です。ソングを予約するには、ソング再生中に、ソング選択画面で次に再生させるソングを選びます。

次に再生させるソングは、ソング名右上に「NEXT (ネクスト)」と表示されます。

ソングの予約を解除するには、[7▼] (ネクストキャンセル)ボタンを押します。

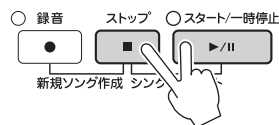
6 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押すと、ソングがストップします。



ソング再生中の操作

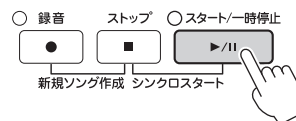
■ 演奏と同時にソングをスタートする(シンクロスタート)

ソングコントロール[ストップ]ボタンを押しながら[スタート/一時停止]ボタンを押してから鍵盤を弾くと、鍵盤を弾くと同時にソング再生がスタートします。ソングコントロール[ストップ]ボタンを押すと、ソングが停止し、シンクロスタートも解除されます。



■ ソングを一時停止する

ソング再生中に[スタート/一時停止]ボタンを押します。一時停止した位置からソングを再生するには、もう一度[スタート/一時停止]ボタンを押します。



■ ソングを早戻し/早送りする



[早戻し]/[早送り]ボタンを1度押すと、1小節だけソングを早戻し/早送りします。ボタンを押し続けると、ボタンから手を離すまで早戻し/早送りし続けます。

[早戻し]/[早送り]ボタンを押すと、ソング再生位置(またはフレーズマーク番号)を示す画面が表示されるので、データダイアルで再生位置を変更することもできます。

NOTE

フレーズマークとは、ソングデータに設定されている、ソング中のある箇所を指定するデータです。

フレーズマークがないソングの場合



フレーズマークがあるソングの場合



[D]ボタンを押すと小節単位、[E]ボタンを押すとフレーズマーク単位の早戻し/早送りに切り替わります。

■ テンポを変える

スタイルのテンポ調節と同じ方法です。63ページをご覧ください。

■ ソングの音量に対し、自分の演奏音を大きくしたい/小さくしたい

スタイルの音量調節と同じ方法です。68ページをご覧ください。

■ ソングの再生音を移調する

50ページをご覧ください。

プロテクトがかかったソングの制限

市販のミュージックデータ(ソング)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。プロテクトがかかったソングは、ソング名の左上に下記のような表示が出ます。

• Prot. 1

内蔵のソングを「ユーザー」画面に保存したものや、ピアノプレーヤ用のミュージックデータです。USBフラッシュメモリーにコピー/移動/保存できません。

• Prot. 2 Orig

ヤマハのプロテクトフォーマットがかかったソングです。コピーができません。「ユーザー」画面とUSBフラッシュメモリーに移動/保存できます。

• Prot. 2 Edit

上記「Prot. 2 Orig」を編集し、保存したソングです。編集元のファイルと同じフォルダーに保存します。コピーができません。「ユーザー」画面とUSBフラッシュメモリーに移動/保存できます。

Prot.2 OrigとProt.2 Editの扱い

Prot.2 OrigとProt.2 Editのソングは、同じフォルダーに保存してください。

Prot.2 Editのソングは、同じフォルダーにProt.2 Origのソングがないと再生できません。Prot.2 Editのソングを移動するときは、必ずProt.2 Origのソングと一緒に移動してください。

プロテクトソングの保存には、動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。動作確認済みのUSBフラッシュメモリーは、ヤマハのウェブサイトでご確認いただけます。

譜面を表示する

選んだソングの譜面(楽譜)を表示させます。譜面を見ながら演奏の練習をする場合に便利です。

NOTE

譜面は、ご自分で録音したソングや市販のソングでも表示させることができます。

1 ソングを選びます(71ページ手順1～4)。

2 [譜面]ボタンを押して、譜面を表示させます。

ソングの停止中は、タブ切替[◀][▶]ボタンで譜面をめくれます。

ソングを再生すると、ソングの再生に合わせて、譜面上のボールが再生位置を移動します。

NOTE

表示される譜面はソングデータ(演奏データ)をもとに作成されます。そのため、細かい音符が多い曲や複雑な曲を表示するときは、市販の楽譜とは異なる場合があります。



譜面のサイズを変更する

譜面表示中、[7▲▼]ボタンでサイズを変更できます。

ほかにも音名を表示させたりするなど、[1▲▼]～[8▲▼]ボタンで譜面の表示方法を変えられます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

譜面に歌詞を表示させる

ソングに歌詞データが入っている場合、譜面を表示させたまま、歌詞も表示できます。[4▲▼]ボタンで LYRICS をオンにします。

歌詞を表示する

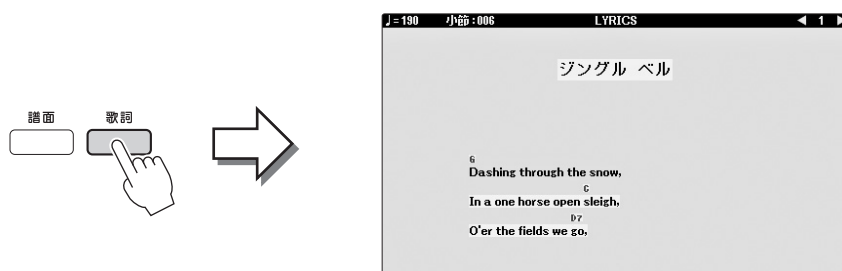
ソングに歌詞データが入っている場合、画面上に歌詞を表示できます。弾き語りやカラオケをするときに便利です。

1 ソングを選びます(71ページ手順1～4)。

2 [歌詞]ボタンを押して、歌詞画面を表示させます。

ソングに歌詞データが入っていれば、歌詞が画面上に表示されます。ソングの停止中は、タブ切替[◀][▶]ボタンで歌詞のページをめくれます。

ソング再生を始めると、再生にあわせて歌詞の色が変わります。

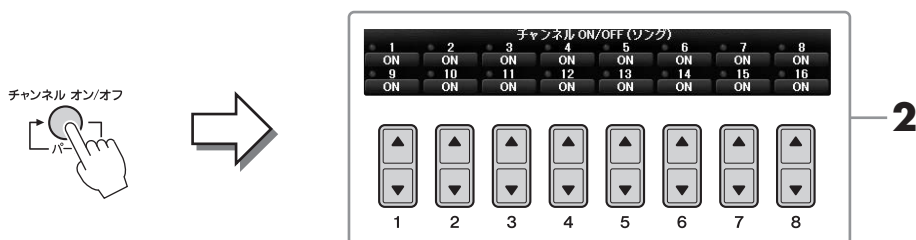


ソングをチャンネルごとにオン/オフする

ソングは、16のチャンネルで構成されています。ソングを再生させながら、各チャンネルをオン/オフしてみましょう。

1 [チャンネル オン/オフ]ボタンを押して、チャンネル ON/OFF (ソング)画面を表示させます。

チャンネル ON/OFF (ソング)画面が選ばれていないときは、もう一度[チャンネル オン/オフ]ボタンを押します。



2 [1▲▼]～[8▲▼]ボタンで、各チャンネルをオン/オフします。

1チャンネルだけ再生するときは、再生したいチャンネルのボタンを押し続けて「SOLO (ソロ)」にします。ソロを解除するには、もう一度ソロチャンネルのボタンを押します。

ガイドランプを使って片手ずつ練習する

鍵盤ガイドランプは、鍵盤を弾くタイミングや押さえる鍵盤位置などを教えてくれます。弾きたいソングを選んでガイド機能をオンにすると、正しい鍵盤を弾くまで伴奏が待ってくれるので、自分のペースで練習できます。ここでは右手パートを消音して、ガイドランプに合わせて右手の練習をしてみましょう。

NOTE

白鍵のガイドランプは赤、黒鍵のガイドランプは緑に光ります。

1 弾きたい曲(ソング)を選び、譜面を表示させます(74ページ)。

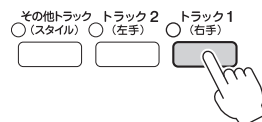


2 [ガイド]ボタンを押して、ガイド機能をオンにします。



3 [トラック1(右手)]ボタンを押します。

[トラック1(右手)]ボタンのランプが消え、右手(メロディー)パートが鳴らない状態になったことを示します。



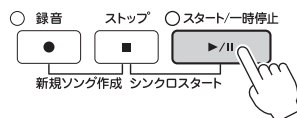
NOTE

通常、[トラック1(右手)]ボタンにチャンネル1、[トラック2(左手)]ボタンにチャンネル2、[その他トラック(スタイル)]ボタンにチャンネル3~16が割り当てられています。

- 左手の練習をしたいとき：[トラック2(左手)]ボタンと[スタイル オン/オフ]ボタンのランプを消灯させます。
- 両手の練習をしたいとき：[トラック1(右手)]ボタンと[トラック2(左手)]ボタンのランプを両方消灯させます。

4 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートさせます。

右手(メロディー)パート以外が再生されます。ガイドランプを見ながら、右手の練習をしましょう。右手以外のパートが、あなたが正しい鍵盤を弾くまで待ってくれます。



5 練習が終わったら、[ガイド]ボタンを押して、ガイド機能をオフにしておきましょう。

その他のガイド機能

ガイドには、上記で説明したFollow Lightsのほかにも、鍵盤を弾くタイミングだけを練習するAny Keyや、カラオケ練習用のKarao-key、自分の弾くペースにあわせてソングのテンポが変化するYour Tempoがあります。

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [H] SONG SETTING → タブ切替[◀][▶] GUIDE/CHANNEL → [A]/[B] GUIDE MODE

詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

繰り返し再生を使って練習する

難しいフレーズを繰り返して練習するときには、繰り返し再生を使うと便利です。

[くり返し]ボタンをオンにしてからソングを再生すると、1曲を繰り返して再生します。繰り返し再生をやめるには、もう一度[くり返し]ボタンを押します。



NOTE

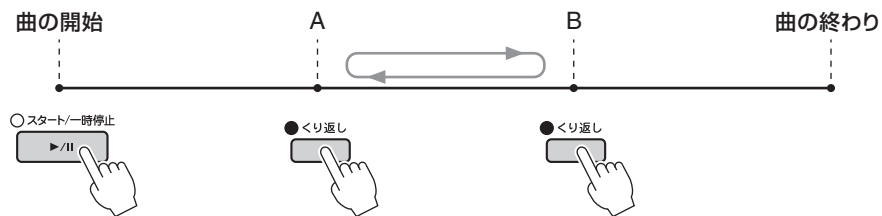
複数のソングを続けて繰り返し再生することもできます。(78ページ)

指定した範囲を繰り返し再生する(ABリピート)

ソング内の特定の範囲だけを繰り返し再生できます。

- 1 ソングを選びます(71ページ手順1~4)。
- 2 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートします。
- 3 繰り返し位置を指定します。

繰り返し再生の開始位置(A点)にしたい所で[くり返し]ボタンを押します(ランプが点滅し、A点が設定されます)。繰り返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度[くり返し]ボタンを押します(ランプが点灯します)。ソングは、曲に合わせたカウントが入ったあと、A点からB点までが繰り返し再生されます。



NOTE

A点を曲の開始位置、B点を曲の途中で設定したい場合は、下記の操作をしてください。

- 1 [くり返し]ボタンを押してから、ソング再生をスタート
- 2 繰り返し再生の終了位置(B点)にしたいところでもう一度[くり返し]ボタンを押す

NOTE

A点だけを指定して、B点を指定せずにいると、A点からソングの最後までが繰り返し再生されます。

- 4 ソングコントロール[ストップ]ボタンを押して、ソングをストップします。
再生位置がA点に戻ります。次にソング再生をスタートすると、A点から再生が始まります。
- 5 [くり返し]ボタンを押して、繰り返し再生をオフにします。

ソングの停止中にA点とB点を指定する

- 1 [早送り]ボタンを押して、A点にしたい所までソングを進めます。
- 2 A点にしたい所で[くり返し]ボタンを押します。
- 3 [早送り]ボタンを押して、B点にしたい所までソングを進めます。
- 4 B点にしたい所で、もう一度[くり返し]ボタンを押します。

複数の曲を連続再生する

1 複数の曲が入ったフォルダー内から、ソングを1曲選びます(71ページ手順1~4)。

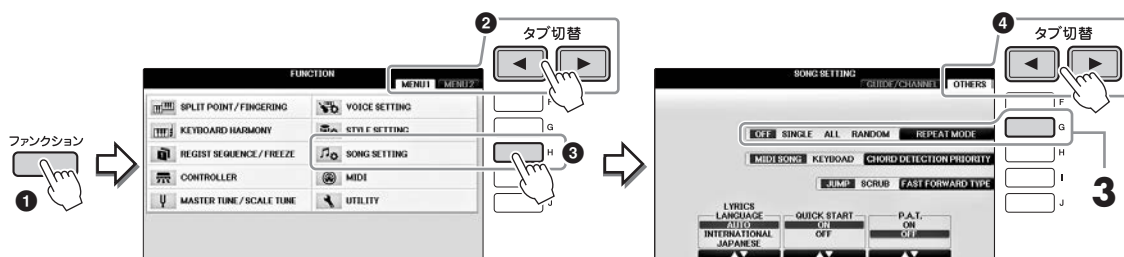
たとえば内蔵ソングのフォルダーから1曲選んでみましょう。

NOTE

内蔵ソングで「ガイド機能を使おう」フォルダーに入っているソングは、ガイド機能の設定が含まれているため、連続再生に適していません。

2 設定画面を表示させます。

- ①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[H] SONG SETTING →
④タブ切替[◀][▶] OTHERS



3 [G]ボタンでリピートモードを「ALL」(オール)に設定したあと、ソングをスタートさせます。

手順1で選んだソングのあるフォルダー内の全曲が順番に連続再生されます。通常の再生モードに戻すには、「OFF」(オフ)を選びます。

4

曲(ソング)を再生、練習する

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」4章をご覧ください。



譜面の表示を変える

[譜面] → [1▲▼]~[8▲▼]

ソングとスタイルを同時に再生する

[スタイル オン/オフ]オン → スタイル[シンクロスタート] →
ソングコントロール [ストップ] +[スタート/一時停止] →
スタイル[スタート/ストップ]

ソングに関する設定

- ガイド機能の種類を選ぶ
- パフォーマンスアシスタント機能を使う

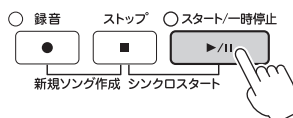
[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [H] SONG SETTING
→ タブ切替[◀][▶] GUIDE/CHANNEL → [A]/[B] GUIDE MODE
→ タブ切替[◀][▶] OTHERS → [6▲▼]/[7▲▼] P.A.T.

5 [ストップ]ボタンを押して、録音を終わります。



録音が終わると保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを閉じるには、[戻る]ボタンを押します。

6 録音した演奏を試聴します。ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、今録音した演奏を再生します。



7 録音した演奏を保存します。[ソング選択]ボタンを押してソング選択画面を表示させます。録音したデータの保存は、ソング選択画面で行ないます。詳細は、「データを保存する」(81ページ)をご覧ください。

注記

録音したソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

■ 録音したソングを削除したい

「ファイル/フォルダーを削除する」で削除できます(35ページ)。

■ 弾き間違えた箇所を修正したい

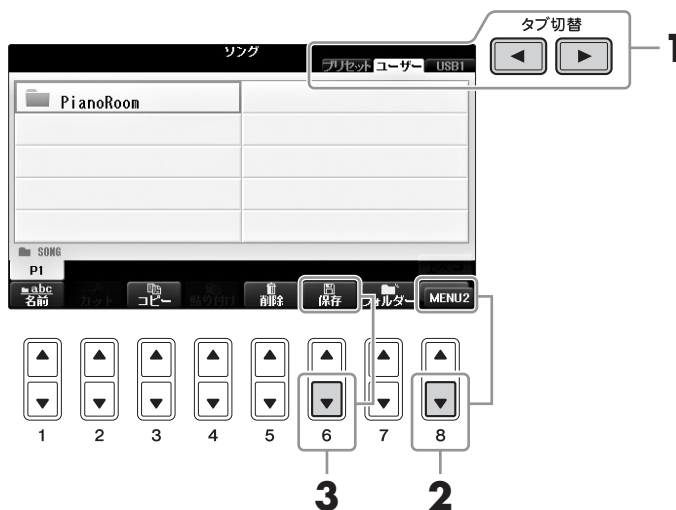
保存後、ソングクリエイター機能を使って部分的に再録音したり、チャンネル単位で編集したりできます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」5章のソングクリエイターをご覧ください。

「クイック録音」でスタイルを先に録音しておき、あとでスタイルを聞きながら82ページの多重録音でチャンネルを指定してメロディーを録音することもできます。

データを保存する

あなたが作ったデータ(録音したソング、編集したボイスなど)をファイルとして保存します。ここでは、録音した演奏をソングとして保存する手順を例に、データの保存方法を説明します。

- 1 ファイル選択画面でタブ切替[◀][▶]ボタンを押して、ソングを保存したい場所(ユーザーまたはUSB)を選びます。



- 2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。
「MENU2」が表示されない画面もあります。その場合はこの手順をスキップしてください。

- 3 [6▼](保存)ボタンを押します。
ファイル名を付ける画面が表示されます。



- 4 必要に応じて、ファイル名を入力します(36ページ)。
ファイル名はあとから付け直すこともできます(33ページ)ので、そのまま手順5に進んでも構いません。

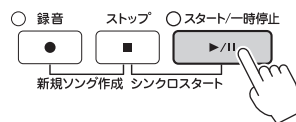
NOTE

保存を中止するときは[8▼]ボタンを押します。

- 5 [8▲] (OK)ボタンを押して、ファイルを保存します。
保存されたファイルは、アルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

演奏を録音する(MIDI)

- 5** 録音した演奏を試聴します。ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、今録音した演奏を再生します。
やり直す場合は、手順3～5をくり返します。



- 6** 左手の演奏をチャンネル2に録音します。

- 6-1** [録音]ボタンを押しながら[2▲]ボタンを押して、録音先のチャンネル2を「REC」にします。

注記

録音済みのチャンネルにさらに録音すると、もともと録音されていた内容が消えて新しい内容が録音されます。

- 6-2** [C]/[D]ボタンでチャンネル2に録音するパートを「RIGHT1」にします。

- 6-3** 左手で演奏しましょう。演奏を始めると自動的に録音がスタートします。手順6-2で指定したパートを演奏してください。

録音済みのチャンネルの音を聞きながら演奏しましょう。

- 7** [ストップ]ボタンを押して、録音を終わります。

- 8** 録音した演奏を試聴します。ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、今録音した演奏を再生します。

やり直す場合は、手順6～8をくり返します。

- 9** 録音した演奏を保存します。[ソング選択]ボタンを押してソング選択画面を表示させたあと、81ページ「データを保存する」に従って保存してください。

注記

録音したソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

手順2では説明のため空のソングに録音しましたが、録音済みのソングに追加録音したい場合は、ソングを選びます(71ページ手順1～4)。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」5章をご覧ください。



スタイルを録音してからメロディーを録音する

ソングを作成/編集する(ソングクリエイター)

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [B] SONG CREATOR

- メロディーをステップ録音する

→ タブ切替[◀][▶] 1～16

- コードをステップ録音する

→ タブ切替[◀][▶] CHORD

- 部分的に再録音する(パンチイン/アウト録音)

→ タブ切替[◀][▶] REC MODE

- ソングの先頭に書き込むデータを設定する

→ タブ切替[◀][▶] SETUP

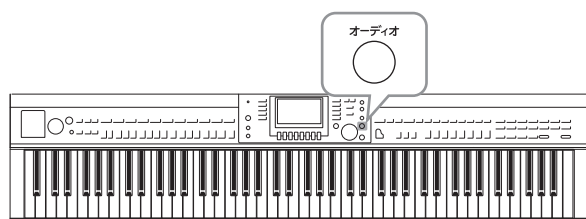
- チャンネル単位で編集する

→ タブ切替[◀][▶] CHANNEL

- データ単位で編集する

→ タブ切替[◀][▶] CHORD、1～16、SYS/EXまたはLYRICS

演奏を再生/録音する(オーディオ)



USBオーディオプレーヤー/レコーダーを使えば、USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイル(.WAV)を楽器で再生できます。また、ご自分の演奏をオーディオファイル(.WAV)としてUSBフラッシュメモリーに録音することができ、コンピュータで再生したり、知り合いとお互いの演奏データをやりとりしたり、オリジナルのCDを制作したりするなど、さまざまな用途で楽しめます。

USBオーディオプレーヤー/レコーダーを使った録音では、あとで別パートを追加で録音したり(多重録音)、編集したりすることはできません。そのような録音をしたい場合は、79ページ「演奏を録音する(MIDI)」の方法で録音してください。

6

演奏を再生／録音する(オーディオ)

再生する

USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイルをこの楽器で再生してみましょう。

NOTE

DRM (デジタル著作権管理)付きファイルには非対応です。

再生できるファイル形式

.wav	サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo
------	--------------------------------------

- 1 再生したいオーディオファイルの入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、はじめに「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みください。

NOTE

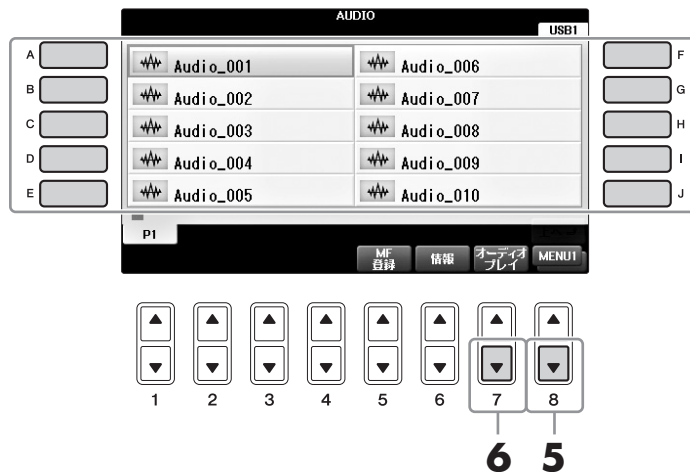
[USB]ボタンを押して、[B] (AUDIO)ボタンを押すことで、手順4と同じオーディオファイルを選択する画面に入れます。

- 2 [オーディオ]ボタンを押して、USB AUDIO PLAYER画面を表示させます。



- 3 [H] (FILES)ボタンを押して、接続中のUSBフラッシュメモリーに保存されているオーディオファイルを表示します。

4 [A]～[J]ボタンで、再生したいファイルを選びます。



5 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU1」を表示させます。

NOTE

現在選ばれているファイルの情報を確認したい場合は、[6▼]ボタンを押すとインフォメーション画面が表示されます。インフォメーション画面を閉じるには、[F] (OK)ボタンを押します。

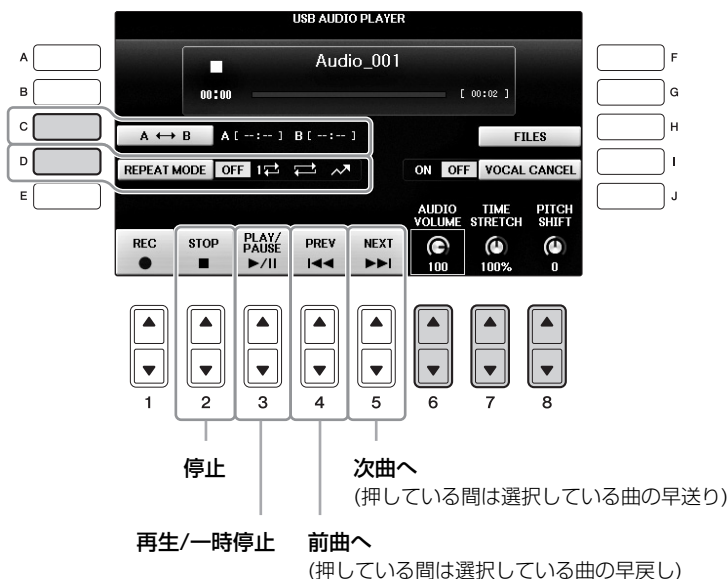
6 [7▼] (オーディオプレイ)ボタンを押して再生します。

画面は自動的にUSB AUDIO PLAYER画面に戻ります。

7 再生をストップするには、[2▲▼] (STOP)ボタンを押します。

注記

再生中はUSBフラッシュメモリーの抜き差しをしたり、楽器の電源を切ったりしないでください。データが壊れるおそれがあります。



■ 音量(ボリューム)を調整する [6▲▼] (AUDIO VOLUME)ボタン

オーディオファイルの再生音量を設定します。

■ 再生速度を調節する [7▲▼] (TIME STRETCH)ボタン

オーディオファイルの再生速度を調節します。設定値は75%～125%で、初期設定は100%です。値が小さいほど速度が遅くなります。別のオーディオファイルを選ぶと、この設定は初期設定(100%)に戻ります。

NOTE

曲によっては音質が変わることがあります。

■ 音の高さを半音単位で調節する [8▲▼] (PITCH SHIFT)ボタン

オーディオファイルの再生音の高さ(ピッチ)を、半音単位(-12～12)で調整できます。別のオーディオファイルを選ぶと、値は初期設定に戻ります。

■ 指定した範囲を繰り返し再生する(ABリピート) [C]ボタン

オーディオファイル再生中、繰り返し再生の開始位置(A点)にしたい所で[C] (A-B)ボタンを押し、繰り返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度[C] (A-B)ボタンを押すと、A点からB点が繰り返し再生されます。繰り返し再生を無効にしたい場合は、もう一度[C] (A-B)ボタンを押します。

■ 複数の曲を連続再生する[D] (REPEAT MODE)ボタン

オーディオファイルのリピートモードを設定します。

- OFF 現在選ばれているファイルを1回だけ再生し、繰り返し再生はしません。
- 1回 現在選ばれているファイル1曲を繰り返し再生します。
- 連続 指定のフォルダー (現在選ばれているファイルがあるフォルダー)にあるファイル全曲の連続再生を繰り返します。
- ランダム 指定のフォルダー (現在選ばれているファイルがあるフォルダー)にあるファイル全曲のランダム(順不同)再生を繰り返します。

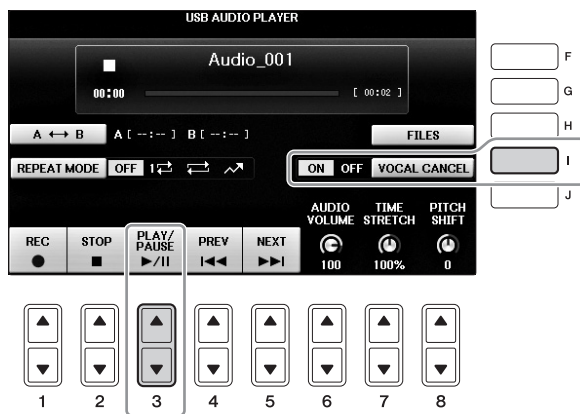
ボーカルパートを消音し、伴奏部分のみを再生しながら、消したパートを自分が弾く (ボーカルキャンセル)

ステレオ再生のセンターに位置する音をキャンセル(消音)できます。多くの場合、ボーカル音がセンターにあるので、カラオケをしたり、メロディー部分を鍵盤で演奏したいときなどに便利です。

AUX INからの入力音、マイク入力音、無線LAN経由でiPhone/iPadから送信されたオーディオデータに対してはこの機能は使えません。

オーディオファイルを選んで、[I]ボタンでボーカルキャンセルを「オン」に設定します。[3▲▼]ボタンを押して再生し、ボーカルパートが消えているか確認しましょう。

別のオーディオファイルを選ぶと、この設定はオフに戻ります。



NOTE

ボーカルキャンセルをオンにしても、ボーカルの音が完全に消えるわけではありません。

録音する

ご自分の演奏をオーディオファイル(WAVファイル)としてUSBフラッシュメモリーに録音してみましょう。

NOTE

USBオーディオプレーヤー/レコーダーでの録音には、動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、はじめに「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みください。

NOTE

録音方法には、ここで説明するオーディオ録音のほかMIDI録音(ソング録音)もあります(79ページ)。

• 録音できるファイル形式

.wav	サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo
------	--------------------------------------

• 録音できる音

鍵盤や自動演奏など楽器で演奏されたすべての音と、[MIC/LINE IN]端子や[AUX IN]端子から入力されたオーディオ音がミックスされ、USBフラッシュメモリーに録音されます。ただしプリセットソングなど著作権で保護されているソング(曲)や、メトロノーム音は録音できません。

• 録音可能時間

1回の録音につき80分まで (USBフラッシュメモリーの容量によって異なります)

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 演奏で使いたいボイスなどの設定をします(ボイスの設定: 44ページ、スタイル: 58ページ、AUX IN端子: 104ページ)
- 3 [オーディオ]ボタンを押して、USB AUDIO PLAYER画面を表示させます。

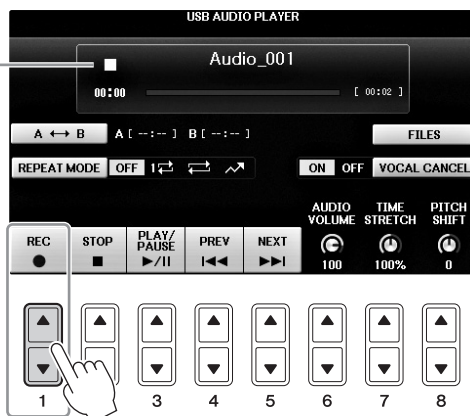


- 4 [1▲▼] (REC)ボタンを押して、録音待機状態にします。

NOTE

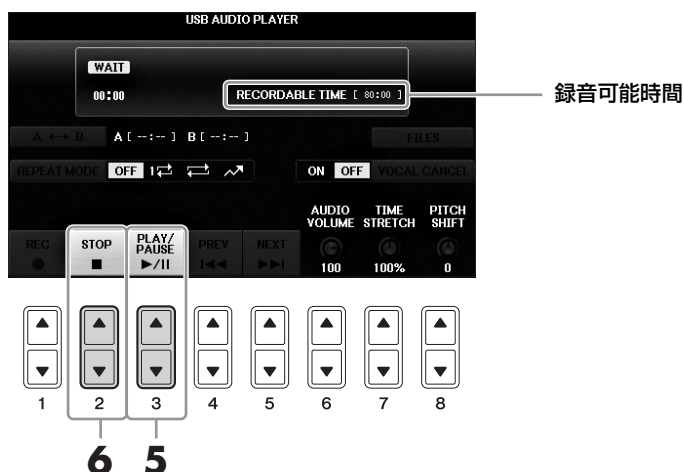
複数のUSBフラッシュメモリーが接続されている場合、「USB1」のUSBフラッシュメモリーが録音先に選ばれます。AUDIO PLAYER画面で[H] (FILE SELECT)ボタンを押すと、「USB1」の内容が確認できます。

録音待機中は
"WAIT"を表示



5 [3▲▼] (PLAY/PAUSE)ボタンを押して、録音を開始します。演奏を始めましょう。

録音が始まると、画面に録音経過時間が表示されます。



注記

録音中はUSBフラッシュメモリーの抜き差しをしたり、楽器の電源を切ったりしないでください。データが壊れるおそれがあります。

6 [2▲▼] (STOP)ボタンを押して、録音を終了します。

ファイル名が自動的に付けられ、ファイル名を知らせるメッセージが表示されます。

マイクを接続して弾き語りをする

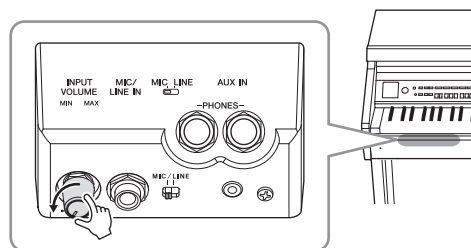
[MIC/LINE IN]端子にマイクを接続すると、弾き語りやカラオケをして楽しめます。マイク入力された音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。

マイクを接続する

NOTE

マイクは、ダイナミックマイクロフォンをお使いください。

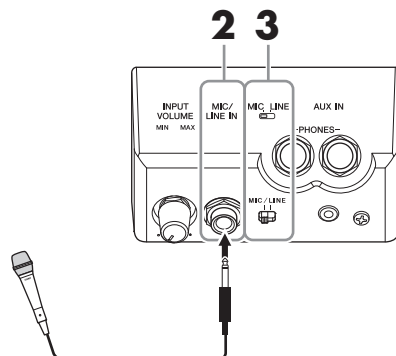
- 1 楽器の電源を入れる前に、[INPUT VOLUME]を最小にします。



- 2 [MIC/LINE IN]端子にマイクを接続します。

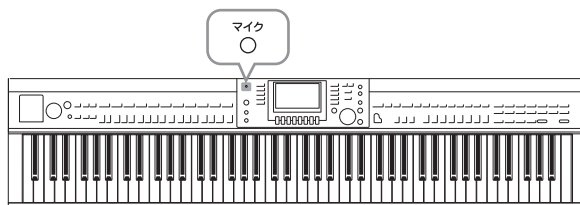
- 3 [MIC/LINE]切り替えスイッチをMIC側に切り替えます。

- 4 楽器の電源を入れます。



- 5 (必要に応じてマイクをオンにして、)マイクに向かって声を出しながら、[INPUT VOLUME]を調整します。

[マイク]ランプを見ながら調節してください。[マイク]ランプは、音声が入力されたときに点灯します。このランプが緑色に点灯するように調整してください。赤に点灯した場合は、入力音声が大きすぎます。



- 6 バランス画面で、マイクと鍵盤演奏音などの音量バランスを調節します(68ページ)。

カラオケをするのに便利な機能

■ 本体内蔵ソングを使う場合：

- 歌詞を表示する(75ページ)
- 音の高さを調節する(50ページ)

■ オーディオファイルを使う場合：

- ボーカルパートを消音する(87ページ)
- 音の高さを調節する(86ページ)

マイクを外す

- 1 本体底面の端子パネルの[INPUT VOLUME]を最小にします。
- 2 本体底面の端子パネルの[MIC/LINE IN]端子から、マイクを外します。

NOTE

楽器本体の電源をオフにする前にも[INPUT VOLUME]を最小にしてください。

マイクを使ってトークする

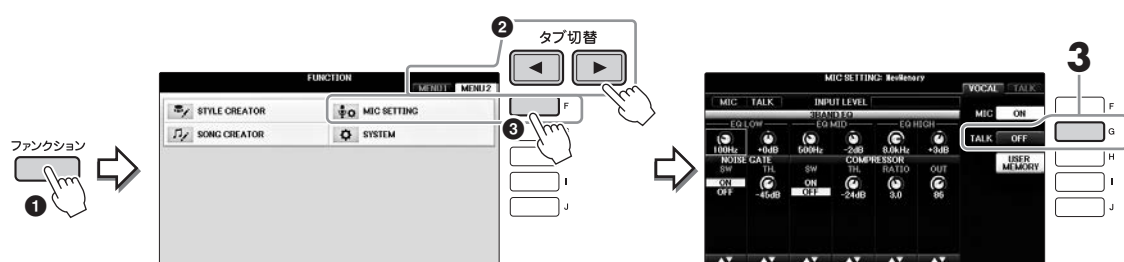
コンサートで、歌と歌の合間にトークを入れたい場合などに、ワンタッチでトーク用の設定に切り替えることができます。

1 マイクを楽器に接続します(90ページ)。

2 マイクセッティング画面を表示させます：

- ①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU2 → ③[F] (MIC SETTING)

マイクセッティング画面では、歌用(VOCALページ)、トーク用(TALKページ)のマイク設定をそれぞれ調整できます。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。



3 トーク用の設定にするには、画面の右側にある[G] (トーク)ボタンを押してトークをオンにします。歌用の設定に戻すには、同じボタンを押してトークをオフにします。

7

マイクを接続して弾き語りをする

もっと進んだ使いかた

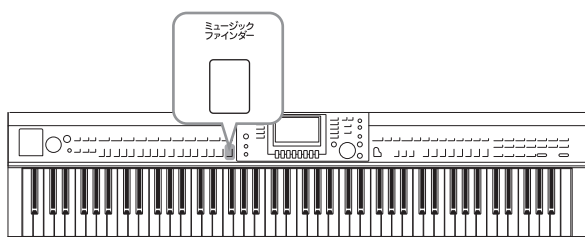
詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」7章をご覧ください。



マイクに関する設定

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [F] (MIC SETTING)

弾きたい曲に合ったボイスや自動伴奏(スタイル)などと呼び出す(ミュージックファインダー)



弾きたい曲に合ったパネル設定(ボイスやスタイルなど)がわからない場合、ミュージックファインダー機能を使うと便利です。ミュージックファインダーに登録されているさまざまな「レコード」を選ぶことにより、弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出すことができます。

曲に合ったパネル設定を選ぶ

楽器に内蔵されているサンプルのレコードを使って、ミュージックファインダー機能を体験しましょう。

1 [ミュージックファインダー]ボタンを押して、ミュージックファインダー画面を表示させます。

メッセージが表示されますので、対応するボタンを押します。

ALLページに全レコードが表示されます。

各レコードの曲名や
スタイル名など

MUSIC FINDER			
ALL FAVORITE SEARCH 1 SEARCH 2			
MUSIC	STYLE	BEAT	TEMPO
Abide With Me	クラシック「アムステルダム」	4/4	72
Aida Triumph March	クラシック「アムステルダム」	4/4	112
Air On The G String	クラシック「アムステルダム」	4/4	68
Air On The G String	クラシック「アムステルダム」	4/4	68
Air On The G String	クラシック「アムステルダム」	4/4	69
Aloha Oe	ハワイアン「アムステルダム」	4/4	102
Anapala	クラシック「アムステルダム」	4/4	138
Anapala	クラシック「アムステルダム」	4/4	112
Anbess Polka	クラシック「アムステルダム」	4/4	116
American Patrol	クラシック「アムステルダム」	4/4	186
An Der Schönen Blauen Donau	クラシック「アムステルダム」	3/4	174
An Der Schönen Blauen Donau	クラシック「アムステルダム」	3/4	176
Any Old Iron	クラシック「アムステルダム」	4/4	116
Any Old Iron	クラシック「アムステルダム」	4/4	120

2 [2▲▼]/[3▲▼]ボタンで、弾きたい曲に合ったレコード(=パネル設定)を選びます。

[データダイアル]で選んで[エンター]ボタンで確定することもできます。

レコードを表示する順番を切り替える

[F] (SORT BY)ボタンを押して、レコードを表示させる順番を切り替えます。曲名順(MUSIC)、スタイル名順(STYLE)、拍子順(BEAT)、テンポ順(TEMPO)が選べます。また、[G] (SORT ORDER)ボタンを押して、昇順(ASCENDING)か降順(DSCENDING)かを切り替えられます。

曲名順にレコードを表示させているときに[1▲▼]ボタンを押すと、同じ文字で始まる曲をスキップします(たとえば、Aで始まる曲名のレコードが選ばれているときに[1▼]を押すと、Bで始まる曲名のレコードに移動します)。

スタイル名順にレコードを表示させているときに[4▲▼]/[5▲▼]ボタンを押すと、次のスタイルに移動します。[▲]と[▼]ボタンを同時に押すと、一番上のレコードに移動します。

3 コード鍵域(59ページ)でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾いて演奏してみましょう。

レコードは、インターネット上のウェブサイトからダウンロードして楽器に読み込むことができます(93ページ)。

NOTE

[OTSリンク]ボタンをオフにしないでください。オフにすると、レコードを選んでもパネル設定が切り替わりません。

NOTE

スタイル再生中に別のレコードを選んだときに、スタイルのテンポが変わらないようにしたい場合は、[1] (STYLE TEMPO) ボタンを押してHOLDまたはLOCKにします。LOCKにすると、再生中だけでなく停止中もスタイルのテンポは切り替わりません。

インターネット上のウェブサイトからレコード(パネル設定)をダウンロードする

工場出荷時にミュージックファインダーに入っているのはサンプルのレコードです。ミュージックファインダー機能を便利に使うために、ヤマハのウェブサイトで提供されている、ミュージックファインダーのレコードを本体に読み込んでおくことをおすすめします。

1 コンピューターを使って、ウェブサイトから、ミュージックファインダーのレコードが入ったファイル(.mfd)をUSBフラッシュメモリにダウンロードします。

ファイルは、下記ウェブサイトの「ソフトウェア」からダウンロードできます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

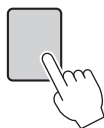
NOTE

USBフラッシュメモリを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(106ページ)をお読みください。

2 ファイルが入ったUSBフラッシュメモリを、楽器本体の[USB TO DEVICE]端子に接続します。

3 [ミュージックファインダー]ボタンを押して、ミュージックファインダー画面を表示させます。

ミュージック
ファインダー



MUSIC FINDER			
ALL FAVORITE SEARCH SEARCH 2			
MUSIC	STYLE	BEAT/TEMPO	J: 74
Abide With Me	クラシック・ピアノ・ソング	4/4	72
Aida Triumph March	クラシック・ピアノ	4/4	112
Air On The G String	クラシック・ピアノ・ソング	4/4	68
Air On The G String	クラシック	4/4	68
Air On The G String	クラシック	4/4	69
Aloha Oe	ハワイアン	4/4	102
Anapala	クラシック・ピアノ・ソング	4/4	138
Amboise Polka	クラシック・ピアノ	4/4	112
American Patrol	クラシック・ピアノ・ソング	4/4	116
An Der Schönen Blauen Donau	クラシック・ピアノ	4/4	186
An Der Schönen Blauen Donau	クラシック・ピアノ	3/4	174
Any Old Iron	クラシック・ピアノ	4/4	176
Any Old Iron	クラシック・ピアノ	4/4	120
MUSIC STYLE SEARCH			FILES RECORD EDIT
1/2			

4 [7▲▼] (FILES)ボタンを押して、ファイル選択画面を表示させます。

- 5 タブ切替[◀][▶]ボタンを押して、ウェブサイトからダウンロードしたファイルが入っている「USB」画面を表示させます。



- 6 ファイルに該当するボタンを押すと、レコードの置き換え/追加を選ぶメッセージが表示されます。

- 7 元のレコードを残したまま選択したファイルのレコードを追加したい場合は[H] (APPEND) ボタンを、すべて置き換えたい場合は[G] (REPLACE) ボタンを押します。

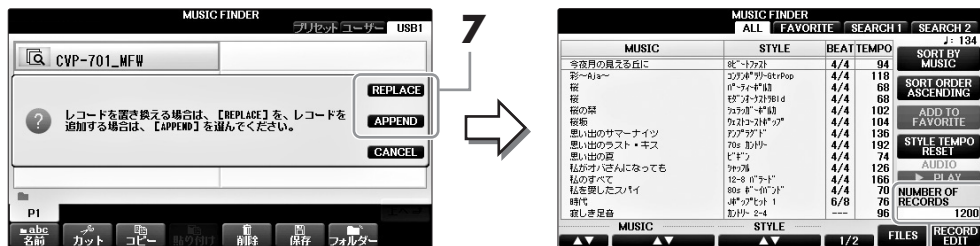
確認を求めるメッセージが表示されたら、[G] (YES)ボタンを押します。

NOTE

プリセットのレコードについては、置き換えたあとでも、手順4で表示させる画面で「プリセット」画面から「MusicFinderPreset」ファイルを選ぶと、工場出荷時の状態に戻せます。

- 8 置き換え完了を知らせるメッセージ画面で[G] (YES)ボタンを押して、ミュージックファインダー画面を開きます。

ミュージックファインダー画面に表示されるレコード数で、レコードが置き換わったことを確認できます。

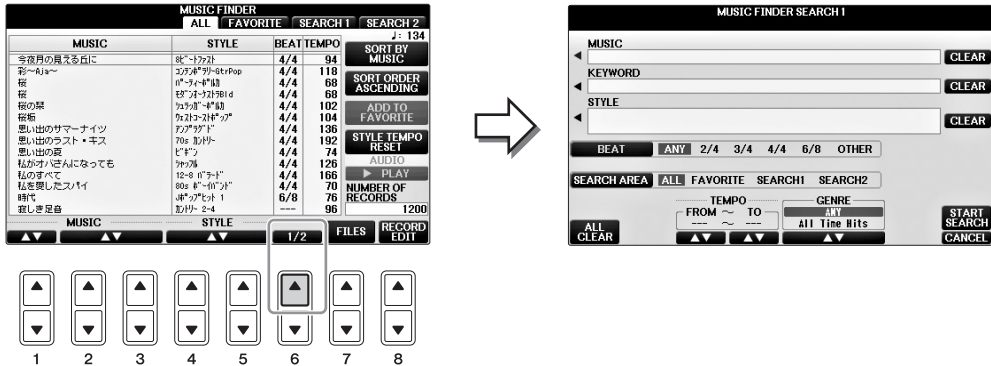


レコード数

パネル設定を検索する

ミュージックファインダーの検索機能を使って、曲名やスタイル名からレコードを検索できます。

- 1 ミュージックファインダー画面のALLページで[6▲] (SEARCH1)ボタンを押して、検索画面を表示させます。



- 2 検索の条件を入力します。

[A]	MUSIC (ミュージック: 曲名)	曲名で検索します。[A]ボタンを押して文字入力画面を表示させ、曲名を入力します。入力した内容を消去するには、[F] (CLEAR) ボタンを押します。
[B]	KEYWORD (キーワード)	キーワードで検索します。[B]ボタンを押して文字入力画面を表示させ、キーワードを入力します。入力した内容を消去するには、[G] (CLEAR) ボタンを押します。 NOTE 複数のキーワードを入力するには、カンマ(,)で区切って入力します。
[C]	STYLE (スタイル)	スタイル名で検索します。[C]ボタンを押すとスタイル選択画面が開きます。スタイルを選んだあと、[戻る]ボタンを押して検索画面に戻ります。選んだスタイルを消去するには、[H] (CLEAR) ボタンを押します。
[D]	BEAT (ビート)	拍子を指定します。ANY (エニー)を選ぶと、すべての拍子が検索の対象になります。 NOTE BEATで2/4や6/8を選ぶと、2/4拍子や6/8拍子の曲を演奏するのに適したスタイルが検索できますが、実際のスタイルは4/4拍子で制作されています。
[E]	SEARCH AREA (サーチエリア)	検索対象となるページ(ミュージックファインダー画面上部のタブ)を指定します。 NOTE ソングやオーディオファイルをMF登録しておく(96ページ)ソング/オーディオファイルも検索できます。ソング/オーディオファイルを検索するときには、下記のようにしておく必要があります。 スタイル: 空白 ビート: ANY テンポ: 「---」 ~ 「---」
[1▲▼]	ALL CLEAR (オールクリア)	入力したすべての検索条件を消去します。

[3▲▼]	TEMPO FROM (テンポ フロム)	テンポの範囲を指定します。
[4▲▼]	TEMPO TO (テンポ トゥー)	
[5▲▼]/ [6▲▼]	GENRE (ジャンル)	音楽ジャンルを指定します。

検索を中止するときは、[8▼] (CANCEL)ボタンを押します。

3 [8▲] (START SEARCH)ボタンを押して、検索をスタートします。

検索をスタートすると自動的にSEARCH1画面に切り替わり、検索結果が表示されます。

NOTE

別の条件で検索したい場合は、ミュージックファインダー画面で[6▼] (SEARCH2)ボタンを押して検索します。検索した結果は「SEARCH 2」画面に表示されます。

4 [2▲▼]/[3▲▼]ボタンで、弾きたい曲に合ったレコード(=パネル設定)を選びます。

5 コード鍵域(59ページ)でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾いて演奏してみましょう。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」8章をご覧ください。



曲データ(ソング/オーディオ)やスタイルを登録する

ファイル選択画面 → [A]~[J] → [8▼] MENU1 → [5▼] (MF登録) → [8▲] (OK)

[USB] → [A] (ソング)/[B] (オーディオ)/[C] (スタイル) → [A]~[J] → [8▼] MENU1 → [5▼] (MF登録) → [8▲] (OK)

登録した曲データやスタイルをミュージックファインダーから呼び出す

[ミュージックファインダー] → [2▲▼]/[3▲▼]

• 呼び出したソングデータを再生する

[ミュージックファインダー] → [2▲▼]/[3▲▼] → ソングコントロール[スタート/一時停止]

• 呼び出したオーディオデータを再生する

[ミュージックファインダー] → [2▲▼]/[3▲▼] → [AUDIO] → [3▲▼] (PLAY/PAUSE)

[MUSIC FINDER] → [2▲▼]/[3▲▼] → [J] (AUDIO)

お気に入りのレコードを簡単に呼び出す

[ミュージックファインダー] → タブ切替[◀][▶] ALL → [H] (ADD TO FAVORITE)

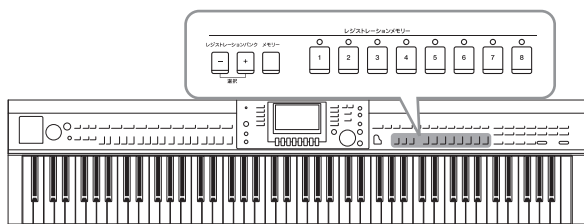
レコードを編集する

[ミュージックファインダー] → [8▲▼] (RECORD EDIT)

レコードを保存する

[ミュージックファインダー] → [7▲▼] (FILES)

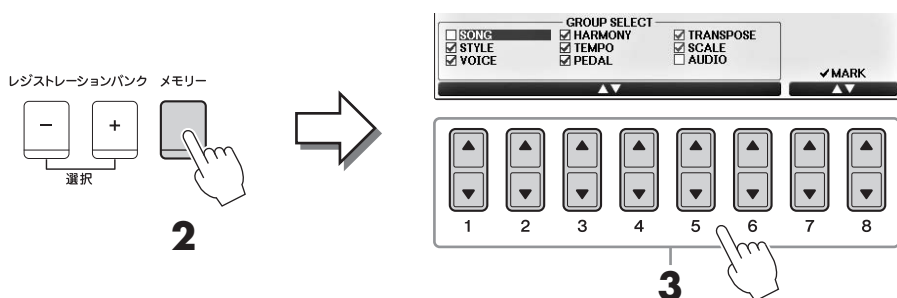
パネル設定を登録する (レジストレーションメモリー)



レジストレーションメモリーは、ボイスやスタイルなどに関するパネル設定をボタンに登録し、演奏中でもワンタッチで呼び出せる機能です。ボタンに登録したパネル設定は、まとめて1つのバンク(ファイル)として保存します。

パネル設定を登録する

- ボイスやスタイルなどのパネル設定を、登録したい状態にします。**
レジストレーションメモリーで登録できる内容は、別冊「データリスト(パラメーターチャート)」を参照してください。
- レジストレーションメモリー [メモリー] ボタンを押して、登録する項目を選ぶ画面を表示させます。**

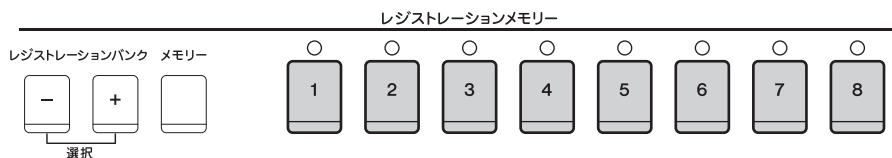


- 登録する項目を選びます。**
[1▲▼]~[6▲▼]ボタンで登録したい項目を選び、[7▲]/[8▲] (MARK ON)ボタンを押してチェックマークを入れます。チェックマークを削除するには、[7▼]/[8▼] (MARK OFF)ボタンを押します。
登録を中止するときは、[1] (CANCEL)ボタンを押します。
- レジストレーションメモリー [1]~[8]ボタンのうち、パネル設定を登録したいボタンを押します。**

パネル設定が登録されると、ランプが赤に点灯します。

注記

ランプが消灯しているボタンに登録することをおすすめします。ランプが点灯しているボタンは、すでにパネル設定が登録されているボタンです。ランプが点灯しているボタンにパネル設定を登録すると、そのボタンに登録されていたデータは消え、新しい設定に書き換わります。



ランプの色について

- ・ランプ(赤)点灯: パネル設定を登録済みで、現在選ばれています。
- ・ランプ(緑)点灯: パネル設定を登録済みで、現在選ばれていません。
- ・ランプ消灯: パネル設定が未登録です。

5 ほかのボタンに別のパネル設定を登録するときは、手順1～4を繰り返します。

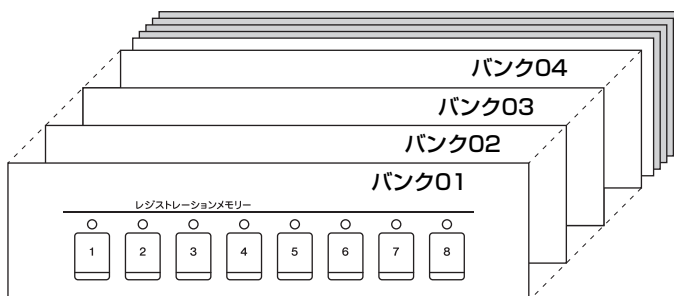
保存したパネル設定は、レジストレーションメモリー [1]～[8]ボタンを押すことで呼び出せます。

NOTE

登録したパネル設定は、電源を切っても保持されます。登録したパネル設定を一度に消去する場合は、いちばん右のB鍵盤(B6)を押しながら電源をオンにします。

登録したパネル設定をファイルとして保存する

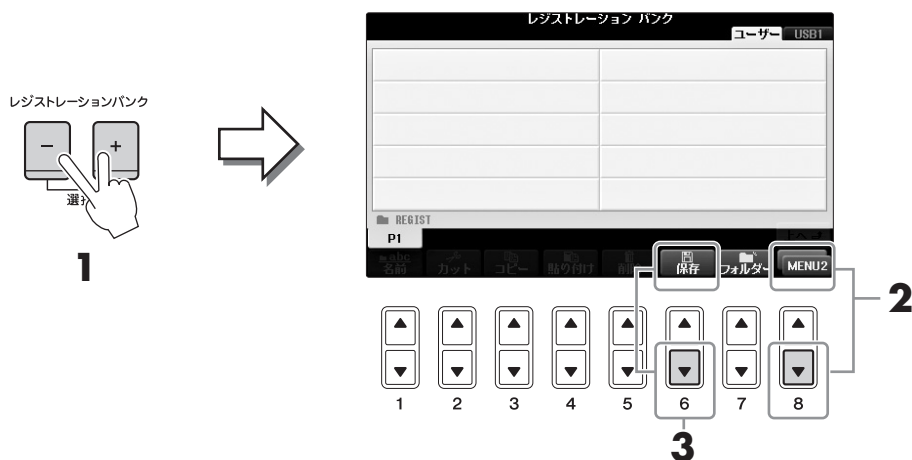
レジストレーションメモリーでは、ボタンに登録した8個のパネル設定をまとめて1つのバンク(ファイル)として扱います。



1 レジストレーションバンク[-]/[+]ボタンを同時に押して、バンク選択画面を表示させます。

NOTE

レジストレーションメモリーのバンクは、CVP-709/705/701で互換性があります。ただし、それぞれの機器の仕様などにより、完全な互換性が実現できない場合があります。



2 [8▼]ボタンを何度か押して、画面右下に「MENU2」を表示させます。

3 [6▼]ボタンを押して、バンクを保存します。

保存の手順については、81ページ手順4、5をご覧ください。

登録したパネル設定を呼び出す

ファイルとして保存したレジストレーションメモリーは、レジストレーションバンク[－]/[＋]ボタンで順に呼び出したり、以下の方法で呼び出したりできます。

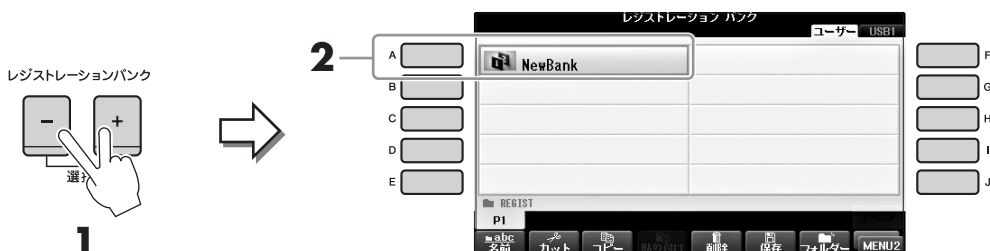
NOTE

現在選ばれているバンクの内容を確認したいときは、[ダイレクトアクセス]ボタンを押したあと、レジストレーションメモリー[1]～[8]ボタンのいずれかを押すと、すぐにレジストレーション画面が表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーのソング/スタイル/オーディオを登録してある場合は、登録したデータが入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に差し込んでから呼び出してください。

1 レジストレーションバンク[－]/[＋]ボタンを同時に押して、バンク選択画面を表示させます。



2 [A]～[J]ボタンで、バンクを選びます。

[データダイヤル]と[エンター]ボタンで選ぶこともできます。

3 レジストレーションメモリー[1]～[8]ボタンのうち、緑色に点灯しているボタンの中から1つを選んで押します。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」9章をご覧ください。



パネル設定を登録する(レジストレーションメモリー)

レジストレーションを削除したり、名前を変更する

バンク選択画面 → [A]～[J] → [8▼] MENU1 → [7▼] (編集)

レジストレーションメモリーに登録された内容を確認する

バンク選択画面 → [A]～[J] → [8▼] MENU1 → [6▼] (情報)

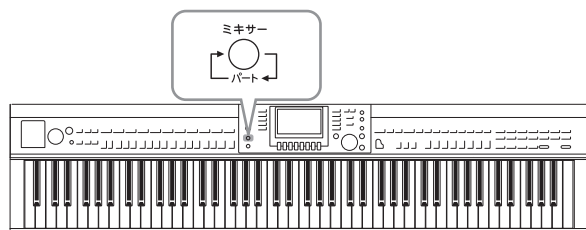
特定の項目を呼び出さないようにする

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [C] REGIST SEQUENCE/FREEZE → タブ切替[◀][▶] FREEZE

レジストレーションメモリーを呼び出す順番を指定する

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [C] REGIST SEQUENCE/FREEZE → タブ切替[◀][▶] REGISTRATION SEQUENCE

音量バランスや音色などを調節する (ミキサー)



ミキサーとは、複数の音声信号をまとめて、音声バランスやステレオ定位、エフェクトのかかり具合などを調節する装置です。クラブノーバにはミキサーの機能が内蔵されているので、鍵盤パート間やソング/スタイルチャンネルごとの音量バランスや音色調節ができます。

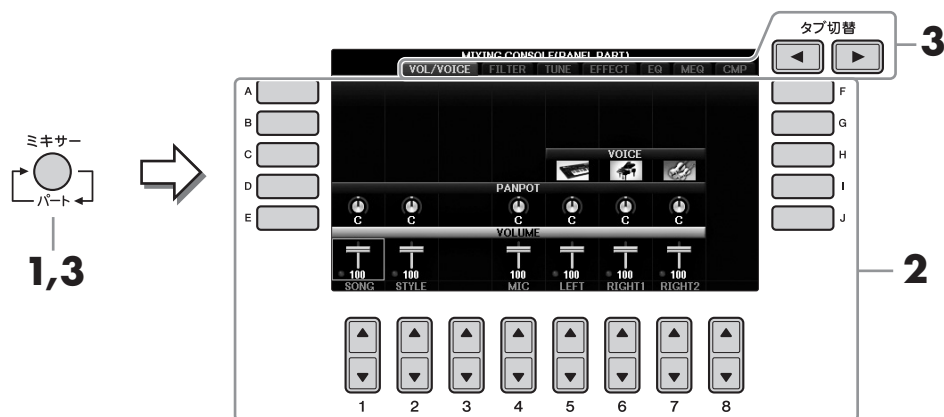
ミキサーの基本操作

1 [ミキサー]ボタンを押して、ミキサー画面を表示させます。

パートごとの音量や音色の設定値が、スライダーやつまみで表示されます。

NOTE

ミキサーには、さまざまな画面(次ページ)が用意されていますが、電源オン後、最初に[ミキサー]ボタンを押したときは、「VOL/VOICE」設定画面が呼び出されます。



2 [A]～[J]ボタンで設定したい項目の列を選び、[1▲▼]～[8▲▼]ボタンで設定値を変更します。

スライダーやつまみ形状の項目は、[1▲▼]～[8▲▼]のボタン操作だけで数値を変更できます。それ以外の項目の操作方法については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

初期設定値に戻したいときは、同じ数字の[▲]と[▼]ボタンを同時に押します。

NOTE

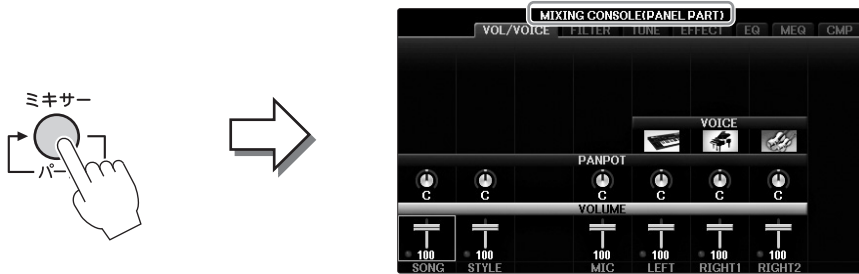
設定したい項目に対応する[A]～[J]ボタンを押しながら[1▲▼]～[8▲▼]ボタンを押す(または[データダイアル]を回す)と、すべてのパートの設定値が同じ値になります。

3 [ミキサー]ボタンで対象パートを、タブ切替[◀][▶]ボタンで設定画面を切り替えて、好みの音色になるまで調節をくり返します。

設定値の変更方法は、手順2と同じです。

■ パートを切り替える

パート名は、画面上部に表示されます。[ミキサー]ボタンを押すたびに切り替わりますので、下記を参考に選びます。



● PANEL PART

各パート(ソング、スタイル、マイク入力音、右手1、右手2、左手)を調節したいとき。

● STYLE PART

スタイルパートを調節したいとき。

● SONG CH 1-8もしくはSONG CH 9-16

ソングチャンネルを調節したいとき。SONG CH 1-8とSONG CH 9-16は、どちらかが選ばれているとき、[A] (PART)ボタンを押すことで切り替わります。

NOTE

スタイルパートとソングチャンネルは、[チャンネル オン/オフ]ボタン(67、75ページ)を押して「スタイル」または「ソング」を表示させたときのチャンネルと同じです。

■ 設定画面を切り替える

タブ切替[◀][▶]ボタンで、設定画面を選びます。各設定画面の設定項目については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。



● VOL/VOICE (ボリューム/ボイス)

各パートのボイスを変更したり、パン(ステレオ定位)や音量バランスを調節したりします。

● FILTER (フィルター)

音のハーモニックコンテンツ(レゾナンス効果)や明るさを調節します。

● TUNE (チューン)

チューニングやトランスポーズ(移調)など、音の高さに関する設定をします。

● EFFECT (エフェクト)

各パートにかけるエフェクトの種類を選び、エフェクトをかける深さを設定します(102ページ)。

● EQ (イコライザー)

パートごとに高周波数帯域/低周波数帯域のレベルを上げ下げして、サウンドを補正します。

- **MEQ (マスター EQ)**

サウンド全体にかけるイコライザーを選んで編集し、音質や音色を補正します。

- **CMP (マスターコンプレッサー)**

楽器で鳴るサウンド全体の音量を調整し、曲にまとまりを出します。

4 設定を保存します。

■ PANEL PART (パネルパート)の保存

レジストレーションメモリーに登録します(97ページ)。

■ STYLE PART (スタイルパート)の保存

スタイルデータとして保存します。

- 1 設定画面を表示します:

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [A] STYLE CREATOR

- 2 [戻る]ボタンを押して、「RECORD」画面を閉じます。

- 3 [I] (SAVE)ボタンを押して、保存の作業をする画面(スタイル選択画面)を表示させます。
スタイル選択画面で保存します(81ページ)。

■ SONG CH 1-8 / 9-16 (ソングチャンネル1~8 / 9~16)の保存

ソングデータの一部として記憶(セットアップ)させてから、ソングを保存します。

- 1 設定画面を表示させます:

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [B] SONG CREATOR

- 2 タブ切替[◀][▶]ボタンで「SETUP」を選びます。

- 3 [7▲▼]/[8▲▼]ボタンを押して、セットアップを実行します。

- 4 [I] (SAVE)ボタンを押して、保存の作業をする画面(ソング選択画面)を表示させます。
ソング選択画面で保存します(81ページ)。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」10章をご覧ください。



パン/ボリュームを調整する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] VOL/VOICE

ボイスを変更する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] VOL/VOICE → [C]/[H] →
[1▲▼]~[8▲▼] → ボイスボタン → [A]~[J]

音のひずみや明るさを変える

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] FILTER

移調やチューニングに関する設定を変える

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] TUNE

エフェクトを設定する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] EFFECT

イコライザーを設定する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] EQ

マスターイコライザーを設定する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] MEQ

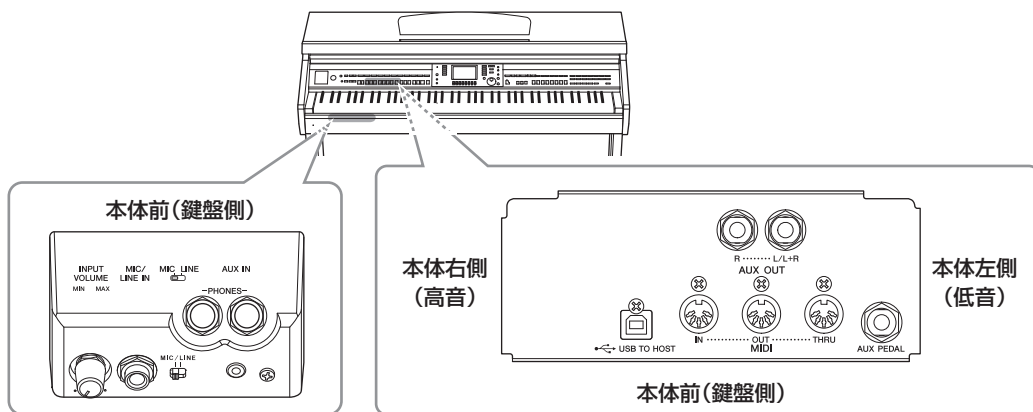
マスターコンプレッサーを設定する

[ミキサー] → タブ切替[◀][▶] CMP

他の機器と接続して演奏する

⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切ったうえで行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷のおそれがあります。



外部オーディオ機器と接続する

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす

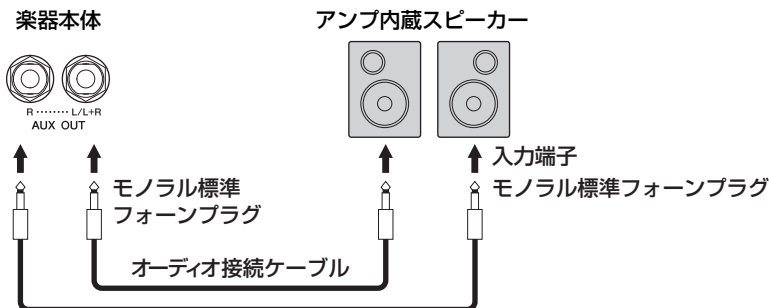
AUX OUT [R]/[L/L+R]端子を使って楽器をアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で迫力ある演奏を楽しめます。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、最初に楽器本体、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に行なってください。オートパワーオフ機能(18ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。オートパワーオフ機能により自動的に電源が切れた場合は、外部機器の電源をオフにしてから、改めて楽器 → 外部機器の順に電源を入れてください。

注記

AUX OUT [R]/[L/L+R]端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT [R]/[L/L+R]端子から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器からふたたび楽器本体の[AUX IN]端子に接続しないでください)。楽器本体の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT [R]/[L/L+R]端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。



NOTE

アンプ側の入力端子がピンの場合など、形状が合わない場合は、変換プラグを使って接続してください。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

NOTE

モノラル出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をご使用ください。

楽器本体のスピーカーから外部機器の音を出す

外部機器を楽器本体に接続して、外部機器の音を楽器本体のスピーカーから出すことができます。携帯音楽プレーヤーなどの音声出力端子([LINE OUT]端子など)を、オーディオ接続ケーブル(ステレオミニプラグ)で、楽器の[AUX IN]端子に接続します。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、最初に外部機器、次に楽器本体の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に行なってください。



NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

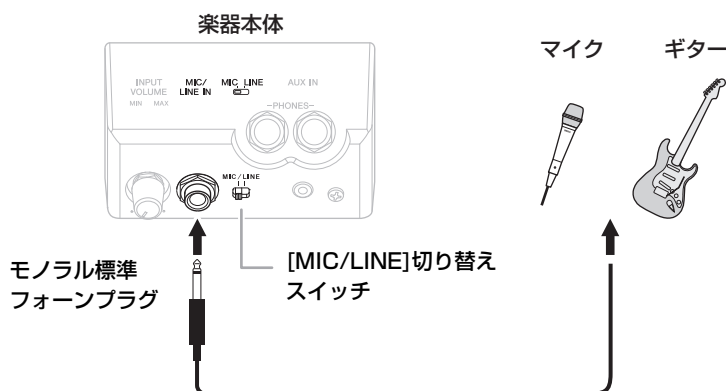
NOTE

[AUX IN]からの入力音は、楽器の[音量]ダイヤルで音量調節できます。

11

他の機器と接続して演奏する

マイクやギターをつないで使う([MIC/LINE IN]端子)

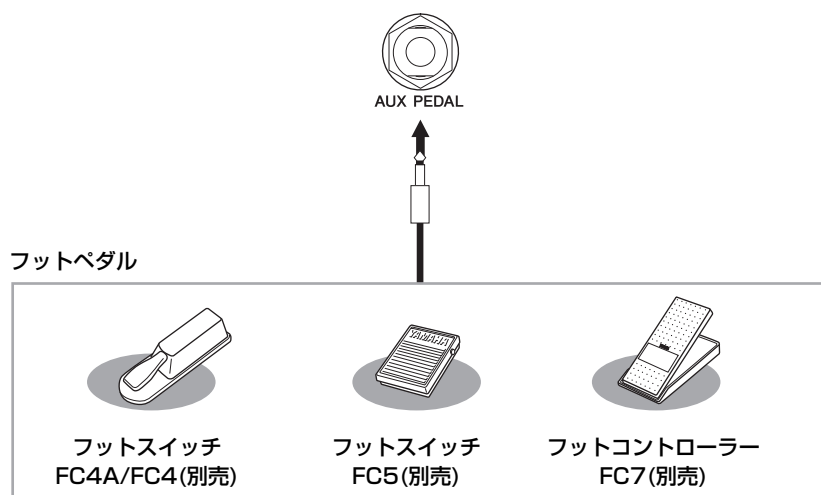


[MIC/LINE IN]端子(モノラル標準フォーン端子)にマイクやギターなどを接続すると、楽器本体のスピーカーから音を出すことができます。接続の方法は、90ページをご覧ください。

接続する機器により、[MIC/LINE]切り替えスイッチを切り替える必要があります。出力レベルが低い機器(マイク、ギター、ベースなど)を接続する場合は、MIC側に設定してください。出力レベルが高い機器(シンセサイザー、キーボード、CDプレーヤーなど)を接続する場合は、LINE側に設定してください。

フットスイッチやフットコントローラーを接続する

[AUX PEDAL]端子に別売のフットスイッチ(FC4A/FC4またはFC5)やフットコントローラー FC7を接続すると、足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。機能のオン/オフを切り替えるときにはフットスイッチを、ボリュームなどの連続した値をコントロールするときにはフットコントローラーをお使いください。



■ <例1> フットコントローラーで手弾き音のボリュームをコントロールする

フットコントローラー FC7を[AUX PEDAL]端子に接続します。工場出荷状態では、特別な設定は必要ありません。

■ <例2> フットスイッチでソング再生をコントロールする

フットスイッチFC4A/FC4またはFC5を[AUX PEDAL]端子に接続します。

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [D] CONTROLLER → タブ切替[◀][▶] PEDAL → [A]/[B] AUX画面で、[1▲▼]ボタンを使って「SONG PLAY/PAUSE」を選んで、AUXペダルにソング再生スタート/ストップの機能を割り当てます。

NOTE

フットスイッチやフットコントローラーの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

NOTE

フットスイッチ/フットコントローラーを踏んだまま電源を入れないでください。フットスイッチ/フットコントローラーのオン/オフが逆になります。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」11章をご覧ください。



フットスイッチに割り当てる機能を
設定する

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [D] CONTROLLER →
タブ切替[◀][▶] PEDAL

USB機器を接続する

[USB TO DEVICE]端子に別売品のUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器上で設定した内容や制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存できます(38、81ページ)。また、別売品のUSB無線LANアダプターを使って、iPadなどと無線通信(108ページ)したりできます。

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー (別売品)
- USBハブ(別売品)
- USB無線LANアダプター UD-WL01(別売品)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

本機では、USB1.1～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前にご確認ください。

サポート・お問い合わせ

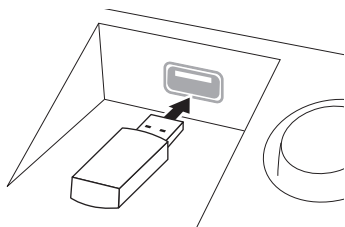
<https://jp.yamaha.com/support/>

NOTE

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

- [USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- トップパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除など)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。

NOTE

- 1つの[USB TO DEVICE]端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USBハブを使います。USBハブをパスワードでお使いください。USBハブは1台のみ使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。
- USBケーブルで接続する場合、3メートル未満のケーブルをご使用ください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、2台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できる記憶装置は2台までです。)

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(107ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。特に複数のUSBフラッシュメモリーを接続しているときは、ご注意ください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除など)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)

[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを差したときに、USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)するように促すメッセージが表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。

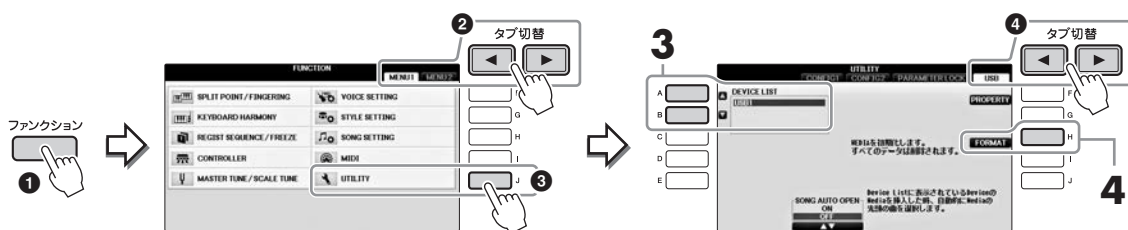
注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。特に複数のUSBフラッシュメモリーを接続しているときは、ご注意ください。

1 フォーマットするUSBフラッシュメモリーを楽器の[USB TO DEVICE]端子に差し込みます。

2 設定画面を表示させます:

①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU 1 → ③[J] UTILITY → ④タブ切替[◀][▶] USB



3 [A]または[B]ボタンを押して、手順1で差し込んだUSBフラッシュメモリーに対応したデバイスを選びます。

接続しているUSBフラッシュメモリーの数によって、接続した順にUSB1、USB2などと表示されます。

4 [H] (FORMAT)ボタンを押して、フォーマットします。

USBフラッシュメモリーの容量を確認する

手順4で[F] (PROPERTY)ボタンを押すと、USBフラッシュメモリーの空き容量が確認できます。

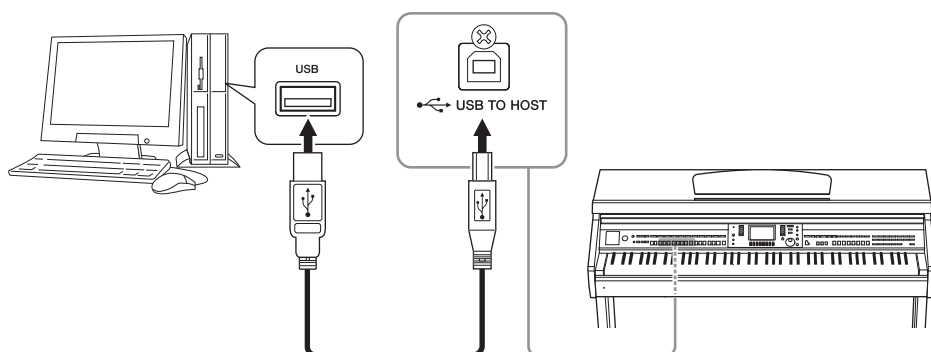
コンピューターと接続する

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとデータをやり取りしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

コンピューターとの接続方法など、詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

注記

USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。



NOTE

- 楽器本体は、USB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- USB無線LANアダプターではコンピューターには接続できません。

11

他の機器と接続して演奏する

iPhone/iPadと接続する

別売品のUSB無線LANアダプター UD-WL01を[USB TO DEVICE]端子に接続し、iPhone/iPad対応のアプリを使えば、あなたのミュージックライフがもっと便利に、もっと楽しくなります。

「オーディオデータのコード進行を知りたい」、「演奏する曲にぴったりの音色や伴奏スタイルを、簡単に見つけたい」など、あなたの目的に合ったアプリを見つけてみましょう。

- 接続の方法については、ウェブサイト上(4ページ)の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。
- 対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

注記

iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone/iPadの機内モードをオンにしてから、Wi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

もっと進んだ使いかた

詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」11章をご覧ください。



無線LANの設定

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU2 → [H] WIRELESS LAN

NOTE

「WIRELESS LAN」は、USB無線LANアダプター(別売品)を接続した場合のみ表示されます。

iPadを譜面立てに取り付ける

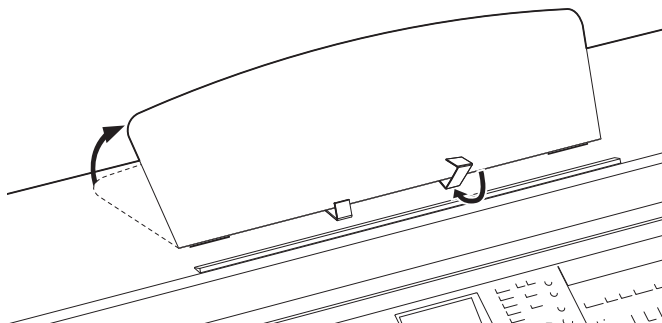
iPadは付属のホルダーセット(113ページ)を使って譜面立てに取り付けられます。

注記

iPadの落下を防ぐために、以下のことにご注意ください。

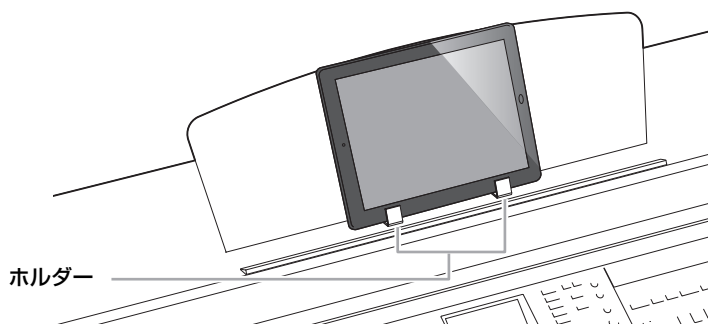
- ホルダー使用中でも、楽器やiPadなどに強い衝撃を加えたり、傾けたりすると、iPadが落下するおそれがありますので、ご注意ください。
- 譜面立てがしっかり固定されていることを確認してください。
- 楽器を移動したり傾けたりする場合は、譜面立てからiPadを下ろしてから行なってください。
- 譜面立てに置いたiPadを横滑りさせたり、強く押す/強く連打するなど強い衝撃を加えないでください。
- iPadと他のもの(楽譜や2台目のiPadなど)を、一緒に譜面立てに置かないでください。iPadが落下するおそれがあります。
- iPadを不安定な場所に置かないでください。

1 譜面立てを倒した状態から少し手前に起こして、ホルダー 2つを下から差し入れます。



2 譜面立ての裏にある左右2つの金具を下ろしたあと、譜面立てを戻します(16ページ参照)。

3 iPadを譜面立てに置きます。

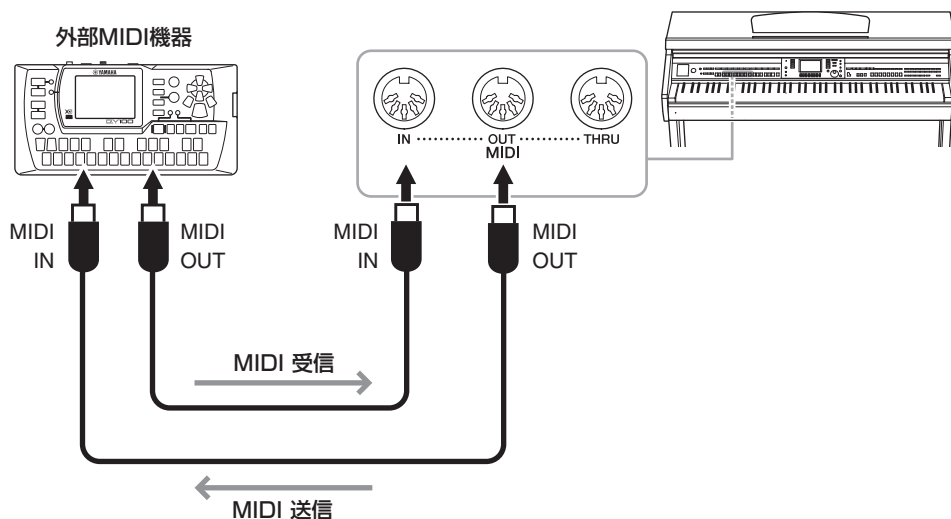


外部MIDI機器と接続する

ヤマハダウンロードサイト(4ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。

MIDI端子を使用して、外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)と接続できます。MIDIケーブルをご使用ください。

- **MIDI IN** MIDIデータを受信する端子です。
- **MIDI OUT** MIDIデータを送信する端子です。
- **MIDI THRU** MIDI INで受信したデータをそのまま出力する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



MIDIに関する楽器本体の設定(送信/受信チャンネルや、送受信するデータの内容など)については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」11章をご覧ください。

もっと進んだ使いかた

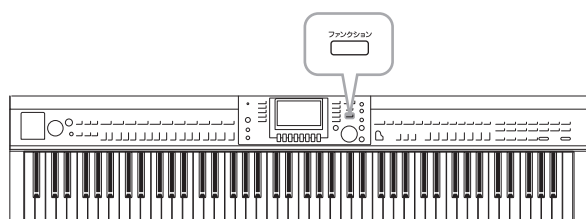
詳しくはインターネット上の「リファレンスマニュアル」11章をご覧ください。



MIDIに関する設定

[ファンクション] → タブ切替[◀][▶] MENU1 → [1] MIDI → [8▼] (編集)

楽器全体に関する設定



[ファンクション]ボタンの中には、さまざまな設定ができるUTILITY (ユーティリティ)とSYSTEM(システム)があります。

これらのメニューには、楽器全体にかかわる設定や、特定の機能に関する詳細の設定など、いくつかの項目が含まれています。

また、楽器の中にあるデータのバックアップや、USBフラッシュメモリーの容量確認も行なえます。

ユーティリティ画面

下記の4つの画面があります。

■ CONFIG1

以下の設定を行ないます。

- ・フェードイン/アウトの時間設定
- ・メトロノーム音の設定
- ・タップテンポのタップ音の設定
- ・オートパワーオフの設定 (18ページ)
- ・画面の明るさの設定(21ページ)

■ CONFIG2

以下の設定を行ないます。

- ・スピーカーから音を出す/出さない
- ・ステレオフォニックオブティマイザー (20ページ)のオン/オフ
- ・AUX IN端子からの入力音にノイズゲートを通す/通さない
- ・IAC (19ページ)のオン/オフと効果の深さ
- ・内蔵スタイルのファイル選択画面に各スタイルのオリジナルテンポを表示させる/表示させない
- ・内蔵ボイスのファイル選択画面に各ボイスのバンクナンバー、プログラムチェンジナンバーを表示させる/表示させない
- ・各ファイル選択画面の「ユーザー」「USB」内のファイルに更新日付と更新時刻*を表示させる/表示させない
- ・ボイスボタンを押したときにカテゴリー先頭のボイスに切り替える/切り替えない
- ・ポップアップ画面の表示時間

* 無線LANアダプターを使って楽器をネットワークに接続していると、ネットワークから取得した日付と時刻をファイルの更新日と更新時刻にします。

■ PARAMETER LOCK

レジストレーションメモリーなどでパネル設定を切り替えても、特定の設定だけは切り替わらないようにする機能です。

■ USB

USBフラッシュメモリーのフォーマット(107ページ)や、容量確認を行ないます。

システム画面

システムメニューには、下記の4つの画面があります。

■ OWNER

所有者名を登録したり(22ページ)、画面に表示させる言語を選んだりします(21ページ)。

■ BACKUP/RESTORE

楽器上のデータをUSBフラッシュメモリーにバックアップしたり、バックアップしたデータを楽器に戻します(38ページ)。

■ SETUP FILES

お気に入りの設定を自分だけの初期化ファイルとして保存しておき、必要なときに呼び出せます。

■ RESET

楽器を初期化します。特定の設定だけを工場出荷時の状態に戻したり、楽器の設定は残したまま制作したファイル/フォルダーだけを削除したりもできます。

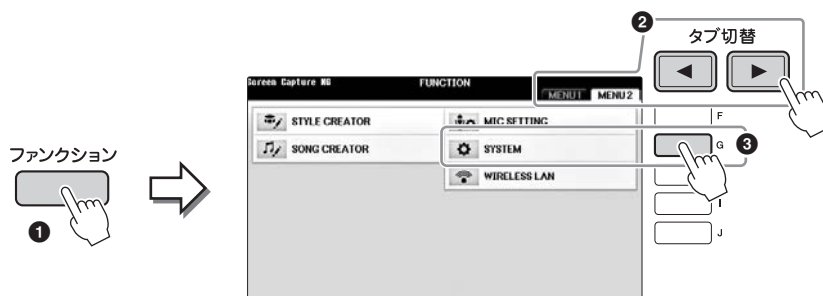
基本操作

1 設定画面を表示させます：

ユーティリティー画面：①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU1 → ③[J] UTILITY



システム画面：①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶] MENU2 → ③[G] SYSTEM



2 タブ切替[◀][▶]ボタンで、設定したい項目のある画面を開きます。

3 画面左側に複数の項目が表示されている場合は、[A]/[B]ボタンで、設定したい項目を選びます。

4 [1▲▼]～[8▲▼]ボタンで設定内容を変更したり、[A]～[J]ボタンで操作を実行したりします。

ユーティリティー / システムの詳細内容や操作方法については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。

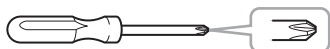
組み立て方

組み立て前の準備

⚠ 注意

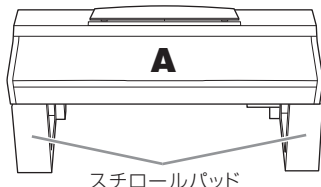
- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+) のドライバーを用意してください。



スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。スチロールパッドは、A底面のコネクタを避けて配置します。すべての部品を取り出し、部品がそろっているかを確認してください。

本体



背面板

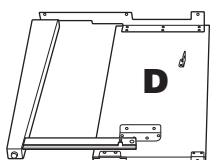


ペダルボックス

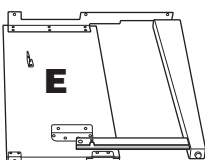


裏側にペダルコードが束ねてあります。

側板



側板



ネジセット

F 6 × 20mm : 4本

G 4 × 12mm : 2本

H 4 × 20mm : 4本

J 6 × 16mm : 6本

ヘッドフォンハンガーセット

K 4 × 10mm : 2本

ヘッドフォンハンガー

コードホルダー : 2個

電源コード

ホルダーセット

ホルダーセットの使用方法については、109ページをご覧ください。

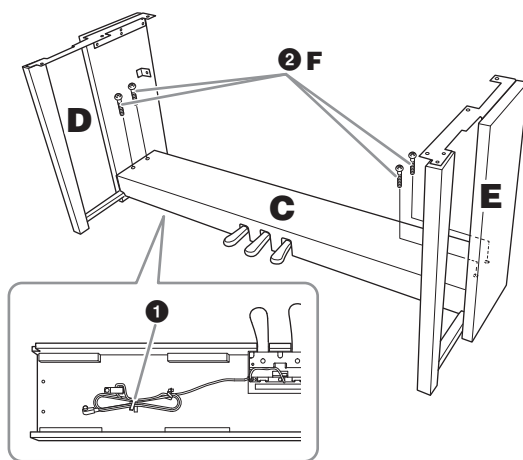


2個

組み立て方

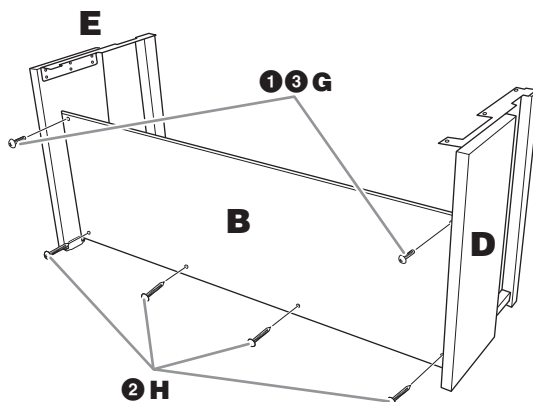
1 DとEをCに固定します。

- ① ペダルコードをほどきます。外したビニールひもは、手順5で使います。
- ② CにDとEをF (4本)で固定します。



2 Bを固定します。

- ① Bの上側の穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、G (2本)で仮留めします。
- ② Bの下側をH (4本)で締め固定します。
- ③ Bを仮留めたG (手順2-①)で固定します。



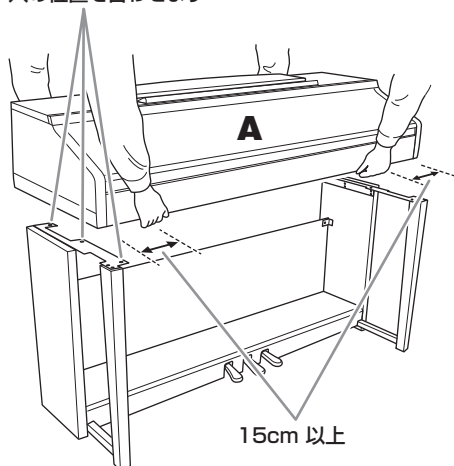
3 Aを載せます。

⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

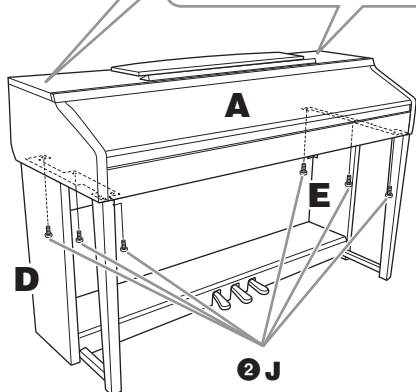
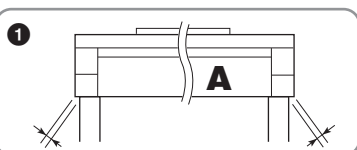
必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せてください。

ネジ穴の位置を合わせます



4 Aを固定します。

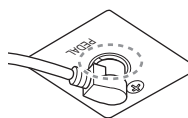
- ① 図のように、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- ② AをJ (6本) で固定します。



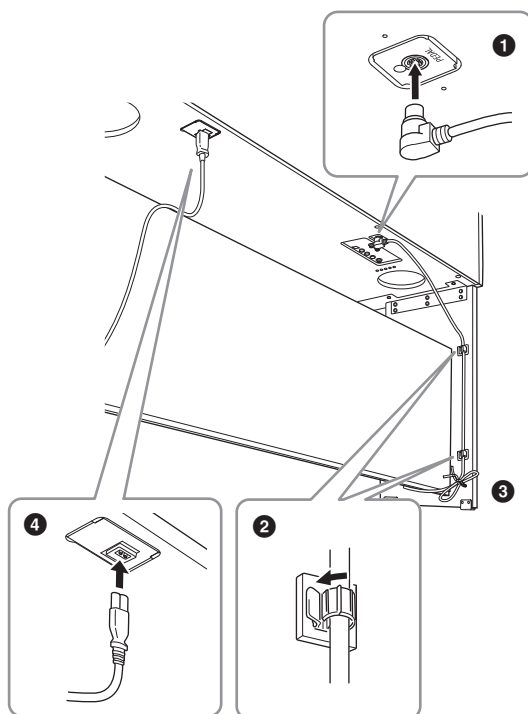
5 ペダルコードと電源コードを接続します。

- ① ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込みます。

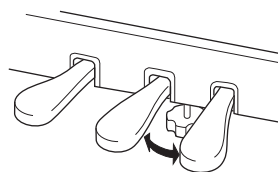
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



- ② コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- ③ ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- ④ 電源コードのプラグを[AC IN]端子に差し込みます。

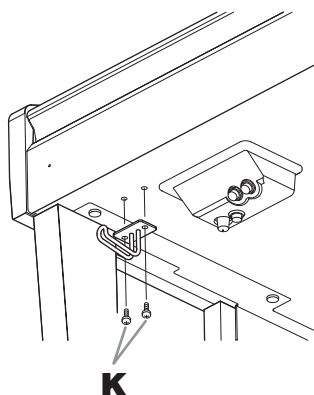


6 アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



7 ヘッドフォンハンガーを固定します。

K (2本)で、図のように取り付けます。



組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

■ 部品が余っていませんか？

→ 組み立て手順を再確認してください。

■ 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？

→ クラビノーバを移動してください。

■ クラビノーバがぐらぐらしませんか？

→ ネジを確実に締めてください。

■ ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？

→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

■ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？

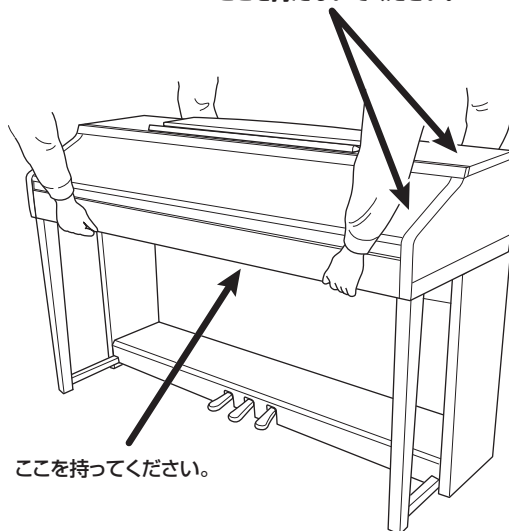
⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

⚠ 注意

組み立て後、楽器を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。天板やキーカバーは持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

ここを持たないでください。



ここを持ってください。

困ったときは

全般	
電源スイッチをオンまたはオフにしたとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフを解除してください(19ページ)。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。クラビノーバの近くでは携帯電話の電源を切ってください。
iPhone/iPadのアプリケーションと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、iPhone/iPadの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
液晶画面に、点灯しない点や点灯したままの点がある。	TFTカラー液晶の特性です。故障/不良ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカカタ鳴る。	クラビノーバの鍵盤機構が、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されているためです。ピアノの場合でも機構音は実際に出ています。異常ではありません。
鍵盤で弾く音にわずかな音質の違いがある。	楽器のサンプリングシステムによります。異常ではありません。
ループして(繰り返し)鳴る音がある。	
ボイスによっては、高音になるほど雑音やビブラートが付いてしまう。	
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	- 全体ボリュームが下がっています。[音量]ダイヤルでボリュームを上げてください。 - 鍵盤パートが全パートオフになっています。鍵盤パート オン/オフ [右手1]/[右手2]/[左手]ボタンを押して、鍵盤パートをオンにします。 - 各パートの音量が下がっています。音量バランス画面で各パートの音量を上げてください(68ページ)。 - 鳴らしたいチャンネルがOFFになっています。OFFになっているチャンネルをONにしてください(67、75ページ)。 - ヘッドフォンが接続されています。ヘッドフォンのプラグを抜いてください。 - スピーカーがOFFになっています。スピーカーをONにしてください(112ページ)。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」12章をご覧ください。
音がひずんだり、雑音が混じっている。	- ボリュームが上がりが過ぎています。ボリュームを下げてください。 - エフェクトやフィルターの設定に起因して音がひずんだり雑音が混じったりすることがあります。エフェクトやフィルターの設定を確認してください。詳しくはウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」2章、9章をご覧ください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数(125ページ)を超えています。最大同時発音数を超えた場合は、前の音を消してあとの音を優先的に鳴らすしくみになっています。
鍵盤で弾く音が、ソングやスタイルの再生音に比べて小さい。	鍵盤パートの音量が下がっています。音量バランス画面で鍵盤パート「右手1」「右手2」「左手」の音量を上げたり、「スタイル」「ソング」の音量を下げたりして調節してください(68ページ)。
電源を入れてからメイン画面が表示されるまでに時間がかかる。	USBフラッシュメモリーが接続されていると、装置によっては、電源を入れてからメイン画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。USBフラッシュメモリーを外してから電源を入れてください。
ファイル/フォルダー名が文字化けする。	言語設定を切り替えたためです。ファイル/フォルダー名に適した言語に切り替えてください(21ページ)。

全般	
ファイルが楽器本体に表示されない。	• ファイルの拡張子(.MIDなど)が変更/削除されています。コンピューターで、ファイルの拡張子を付け直してください。 • ファイル名が半角で50文字(拡張子を含む)を超えるデータは、この楽器で扱えません。ファイル名を半角50文字以下にしてください。

ボイス	
ボイスを選んでから鍵盤を弾いても、ボイスが変わらない。	ボイスを選んだパートと弾いている鍵盤パートが違っています。選んだパートがオンになっているか、鍵盤パート オン/オフ[右手1]～[左手]ボタンで確認してください。鍵盤パートについて詳しくは、47ページをご覧ください。
変に音が重なって聞こえる。鍵盤を押すたびに、わずかに音が異なって聞こえる。	右手1と右手2パートがオンで、両パートに同じボイスが選ばれています。右手2パートをオフにするか、ボイスを変更してください。
高音域や低音域で演奏すると、ピッチがオクターブ単位でジャンプしてしまうボイスがある。	ピッチの限界に達するとピッチがシフトするボイスもあります。異常ではありません。

スタイル	
スタイル [スタート/ストップ] ボタンを押してもスタイルが始まらない。	リズムパートが入っていないスタイルです。[スタイル オン/オフ] ボタンをオンにして左手鍵域を弾くと、スタイル(自動伴奏)が再生します。
スタイルがリズムしか再生されない(自動で伴奏が鳴らない)。	• スタイルがオンになっていません。[スタイル オン/オフ] ボタンを押して、スタイルをオンにしてください。 • スプリットポイントの右側の鍵盤を弾いています。コード鍵域を確認して弾いてください(59、69ページ)。
USBフラッシュメモリー内のスタイルを選択できない。	スタイルデータの容量が大きい(約120KB以上)と、楽器本体に読み込めず、選択できないことがあります。

ソング	
ソングを選択できない。	• 言語設定を切り替えたためです。ファイル名に適した言語に切り替えてください(21ページ) • ソングデータの容量が大きい(約300KB以上)と、楽器本体に読み込めず、選曲できないことがあります。
ソングを再生できない。	• ソングが終わった位置で停止しています。ソングコントロール[ストップ]ボタンを押してソングの再生位置を先頭に戻してから、再生してください。 • プロテクトがかかったソング(ソング名の左上に「Prot. 2 Edit」と表示)の場合、編集元のファイルが同じフォルダーにありません。編集元のファイル(ソング名の左上に「Prot. 2 Orig」と表示)が同じフォルダーにないと再生できません。 • プロテクトがかかったソング(ソング名の左上に「Prot. 2 Edit」と表示)の場合、編集元のファイルの名前が変わっています。編集元のファイル(ソング名の左上に「Prot. 2 Orig」と表示)を元の名前に戻してください。 • プロテクトがかかったソング(ソング名の左上に「Prot. 2 Edit」と表示)の場合、編集元のファイルのアイコンが変更されています。プロテクトがかかったソングの場合、編集元のファイルのアイコンが変更されると再生できなくなります。
ソングの再生が途中で止まる。	ガイド機能がオンになっています(正しい鍵盤が弾かれるのを待っている状態です)。[ガイド] ボタンを押して、ガイド機能をオフにしてください。
[早戻し]/[早送り] ボタンを押して表示させる「ソングポジション」画面で、小節番号が楽譜と異なる。	(ソングのテンポに関係なく)一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生しているためです。

ソング	
ソングの再生時、再生されないチャンネルがある。	そのチャンネルが再生OFFになっています。OFFになっているチャンネルを再生ONにしてください(75ページ)。
[ガイド]ボタンを押してソングを再生しても、ガイドランプが光らない。	クラビノーバの鍵盤(88鍵)より高い/低い音は、ガイドランプが光りません。
ガイドランプが、1～2オクターブ異なる鍵盤で光る。	選ばれているボイスによって、ガイドランプが、1～2オクターブ異なる鍵盤で光ることがあります。
テンポ、ビート、小節数、譜面が正しく表示されない。	ソングのテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生した場合は、テンポ、ビート、小節数、譜面が正しく表示されません。

USBオーディオプレーヤー /レコーダー	
オーディオ録音中に、エラーメッセージの表示とともに録音が中断された。	- 動作確認済みのUSBフラッシュメモリをお使いください(106ページ)。 - USBフラッシュメモリの空き容量が十分かどうかご確認ください(107ページ)。 - 録音や削除を繰り返し行なったUSBフラッシュメモリをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(107ページ)、録音し直してください。
オーディオファイルが選択できない。	楽器が対応していないファイル形式です。この楽器ではWAVファイルが再生できます。(DRMファイルは再生できません。)
録音したファイルが、録音時と異なる音量で再生される。	オーディオ再生のボリュームが変更されています。ボリュームを100に設定すると、録音時と同じ音量で再生できます(86ページ)。

マイク	
マイクの音が録音できない。	MIDI録音では、マイクの音は録音されません。オーディオファイルとして録音してください(88ページ)。

ミキサー	
ミキサーでスタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更したら、サウンドがおかしくなった。	スタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更すると、ドラムボイスに関する細かい設定がリセットされてしまい、もう一度元のリズムボイスに戻しても元どおりのサウンドに戻らない場合があります。このような場合は、スタイルやソングを選び直すと元の音に戻ります。

ペダル/AUX PEDAL	
ペダルのダンパー機能、スustain機能、ソフト機能が効かない。	- ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていません。ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください(114ページ)。 - ペダルに別の機能が割り当てられています。それぞれのペダルに「SUSTAIN」「SOSTENUTO」「SOFT」を割り当ててください(23ページ)。
AUX PEDAL端子に接続したフットスイッチの、オンとオフが逆になる	電源を切り、フットスイッチから足を離した状態で電源を入れ直してください。
ダンパーペダルの効きが悪い。	ダンパーペダルを踏んだまま電源を入れたためです。故障ではありません。ダンパーペダルを踏み直すと機能が回復します。

AUX IN端子	
AUX IN端子から入力した音が途切れる。	AUX IN端子に接続した外部機器の音量(出力レベル)が小さいためです。AUX INに接続した機器側の音量(出力レベル)を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[音量]ダイヤルで行なってください。

よくあるお問い合わせ

お客様からのお問い合わせが多い項目をまとめました。ぜひご活用ください。

再生(MIDI・オーディオ共通)	
再生できるデータにはどんなものがありますか？	MIDIソング(71ページ)とオーディオファイル(84ページ)があります。 拡張子は".mid"、".wav"のみです。
MIDIとオーディオの違いはどんな点ですか？ どのように使い分けたらよいですか？	79ページをご覧ください。 多重録音したい場合、録音後編集をしたい場合はMIDI録音がおおすすめです。 声を録音したり、録音後CDにしたりする場合はオーディオ録音をしてください。 121ページにそれぞれの手順をまとめていますので、ご参照ください。
USBフラッシュメモリーに保存した曲が見つかりません/再生できません。 どうしたらよいですか？	[USB]ボタンを押すと、簡単にUSBフラッシュメモリーの中身を見ることがができます。オーディオは「オーディオ」フォルダー、MIDIは「ソング」フォルダーを見てください。 データが表示されないときは以下を確認してください。 ・ 拡張子が正しいか確認してください。(.mid/.wav) ・ 「困ったときは」の「ファイルが楽器本体に表示されない」をご参照ください。 ・ データがzipファイルになっていませんか？ zipファイルの場合はコンピューターで解凍し、.midの拡張子のファイルをUSBフラッシュメモリーに入れてください。
	MIDIソングの再生方法は71ページをご覧ください。
	オーディオファイルの再生方法は84ページをご覧ください。

曲の再生	
ソングの1パートだけを聞いたり、1パートだけを消音(ミュート)したりできますか？	右手パート、左手パートを簡単に消音したい場合は、[トラック1 (右手)]、[トラック2 (左手)]ボタンを押します。(76ページ) チャンネル ON/OFF (ソング)画面でもできます。75ページをご覧ください。
ソングをパートごとに音色を確認したり、音色を変えたりできますか？	ミキサー画面*でできます。100ページをご覧ください。 *ミキサー画面の対象パートは「SONG CH 1-8」か「SONG CH 9-16」、設定画面は「VOL/VOICE」に切り替えてください。
オーディオファイルの音量調節はできますか？	USB AUDIO PLAYER画面でできます。86ページをご覧ください。

音量	
鍵盤演奏(メイン・レイヤー・レフト)の音量をそれぞれに調節できますか？	音量バランス画面でできます。68ページをご覧ください。
自分の鍵盤演奏の音を、スタイルやソングの音量より大きく/小さくできますか？	

スタイルの再生	
スタイルの1パートだけを聞いたり、1パートだけ消音(ミュート)したりできますか？	チャンネル ON/OFF(スタイル)画面でできます。 67ページをご覧ください。
スタイルをパートごとに音色を確認したり、音色を変えたりできますか？	

譜面	
譜面をもっと大きく表示できますか？	譜面を表示する(74ページ)をご覧ください。

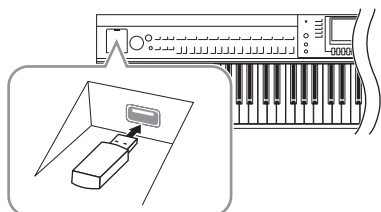
歌う	
画面に歌詞付きの譜面を表示して弾き語りするには、どうしたらよいですか？	MIDIソングに歌詞情報が入っていればできます。 ・マイクを接続する(90ページ) ・ソングを再生する(71ページ) ・譜面を表示する(74ページ)をご覧ください。
鍵盤演奏と歌声を一緒に録音できますか？	オーディオ録音(88ページ)中に、接続したマイクに向かって歌ってください。 歌声が鍵盤演奏などと一緒に録音されます。 MIDI録音ではマイクの音は録音されません。

その他	
最初から入っていた値に戻す方法はありませんか？	テンポとトランスポーズの値はパネルの[+]/[-]ボタンを同時に押します。 その他は、同じ数字の[▲][▼]ボタンを同時に押します。
プリセットとユーザーとUSBの違いを教えてください。	・プリセット：楽器に元から入っているデータ ・ユーザー：自分で作って楽器内部に保存したデータ ・USB：楽器に接続したUSBフラッシュメモリー内に入れたデータ
鍵盤の音の高さを1オクターブ上げたり、下げたりできますか？	ボイス編集画面でできます。 (ボイス選択画面 → [8▼] MENU1 → [5▼] ボイスセット → タブ切替[◀][▶]COMMON)

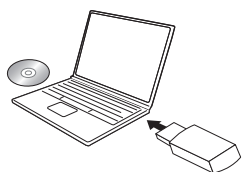
次ページでは、録音したオーディオファイルをコンピューターに取り込んで音楽CDを作成する方法と、MIDI曲を完成させるまでの流れをご紹介します。

オーディオ録音して音楽CDを作成する

オーディオ録音



コンピューターへ取り込み



1 オーディオファイルを録音します(88ページ)。

オーディオ録音すると、自動的にUSBフラッシュメモリーに保存されます。

*マイクや他の楽器からの入力音を一緒に録音できます。

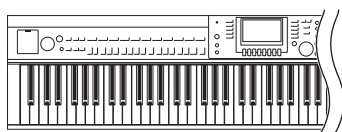
2 オーディオファイルの入ったUSBフラッシュメモリーを楽器から取り外して、コンピューターのUSB端子に接続します。コンピューターを操作して、オーディオファイルをUSBフラッシュメモリーからコンピューターへ移し、音楽CDを作成します。

音楽CDの作成について詳しくは、コンピューターに付属の取扱説明書などをご覧ください。

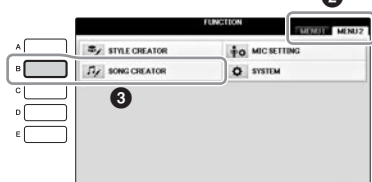
* オーディオファイルでは録音後の編集はできません。

MIDI録音して1曲仕上げる

MIDI録音



編集



音量や音質の補正



1 MIDI録音します。(79ページ)

ソングクリエーターでステップ録音する方法もあります。

2 ソングクリエーターで編集します。

- 一部分だけ録音し直し(パンチイン/パンチアウト)
- 1音だけ削除
- 音色やテンポの変更
- 1パートだけ削除

ソングクリエーターは、①[ファンクション] → ②タブ切替[◀][▶]

MENU2 → ③[B] (SONG CREATOR)で出ます。

編集の方法については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルの5章の「ソングクリエーター」をご覧ください。

3 ミキサーで音量や音質の補正をします。(100ページ)

- エフェクトをかける
- サウンド全体の音量を調整する。

ミキサーは[ミキサー]ボタンを押します。

ミキサーの対象パートを「SONG CH 1-8」か「SONG CH 9-16」に切り替えてください。

* MIDIソングはCDには焼けません。

パネルボタンチャート

No...... 14ページ「各部の名称」の番号と一致しています。ボタンの位置を知りたい場合にご活用ください。

操作子..... パネル上の、ボタン、ダイヤル、端子などのことです。

画面..... ボタンを押したときに表示される画面を表します。

リファレンスマニュアル..... この欄に「●」が付いている画面については、ウェブサイト上(4ページ)の「リファレンスマニュアル」で詳しく説明しています。

No.	操作子		画面		ページ	リファレンス マニュアル
①	[USB TO DEVICE]端子		—		106	—
②	[音量]ダイヤル		—		19	—
③	電源		オープニング画面		18	—
④	[デモ]		デモ画面		24	—
⑤	[メトロノーム オン/オフ]		—		56	—
⑥	トランスポーズ [–]/[+]		トランスポーズ (ポップアップ)		50	—
⑦	タップ		—		63	—
	テンポ[–]/[+]		テンポ (ポップアップ)		63	—
⑧	スタイル	[ポップ&ロック]～ [ピアニスト]	スタイル選択画面		58	—
		[スタイル オン/オフ]	—		58	—
		[フィルイン オン/オフ]	—		63	—
		イントロ [Ⅰ]～[Ⅲ]	—		62	—
		メイン[A]～[D]	—		63	—
		[ブレイク]	—		63	—
		エンディング/rit. [Ⅰ]～ [Ⅲ]	—		62	—
		[シンクロストップ]	—		62	—
		[シンクロスタート]	—		62	—
		[スタート/ストップ]	—		62	—
⑨	[ミュージックファインダー]	MUSIC FINDER 画面	ALL	92	—	
			FAVORITE	96	●	
			SEARCH 1	95	—	
			SEARCH 2	96	—	
⑩	[マイク]ランプ		—		90	●
⑪	[ミキサー]	MIXING CONSOL E画面	VOL/VOICE	101	●	
			FILTER	101	●	
			TUNE	101	●	
			EFFECT	101	●	
			EQ	101	●	
			MEQ	102	●	
			CMP	102	●	

No.	操作子	画面			ページ	リファレンス マニュアル	
12	[チャンネル オン/オフ]	チャンネル ON/OFF (ポップ アップ)	ソング		75	—	
			スタイル		67	—	
13	タブ切替[◀][▶]	—			26	—	
	[A]～[J]	—			25	—	
	[ダイレクトアクセス]	(メッセージ)			28	—	
	[戻る]	—			27	—	
	[1▲▼]～[8▲▼]	—			26	—	
	[データダイアル]	—			27	—	
	[エンター]	—			27	—	
14	[USB]	USB画面			30	—	
15	[ファンクション]	MENU1	SPLIT POINT/ CHORD FINGERING	SPLIT POINT	69	●	
				CHORD FINGERING	60、 70	—	
			KEYBOARD HARMONY			57	●
			REGIST SEQUENCE/ FREEZE	REGISTRATION SEQUENCE	99	●	
				FREEZE	99	●	
			CONTROLLER	PEDAL	105	●	
				KEYBOARD/PANEL	55、 57	●	
			MASTER TUNE/ SCALE TUNE	MASTER TUNE	57	●	
				SCALE TUNE	57	●	
			VOICE SETTING	PIANO	57	●	
				VOICE SET FILTER	57	●	
			STYLE SETTING			70	●
			SONG SETTING	GUIDE/CHANNEL	78	●	
				OTHERS	78	●	
			MIDI	MIDIテンプレート選択 画面	110	●	
			UTILITY	CONFIG1	111	●	
				CONFIG2	111	●	
				PARAMETER LOCK	111	●	
				USB	111	●	
		MENU2	STYLE CREATOR			70、 102	●
			SONG CREATOR			83、 102	●
			MIC SETTING			91	●

No.	操作子		画面		ページ	リファレンス マニュアル	
15	[ファンクション]		MENU2	SYSTEM	OWNER	21、 22、 111	—
				BACKUP/RESTORE		38、 112	—
				SETUP FILES		112	●
				RESET		112	●
			WIRELESS LAN		108	●	
16	鍵盤パート オン/オフ	[右手1]/[右手2]/[左手]	—		47	—	
17	[オーディオ]		USB AUDIO PLAYER画面		84	—	
18	ソング コント ロール	[ソング選択]	ソング選択画面		71	—	
		[録音]	チャンネル ON/OFF (ソング) (ポップアップ)		79	—	
		[ストップ]	—		72	—	
		[スタート/一時停止]	—		72	—	
		[早戻し]/[早送り]	ソングポジション(ポップアップ)		73	—	
		[その他トラック(スタイル)]	—		76	—	
		[トラック2(左手)]	—		76	—	
		[トラック1(右手)]	—		76	—	
		[譜面]	SCORE画面		74	●	
		[歌詞]	LYRICS画面		75	●	
		[ガイド]	—		76	●	
		[くり返し]	—		76	—	
19	[ピアノルーム]		PIANO ROOM画面		40	—	
20	レジスト レーション メモリー	レジストレーションバンク [-]/[+]	レジストレーションバンク(ポップアップ)		98	—	
		[メモリー]	REGISTRATION MEMORY CONTENTS画面		97	—	
		[1]~[8]	—		97	—	
21	ボイス	[ピアノ]~[ドラムキット]	ボイス選択画面		44	—	
		[オルガンフルート]	オルガン フルート VOICE SET画面	FOOTAGE	53	—	
			VOLUME/ ATTACK	54	●		
				EFFECT/EQ	54	●	
22	ワンタッチ セッティン グ(OTS)	[1]~[4]	—		64	●	
		[OTSリンク]	—		64	—	
23	[ボイスエフェクト]		VOICE EFFECT画面		51	●	

品名			電子ピアノ
サイズ/質量	幅		1352mm
	高さ	譜面立てを倒した場合	918mm
		譜面立てを立てた場合	1065mm
	奥行き		595mm
	質量		59.0kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマー 3エックス(GH3X)鍵盤 象牙調仕上げ、エスケープメント付き
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、 ソフト2
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○
		ペダル機能	サステイン、ソステヌート、ソフト、 グライド、ソングスタート/一時停止、 スタイルスタート/ストップ、音量、その他
	ディスプレイ	タイプ	TFTカラー LCD
		サイズ	4.3インチ(480×272ドット)
		明るさ	○
		譜面表示	○
		歌詞表示	○
		言語	6言語 (日・英・独・仏・西・伊)
	パネル	言語	日
本体	キーカバー (鍵盤蓋)		スライド式
	譜面立て		○
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、ベーゼンドル ファー インベリアルサンプリング
	ピアノ音源の効果	VRM	○
		キーオフサンプリング	○
		スムーズリリース	○
	発音数	最大同時発音数	256
	プリセット	音色数	777ボイス + 29 ドラム/SFXキット + 480 XGボイス
		音色タイプ	10 VRM、49スーパーアーティキュレーション ボイス、23メガボイス、13ナチュラルボイ ス、26スイートボイス、58クルールボイス、 70ライブボイス、20オルガンフルート
	カスタマイズ	ボイスエディット	○
	音源フォーマット		XG、GS (再生専用)、GM、GM2

効果	リバーブ		58プリセット + 3ユーザー
	コーラス		106プリセット + 3ユーザー
	DSP		295プリセット + 3ユーザー
	マスター EQ		5プリセット + 2ユーザー
	パートEQ		27パート
	マスターコンプレッサー		5プリセット + 5ユーザー
	インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)		○
	ステレオフォニックオプティマイザー		○
	ファンクション	デュアル(レイヤー)	○
		スプリット	○
伴奏スタイル	プリセット	スタイル数	310
		スタイルタイプ	253プロスタイル、21セッションスタイル、36ピアニストスタイル
	ファイルフォーマット		スタイルファイルフォーマットGE (ギターエディション)
	フィンガリング		シングルフィンガー、フィンガード、フィンガードオンベース、マルチフィンガー、AIフィンガード、フルキーボード、AIフルキーボード
	スタイルコントロール		イントロ×3、メイン×4、フィル×4、ブレイク、エンディング×3
	カスタマイズ	スタイルクリエイター	○
	その他特長	ミュージックファイnder (内蔵を含む最大レコード数)	1200
		OTS(ワンタッチセッティング)	各スタイルに4種類
		スタイルレコメンダー	○
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	49
	録音	トラック数	16
		データ容量	1曲 約300KB
	フォーマット	録音	SMF (フォーマット 0)
		再生	SMF (フォーマット0、フォーマット1)、XF
録音/再生 (USBオーディオプレーヤー/レコーダー)	録音時間		80分/曲
	フォーマット(再生/録音)		WAV (44.1kHz、16bit、ステレオ)
	タイムストレッチ		○
	ピッチシフト		○
	ボーカルキャンセル		○

ファンクション	レジストレーションメモリー	ボタン数	8
		コントロール	レジストレーションシーケンス、フリーズ
	レッスン/ガイド		フォローライツ、エニキー、カラオキー、ユアテンポ
		ガイドランプ	○
		パフォーマンスアシスタント	○
	デモ		○
	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5～500、タップ
		トランスポーズ	-12～0～+12
		チューニング	414.8～440.0～466.8 Hz
		スケール(音律)	9タイプ
その他	ピアノルーム	○	
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約2.8MB
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー (市販)
	接続端子	ヘッドフォン	ステレオ標準フォーン端子(×2)
		マイク	マイク/ライン入力、インプットボリューム
		MIDI	IN、OUT、THRU
		AUX IN	ステレオミニ端子
		AUX OUT	L/L+R,R
		AUX PEDAL	○
		USB TO DEVICE	○ (×1)
		USB TO HOST	○
音響	アンプ出力		25W×2
	スピーカー		16cm×2
	アコースティックオブティマイザー		○
電源	定格電源		AC100V 50/60Hz
	消費電力		22W
	オートパワーオフ		○
付属品			取扱説明書 (本書)、データリスト、保証書、製品ユーザー登録のご案内、ヘッドフォン、iPad留め具 (ホルダー)、電源コード、イス
別売品			ヘッドフォン(HPE-160)、フットスイッチ (FC4A/FC4/FC5)、フットコントローラー (FC7)、USB無線LANアダプター (UD-WL01)、iPhone/iPod touch/iPad用USB MIDIインターフェース(i-UX1)、iPhone/iPod touch/iPad用MIDIインターフェース(i-MX1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。取扱説明書の最新版につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

A

ABリピート	77
AIフィンガード	61
AIフルキーボード	61
AUX IN	104
AUX OUT	103

B

BACKUP/RESTORE	112
----------------------	-----

C

CONFIG1	111
CONFIG2	111

D

DSP	52
-----------	----

E

EFFECT	101
EQ	101

F

FILTER	101
--------------	-----

H

Hz (ヘルツ)	50
----------------	----

I

IAC	19
iPad	108
iPhone	108

L

LCD	21, 25
-----------	--------

M

MENU1/MENU2	30
MF登録	96
MIDI	110
MIDI録音	79

O

OWNER	111
-------------	-----

P

PANEL PART	101
PARAMETER LOCK	111

R

RESET	112
-------------	-----

S

SETUP FILES	112
-------------------	-----

SONG CH	101
STYLE PART	101

T

TUNE	101
------------	-----

U

USB	30, 111
USB画面	31
USB機器	106
USBフラッシュメモリー	106
USB無線LANアダプター	108

V

VOL/VOICE	101
VRM	49

W

WAV	84
-----------	----

X

XGボイス	44
-------------	----

イ

イコライザー	101
一時停止	72
移調→トランスポーズ	50
移動	34
イントロ	62

ウ

歌う	90
----------	----

エ

エフェクト	51, 101
エンディング	62

オ

オーディオ	84
オーディオ音量	86
オーディオ(再生)	84
オートパワーオフ	18
オーナーネーム	22
音の高さ	50, 86
オルガンフルート	53
音律	57
音量(オーディオ)	86
音量(ボイス、スタイル、ソング、マイク、オーディオ)	68
音量(マスターボリューム)	19
音量(ミキサー)	100, 101

カ

ガイド	76
楽譜	74

歌詞	74, 75
楽器音	44
楽器全体にかかわる設定	111
カット	34
画面	21, 25

キ

キーカバー	16
-------------	----

ク

組み立て方	113
繰り返し再生	77

ケ

言語	21
鍵盤パート	47

コ

コード鍵域	59
コードチューナー	61
コード表	60
効果→エフェクト	51
コピー	34
困ったときは	116
コンピューター	108
コンプレッサー	102

サ

再生(スタイル)	58
再生(ソング)	71
削除	35

シ

システム	111
自動伴奏→スタイル	58
仕様	125
初期化(USBフラッシュメモリー)	107
初期化(楽器本体)	39
シングル フィンガー	61
シンクロスタート(スタイル)	59, 62
シンクロスタート(ソング)	72
シンクロストップ	62

ス

スーパーアーティキュレーションボイス	50
スケール→音律	57
スタート/ストップ(スタイル)	62
スタイル	58
スタイル オン/オフ	58
スタイルクリエイター	70
スタイルの互換性	70
スタイルの特徴	59
スタイルレコメンダー	65
スタイルを制作する	70
ステップ録音	83
ステレオフォニックオブティマイザー	20
スプリットポイント	69

セ

セクション	63
接続	103

ソ

ソステヌートペダル	23
ソフトペダル	23
ソング	71
ソングクリエイター	83
ソング選択	71
ソング選択画面	71

タ

ダイレクトアクセス	28
多重録音	82
タッチ感度	55
タッチレスポンス	55
タップ	63
タブ	26
ダンパーペダル	23

チ

チャンネル(スタイル)	67
チャンネル(ソング)	75
チューニング(チューン)	50, 101

テ

デモ(ソング)	24
デモ(ボイス)	45
電源	17, 18
テンポ	63

ト

トーク	91
トラック1(右手)	76
トラック2(左手)	76
トランスポーズ	50

ナ

名前(ファイル/フォルダー)	33
----------------------	----

ハ

バージョン	22
パート(スタイル)	67
ハーフペダル	23
ハーモニー	52
ハーモニー /エコー	57
バックアップ	38
バックアップファイル	38
パネル設定	97
ハブ	106
早送り	73
早戻し	73
バランス	68
パン	101
バンク	98
パンチイン/アウト録音	83

ヒ

ピアノリセット	48
ピアノルーム	40
ピアノロック	48
左手パート	46
ビブラート	54

フ

ファイル	30, 32
ファイル選択画面	30
ファンクション	111
フィルイン	63
フィルター	101
フィンガード	61
フィンガード オンベース	61
フィンガリングタイプ	60
フォーマット	11
フォルダー	32
付属品	4
フットコントローラー	105
フットスイッチ	105
譜面	74
譜面立て	16
プリセット	30
フルキーボード	61
ブレイク	63
プロテクトソング	73

ヘ

ペダル	23
ヘッドフォン	20

ホ

ボーカルキャンセル	87
ボイス	44
ボイスセット	57
ボイスの種類	47
ボイスを編集する→ボイスセット	57
保存	81
保存(バックアップ)	38

マ

マイク	90, 104
マルチフィンガー	61

ミ

ミキサー	100
右手1パート	44
右手2パート	45
ミュージックファインダー	92

ム

無線LAN	108
-------------	-----

メ

メイン	63
メイン画面	29
メッセージ	28

メトロノーム	56
--------------	----

モ

文字を入力する	36
戻る	27

ユ

ユーザー	30
ユーティリティ	111

ヨ

予約	72
----------	----

リ

リストア	38
リズム	58
リファレンスマニュアル	4

レ

レジストレーションメモリー	97
練習	76
連続再生(オーディオ)	86
連続再生(ソング)	77, 78

ロ

録音(MIDI)→録音(ソング)	79
録音(オーディオ)	88
録音(ソング)	79

ワ

ワンタッチセッティング	64
-------------------	----

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、または下記の修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店または下記の修理ご相談センターへご相談ください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

修理ご相談センター



携帯電話、
IP電話からは

0120-149-808

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸) 06-6649-9340

有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または下記の修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)

* お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンパ辻ビル 7F

FAX 06-6649-9340

◆ クラビノーバの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の販売店または下記のお客さまコミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客さまコミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



携帯電話、
IP電話からは

0120-139-808

050-3852-4079

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客さまサポートLINE公式アカウント

* 名称、住所、電話番号、営業時間などに変更になる場合があります。

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・電子ピアノサイト
<https://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハサポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ
<https://yamahamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

© 2015 Yamaha Corporation
2025年2月発行
KSMA-C0



ZN76520